

和泉市の福祉に関するアンケート調査結果報告書

【概要】

目 次

I	調査概要.....	2
1	調査概要.....	2
	（1）調査目的.....	2
	（2）調査方法と回収結果.....	2
2	報告書の見方.....	2
II	18 歳以上対象調査の結果.....	3
1	回答者の属性.....	3
2	18 歳以上対象調査各種結果.....	5
	（1）障がい福祉サービス等の利用等について.....	5
	（2）就労について.....	14
	（3）医療・健康について.....	20
	（4）外出・余暇活動について.....	22
	（5）地域活動・障がいへの理解について.....	27
	（6）安心・安全について.....	32
	（7）強度行動障がいについて.....	35
III	医療的ケア者対象調査（18 歳以上）の結果.....	40
1	回答者の属性.....	40
2	医療的ケア者対象調査（18 歳以上）各種結果.....	42
	（1）ケアの状況や相談支援等について.....	42
	（2）障がい福祉サービス等の利用について.....	49
	（3）安心・安全について.....	54
IV	18 歳未満対象調査の結果.....	58
1	回答者の属性.....	58
2	18 歳未満対象調査各種結果.....	60
	（1）育成・就学について.....	60
	（2）進学・就労について.....	66
	（3）障がいへの理解やこどもの意見を伝えることについて.....	68
	（4）障がい児福祉サービスの利用について.....	72
	（5）強度行動障がい児や医療的ケア児への対応について.....	77

令和 8 年 3 月 6 日時点

和泉市

I 調査概要

1 調査概要

(1) 調査目的

本調査は「第5次和泉市障がい者計画」「第8期和泉市障がい福祉計画及び第4期和泉市障がい児福祉計画」を策定するにあたり、障がいのある方やそのご家族が抱える地域生活の課題や福祉サービスに対するニーズ等を把握し、計画策定に必要な基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 調査方法と回収結果

	18歳以上対象調査	18歳未満対象調査	医療的ケア者対象調査 (18歳以上)
調査対象	障がい者手帳を所持している18歳以上市民	障がい者手帳を所持または、障がい児サービスを利用している18歳未満の市民	障がい者手帳を所持している18歳以上のうち、医療的ケアを必要とする市民
対象者数	4,080件	800件	120件
調査方法	郵送による配布・回収（WEB回答が可能な方法を併用）		
調査期間	令和7年12月15日（月）～令和8年1月9日（金）		
回収数	1,518件	370件	60件
回収率	37.2%	46.3%	50.0%

2 報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

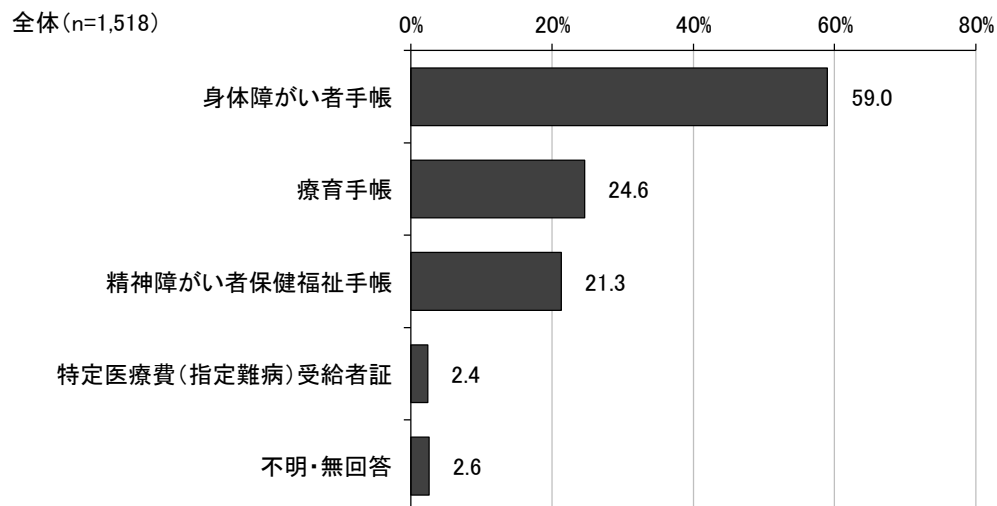
◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

◇クロス集計表は、表側の項目ごとに **第1位** **第2位** **第3位** を示しています。

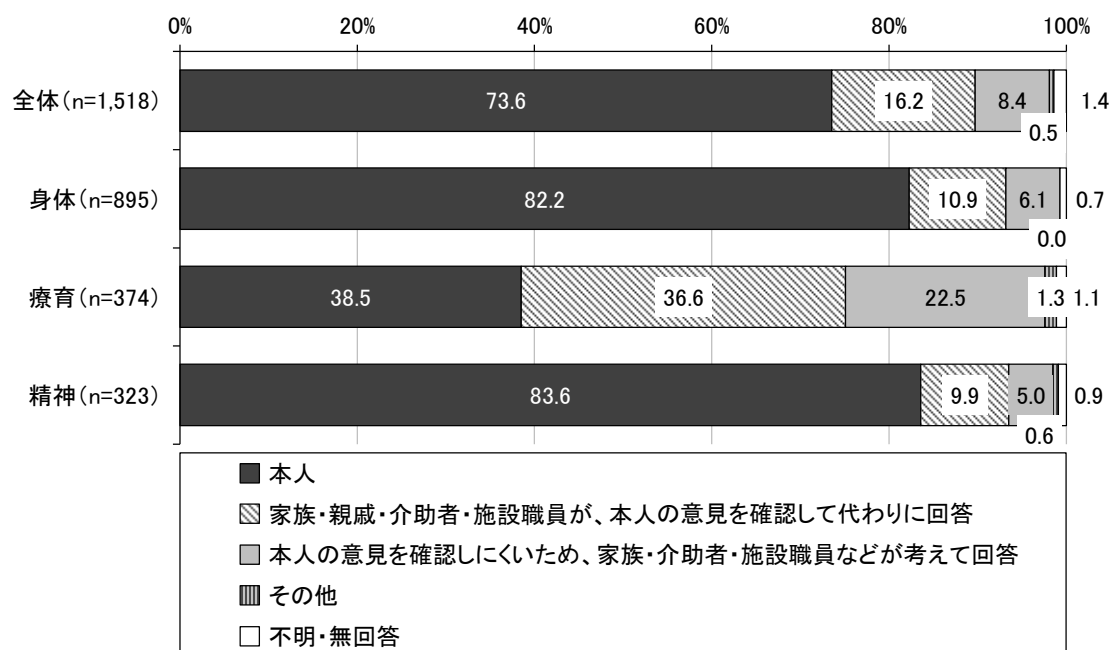
II 18 歳以上対象調査の結果

1 回答者の属性

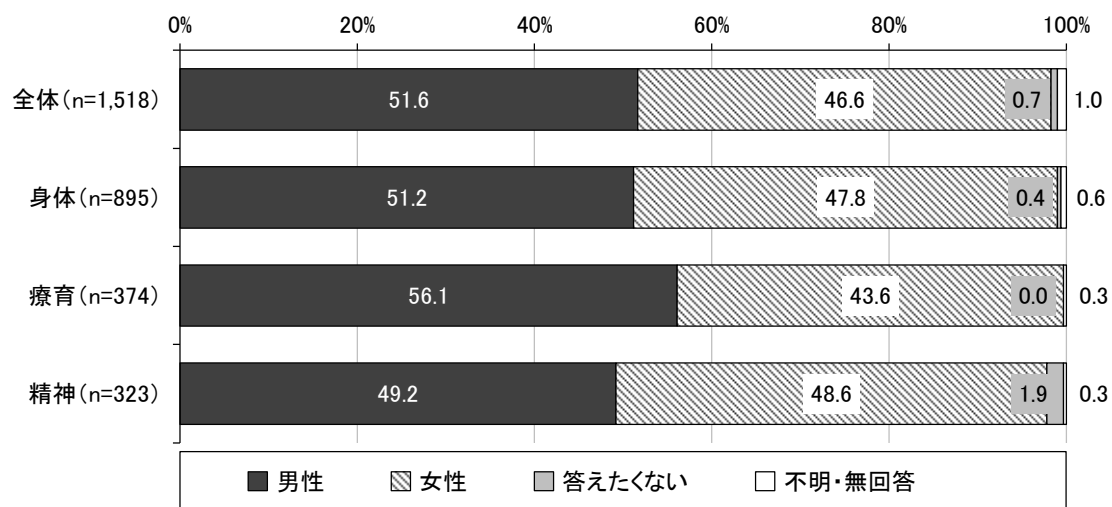
問9 あなたがお持ちの手帳の種類は何ですか。(複数選択)



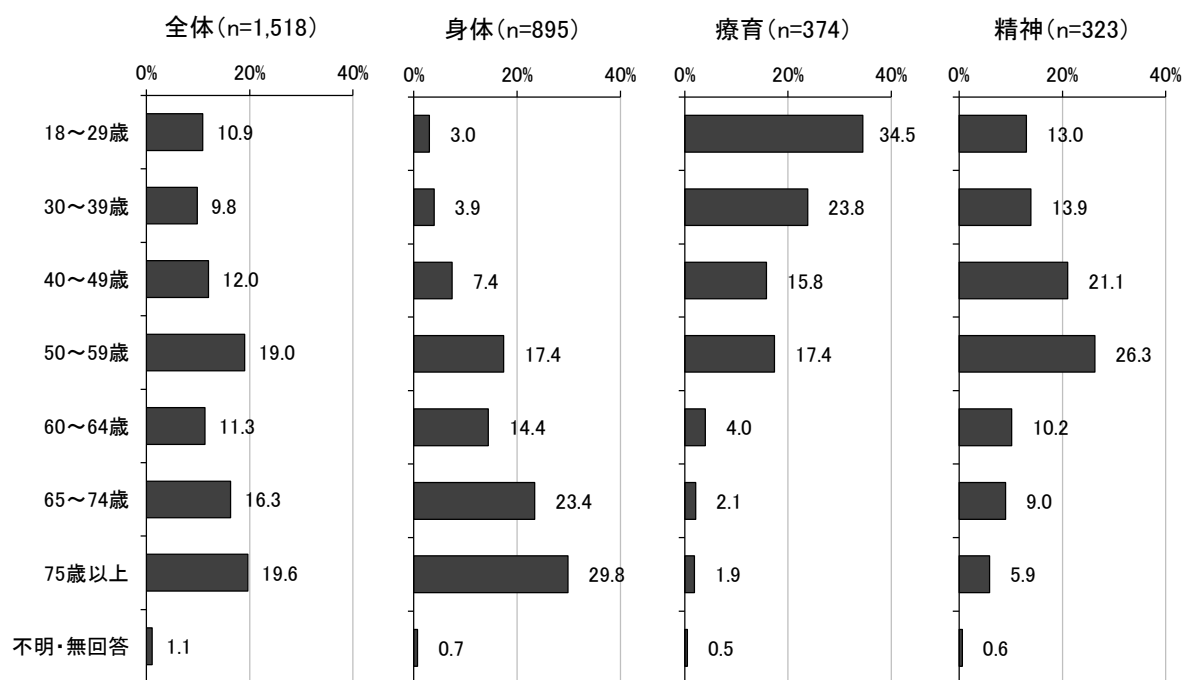
問1 お答えいただくのは、どなたですか。(選択は1つ)



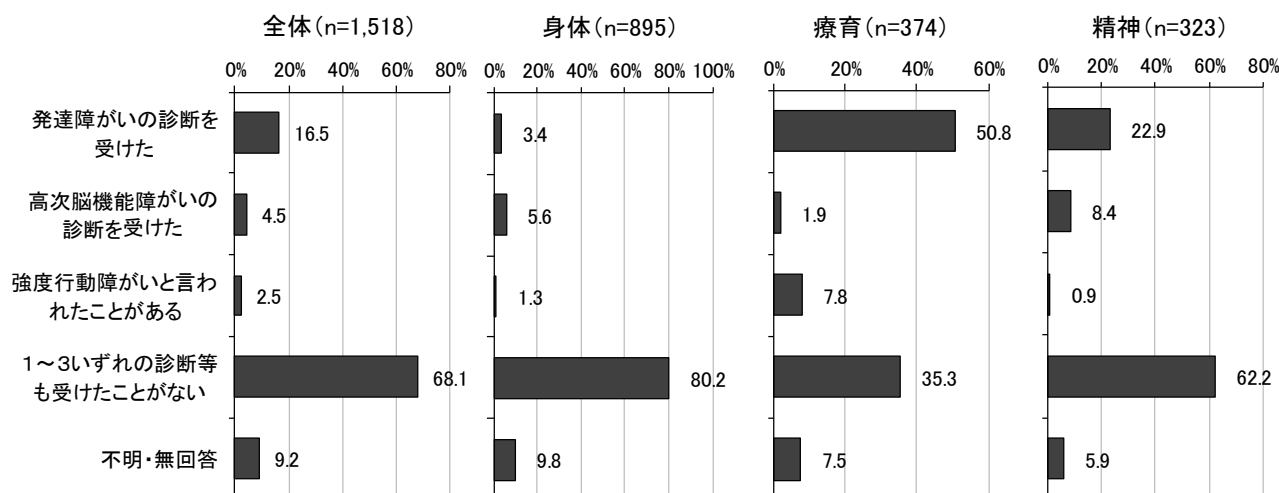
問2 あなたの性別をお答えください。(選択は1つ)



問3 あなたの年齢をお答えください。(令和7年12月1日現在)



問 7 次のような診断等を受けた（疑いがあると言われた場合も含む）ことはありますか。
（複数選択）



2 18 歳以上対象調査各種結果

（1）障がい福祉サービス等の利用等について

希望する暮らしを実現するために必要なこと

- ・【身体】では「日常生活の介助や支援が充実していること」35.1%、【療育】では「入居できるグループホーム・入所施設が多くあること」40.1%、【精神】では「身近な地域で、困ったときに気軽に相談できること」32.8%が最も高くなっています。〔問 15※1 番目～3 番目合算〕

問 15 あなたが希望する暮らしを実現するために必要なことは何ですか。（複数選択）

単位：%		設入 居が多 くある グルー プホー ム・入 所施 施設	障が い（一 般住 宅等） に配 慮さ れた こと	希 望す る暮 らし を体 験・ 練習 でき るこ と	日 常生 活の 介助 やサ ービ スが 充実 して いる こと	お 金の 管理 や生 活上 の法 的・ 行政 的な 手続 が簡 便な こと	身 近な 地域 で、 困っ た時 きに 気軽 に相 談で きる こと	情 報の 取得 や利 用が 容易 なこ と	経 済的 な自 立の ため に就 労で きる こ と	在 宅で 医療 的・ ケア など が適 切に 得ら れる こと	同 じ障 がい があ る人 との 交流 や相 談が でき るこ と	地 域住 民等 の理 解や 配慮 があ るこ と	そ の 他	と くに 必要 なも のな い	不 明・ 無回 答
全体 (n=1,518)		18.5	18.1	10.5	32.2	16.3	27.2	7.8	14.5	11.9	10.6	13.8	3.0	21.9	17.2
手 帳 別	身体 (n=895)	15.1	19.6	7.0	35.1	7.8	26.5	7.0	9.1	15.9	8.5	13.0	3.1	26.1	19.4
	療育 (n=374)	40.1	13.1	19.3	39.0	38.0	22.7	7.2	13.9	5.3	10.7	13.1	2.9	7.5	14.4
	精神 (n=323)	9.9	19.8	13.0	25.1	17.6	32.8	11.8	31.0	7.1	16.7	18.0	3.4	20.1	12.4

将来の不安について

- ・ 【身体】【療育】では「一緒に暮らす人が、高齢になること、病気になること、亡くなること」が49.1%、65.0%、【精神】では「年金や給料などの経済的なこと」で58.5%が最も高くなっています。年齢別にみると、18～49歳では「一緒に暮らす人が、高齢になること、病気になること、亡くなること」、50～59歳では「年金や給料などの経済的なこと」、60歳以上では「病気などになった時のこと」が最も高くなっています。〔問19〕

問19 あなたは将来のことでどんな不安がありますか。(複数選択)

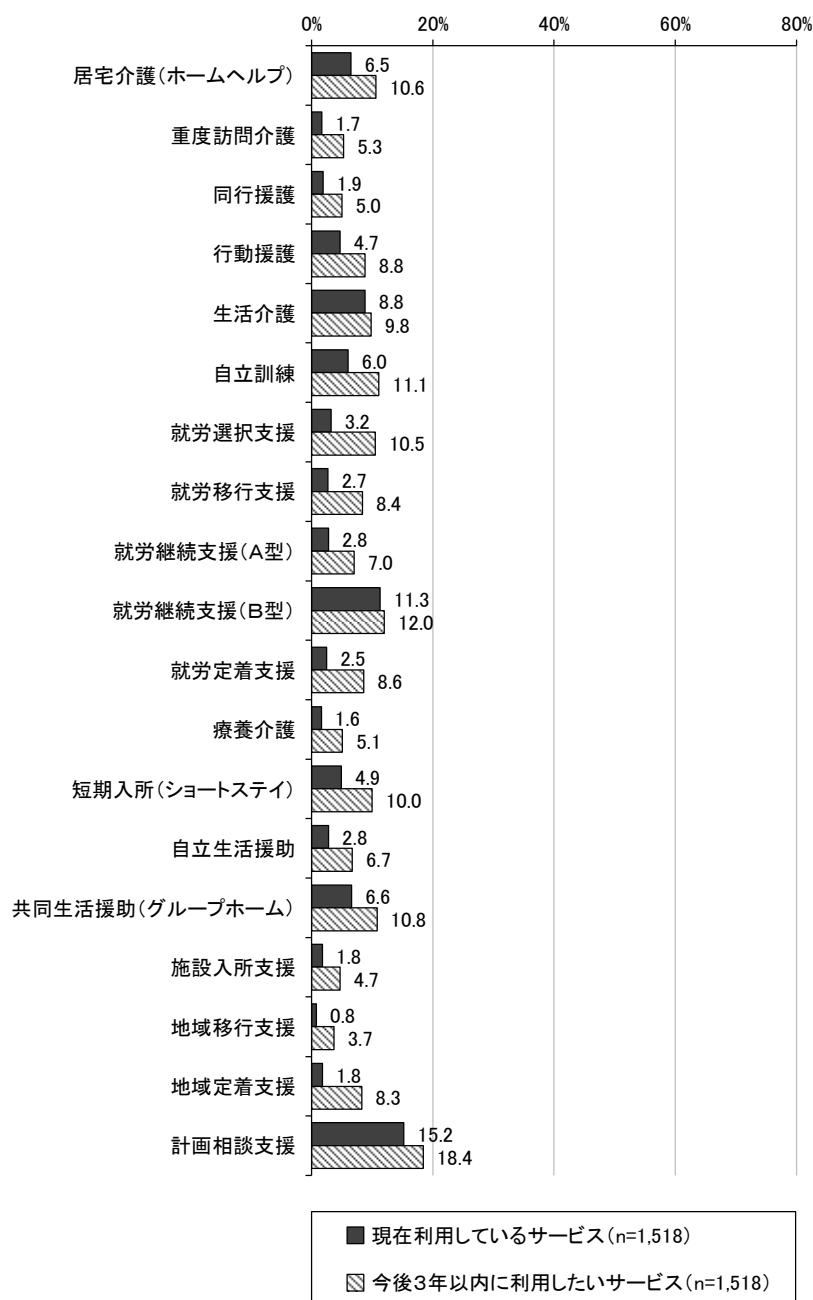
単位: %		一緒に暮らす人が、高齢になること、亡くなること	病気などになった時のこと	身のまわりの世話や介護をしてくれる人のこと	住む場所に関する事	就職や仕事に関する事	年金や給料などの経済的なこと	その他	わからない	とくに不安はない	不明・無回答
全体 (n=1,518)		51.1	45.6	34.0	16.1	15.6	44.5	2.9	3.8	5.8	4.2
手帳別	身体 (n=895)	49.1	46.9	36.3	12.5	9.6	44.6	3.2	3.1	6.3	4.7
	療育 (n=374)	65.0	39.0	42.2	21.4	16.8	34.8	2.1	5.3	5.3	2.4
	精神 (n=323)	48.0	49.5	26.3	22.0	31.3	58.5	2.8	3.4	2.5	2.2
年齢別	18～29歳 (n=165)	64.8	31.5	30.9	24.2	35.2	46.7	1.8	4.8	4.2	0.0
	30～39歳 (n=149)	63.1	41.6	30.2	22.1	26.8	52.3	3.4	0.7	4.7	2.0
	40～49歳 (n=182)	60.4	48.4	32.4	19.8	25.3	46.7	2.2	1.1	4.9	2.2
	50～59歳 (n=289)	42.9	44.3	31.5	16.6	20.4	50.9	2.8	6.6	4.5	3.5
	60～64歳 (n=171)	47.4	56.7	32.7	15.2	13.5	49.1	3.5	1.2	4.1	4.1
	65～74歳 (n=247)	47.0	48.2	36.8	13.4	3.2	38.5	4.5	5.3	7.3	6.1
	75歳以上 (n=298)	45.6	46.6	39.3	9.4	1.0	34.9	2.0	3.7	8.7	7.4

障がい福祉サービスの利用状況と利用意向

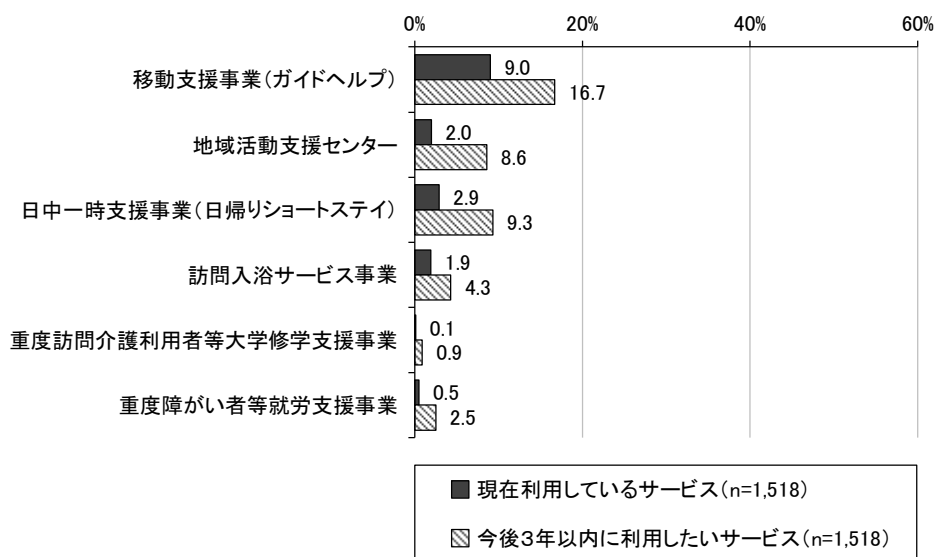
- ・ 現在利用しているサービスは「計画相談支援」「就労継続支援B型」「移動支援事業（ガイドヘルプ）」が高くなっています。また、現在利用しているサービスと今後3年以内に利用したいサービスを比較すると、障がい福祉サービスでは、「就労選択支援」「就労定着支援」「地域定着支援」、地域生活支援事業では、「移動支援事業（ガイドヘルプ）」「地域活動支援センター」「日中一時支援事業（日帰りショートステイ）」は、6～7ポイント、利用希望が上回っています。〔問20〕

問20 ①現在障がい福祉サービスを利用していますか②今後3年以内に利用したいと思いますか。

障がい福祉サービス（全体）



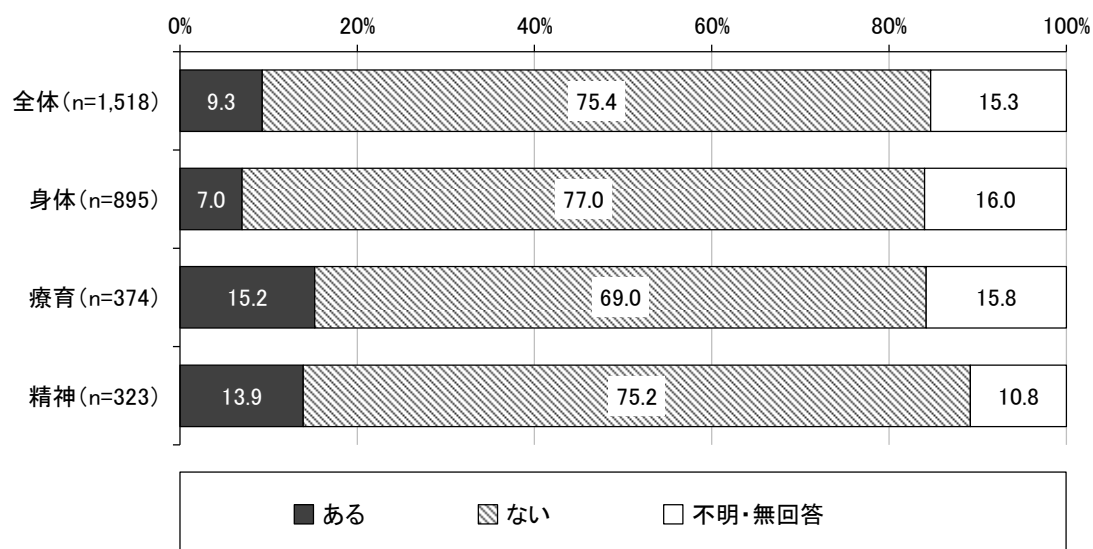
地域生活支援事業（全体）



利用を希望しているが利用できていないサービスの有無

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも利用できていないサービスは「ない」が77.0%、69.0%、75.2%と最も高くなっています。一方、利用できていないサービスが「ある」は【身体】7.0%、【療育】15.2%、【精神】13.9%となっています。〔問21①〕

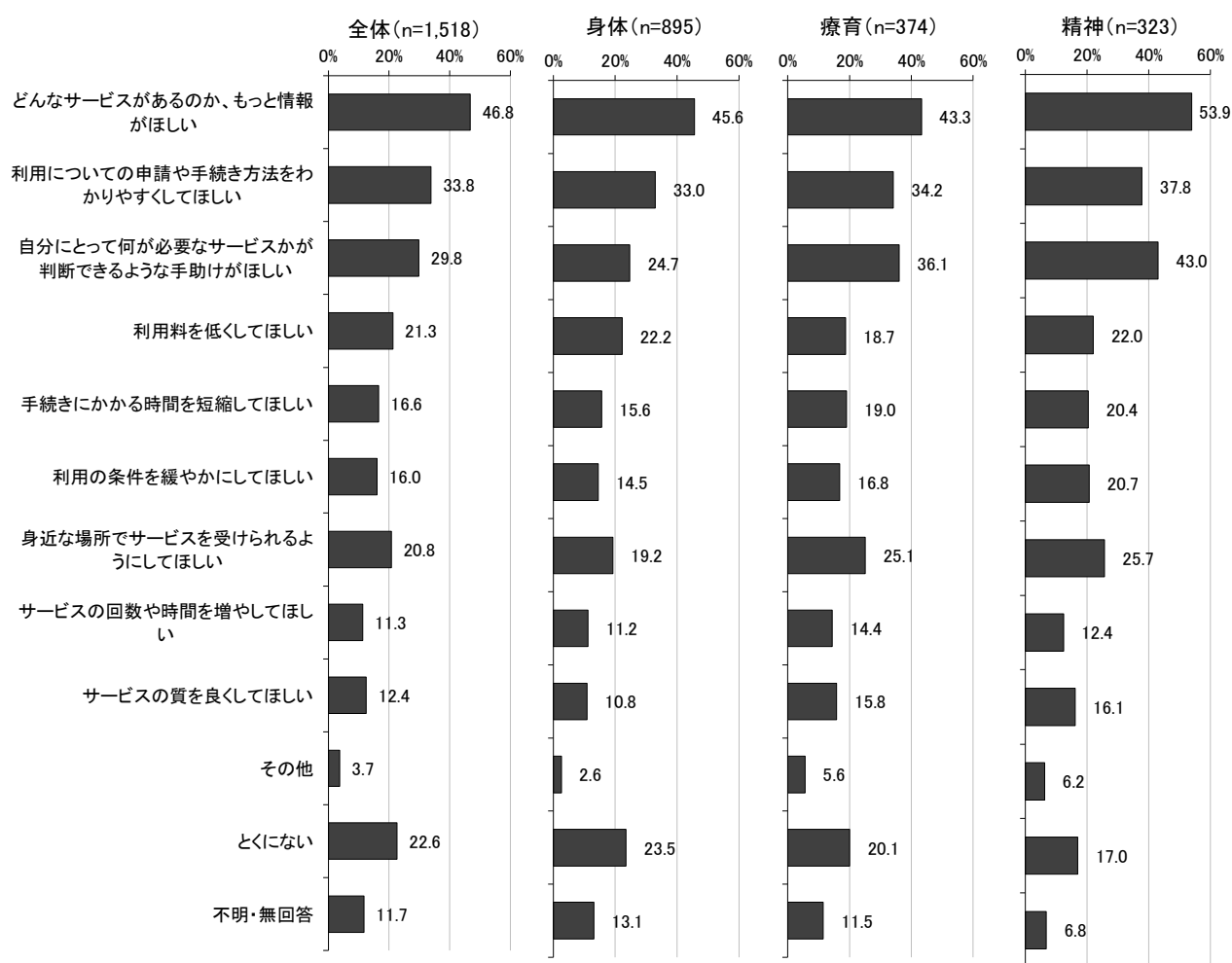
問21①あなたは、現在利用を希望しているものの、利用できていない障がい福祉サービスなどがありますか。（選択は1つ）



障がい福祉サービスを利用しやすくするために必要な支援

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」がそれぞれ45.6%、43.3%、53.9%と最も高くなっています。次いで【身体】では「利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい」33.0%、【療育】【精神】では「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」がそれぞれ36.1%、43.0%となっています。〔問22〕

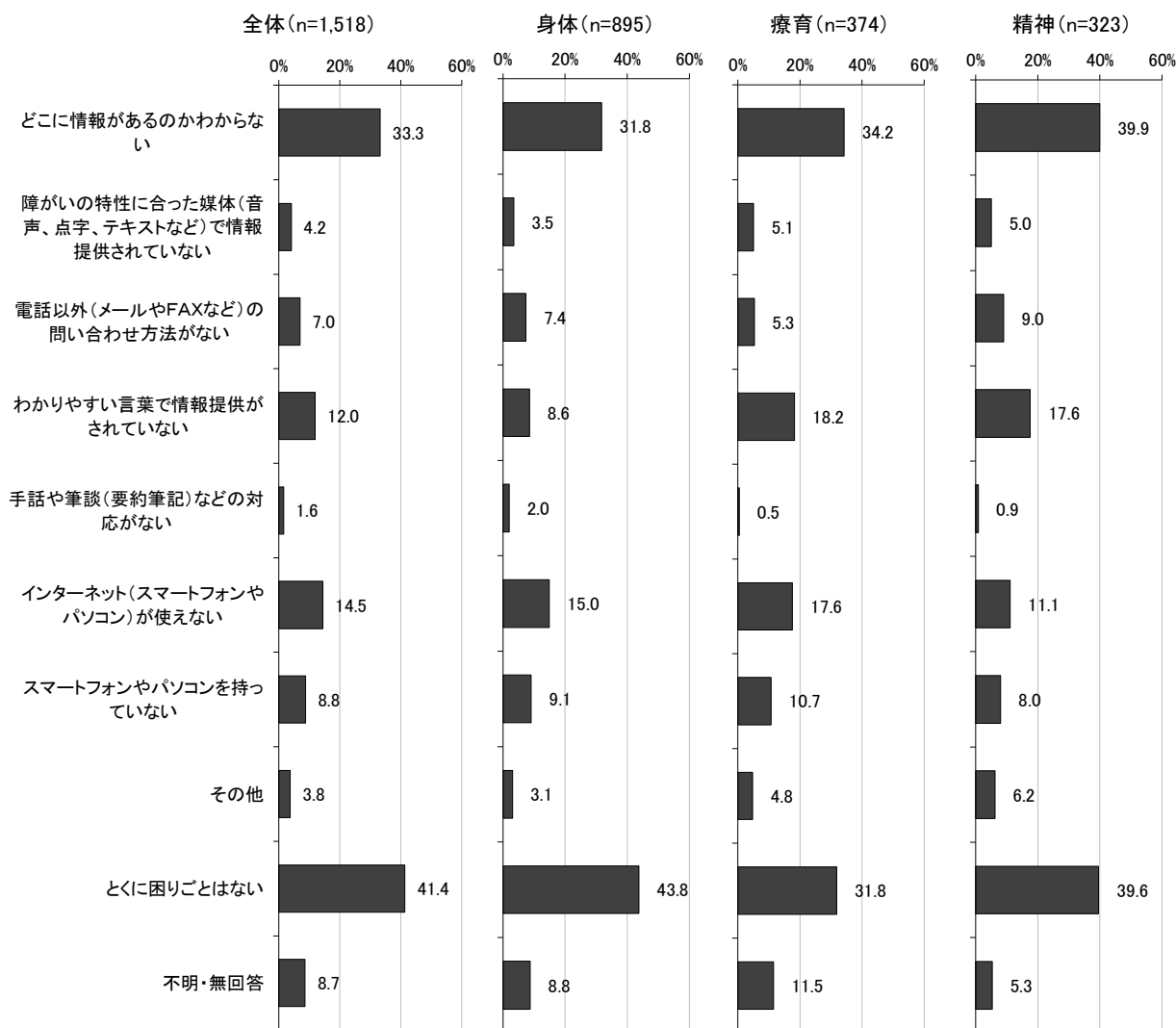
問22 あなたが障がい福祉サービスなどを利用しやすくするためにどのような支援が必要ですか。（複数選択）



情報入手の困りごと

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「どこに情報があるのかわからない」「とくに困りごとはない」が上位2項目となっています。また、【療育】【精神】では「わかりやすい言葉で情報提供がされていない」がそれぞれ18.2%、17.6%となっています。〔問25〕

問25 あなたが情報を入力するときに困っていることは何ですか。(複数選択)

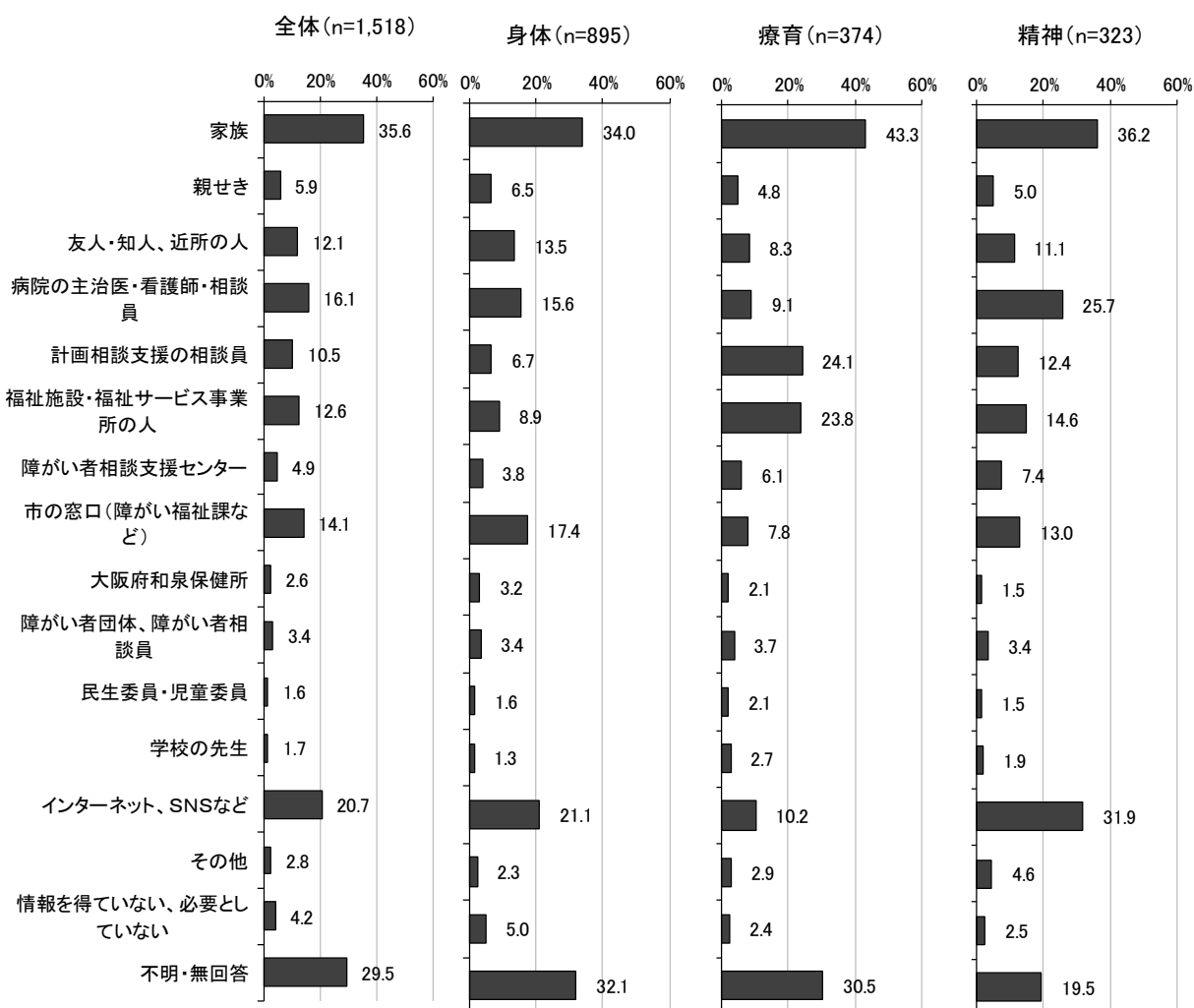


生活や福祉に関する情報の入手先

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「家族」がそれぞれ 34.0%、43.3%、36.2%と最も高くなっています。次いで【身体】【精神】では「インターネット、SNSなど」がそれぞれ 21.1%、31.9%、【療育】では「計画相談支援の相談員」24.1%となっています。〔問 27 ②〕

問 27②生活や福祉に関する情報は、誰から入手していますか。

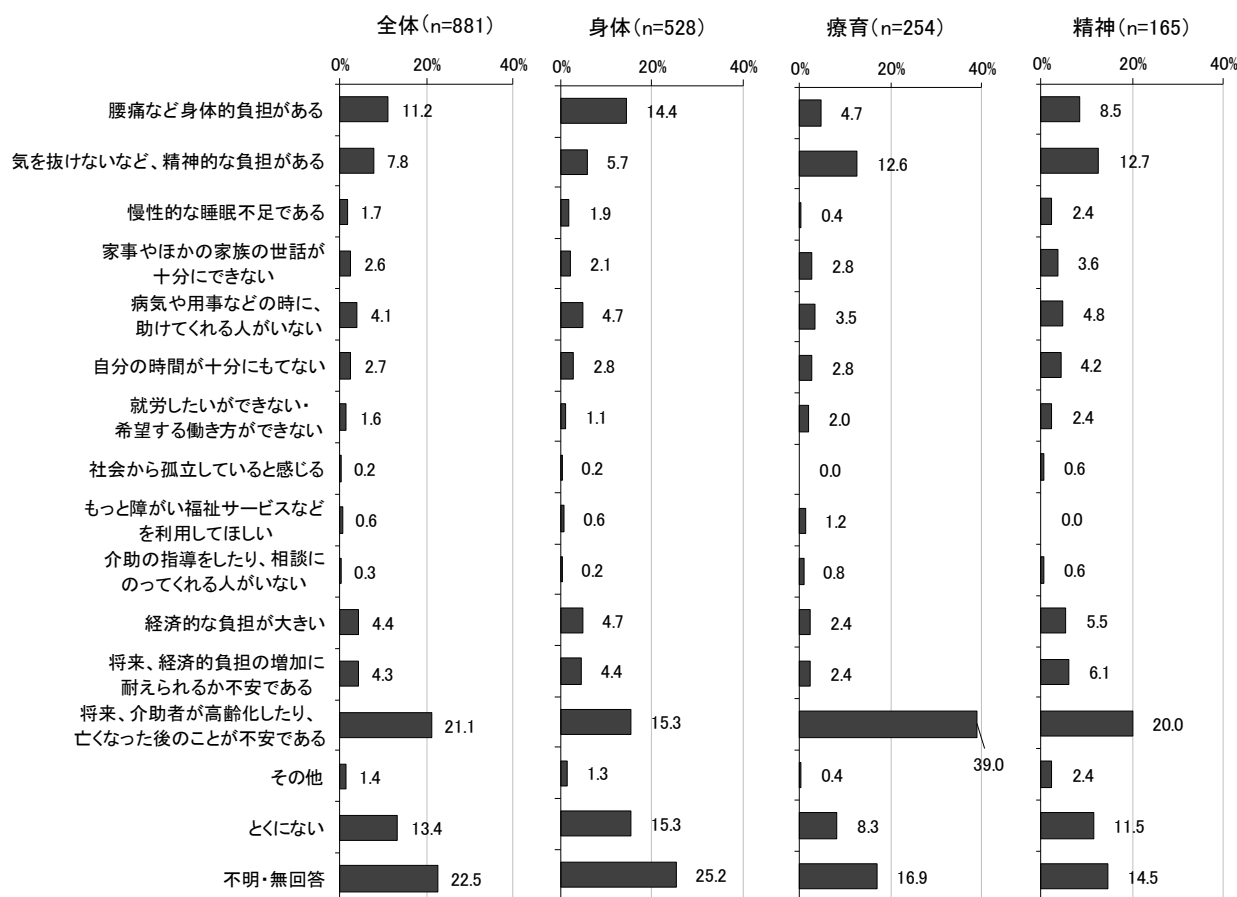
(複数選択)



主な介助者の悩みや心配ごと

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「将来、介助者が高齢化したり、亡くなった後のことが不安である」が最も高く、特に【療育】では約4割を占めています。次いで【身体】では「腰痛など身体的負担がある」が14.4%、【療育】【精神】では「気を抜けないなど、精神的な負担がある」約1割となっています。〔問62〕

問62【主な悩み】 主な介助者の方は、介助をする上で何か悩みごとや心配ごとがありますか。



【課題】

- ◆ 現在のサービス利用は、日常生活支援や就労系のサービス利用が主となっています。現在と希望の差をみると、今後３年以内に「就労選択支援」や「就労定着支援」を希望する層が一定数存在します。新規サービスである「就労選択支援」を適切に機能させ、本人の能力・適性に合った選択を支援する体制整備が必要です。また、就労や地域生活に関するアセスメント・相談支援へのニーズが高く、当事者の生活に対する伴走型の支援が求められています。
- ◆ 希望をしてもサービス利用できていない人は一定数みられ、利用促進のためには、情報不足や申請手続きの難しさの解消が求められています。本人が必要とするサービスを判断できるような丁寧なサポート体制を構築する必要があります。
- ◆ 情報の入手先が「家族」に偏っているほか、情報の困りごとでは、わかりやすい情報の不足が課題となっています。インターネット・SNSで情報入手する人も少なくなく、障がい者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法を踏まえ、デジタル技術を活用したアクセシビリティ向上や、知的・精神障がいのある方にもわかりやすい言葉（やさしい日本語等）での情報提供を拡大することが重要です。
- ◆ 介助者の高齢化による不安が特に高く、緊急時の受入体制や住まいの確保が求められます。また、成年後見制度の利用促進や意思決定支援の浸透により、本人の意向を尊重した権利擁護を推進することが重要です。
- ◆ 【療育】【精神】を中心に介助者の精神的負担が大きく、ショートステイのニーズの高さなども踏まえ、レスパイトケアの充実が求められています。介助者の負担軽減は虐待の未然防止にもつながるため、短期入所等の柔軟な利用促進や、ピアサポートを通じた家族への心のケアなど、「介助者支援」の視点を強化した取組が必要です。

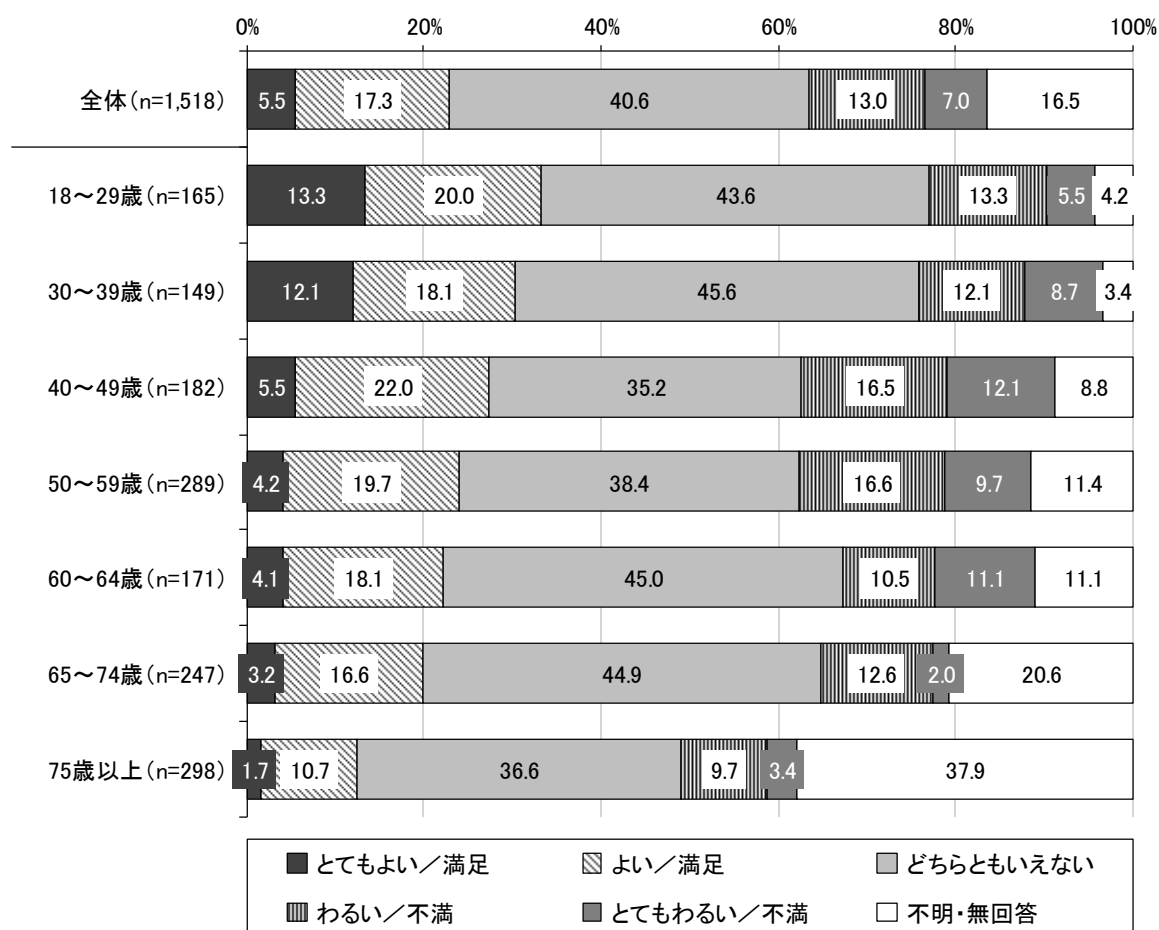
(2) 就労について

収入や働きがいの満足度について

- 『満足傾向』（「とても満足」「満足」の合計）は、18～39歳で3割台と、『不満傾向』（「不満」「とても不満」の合計）を10ポイント程度上回っています。一方、40～64歳は『満足傾向』『不満傾向』ともに2割台で、同程度となっています。〔問18⑧〕

問18 あなたの現在の生活について5段階で評価してください。

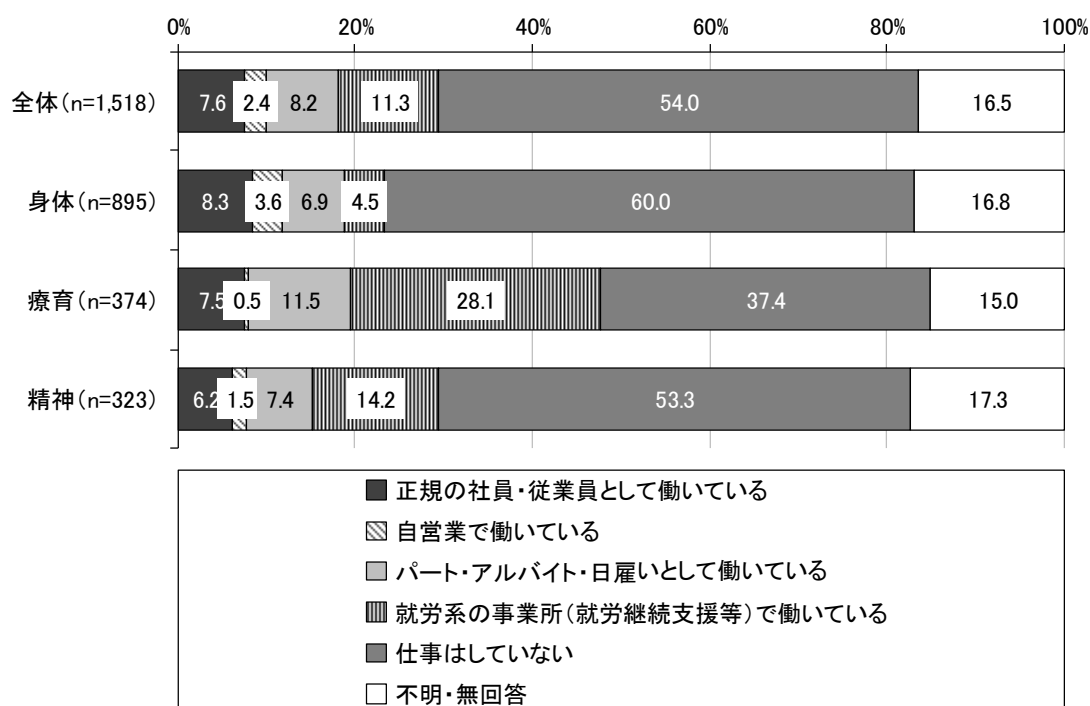
⑧収入や働きがい（ひとつだけ選択）



現在の就労状況

- ・ 「仕事をしている」（「正規の社員・従業員として働いている」「自営業で働いている」「パート・アルバイト・日雇いとして働いている」「就労系の事業所（就労継続支援等）で働いている」を合計）は、【身体】で 23.3%、【療育】で 47.6%、【精神】で 29.3%となっています。就労の内訳をみると、いずれの障がい種別も一般就労は 10%台後半となっています。就労形態は、【身体】では「正規の社員・従業員として働いている」が 8.3%、【療育】【精神】では「就労系の事業所（就労継続支援等）で働いている」がそれぞれ 28.1%、14.2%と最も高くなっています。〔問 37①〕

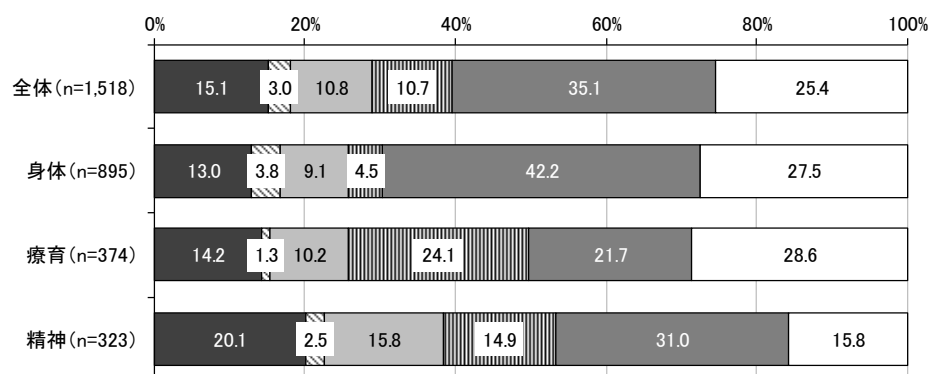
問 37①現在、仕事をしていますか。（選択は 1 つ）



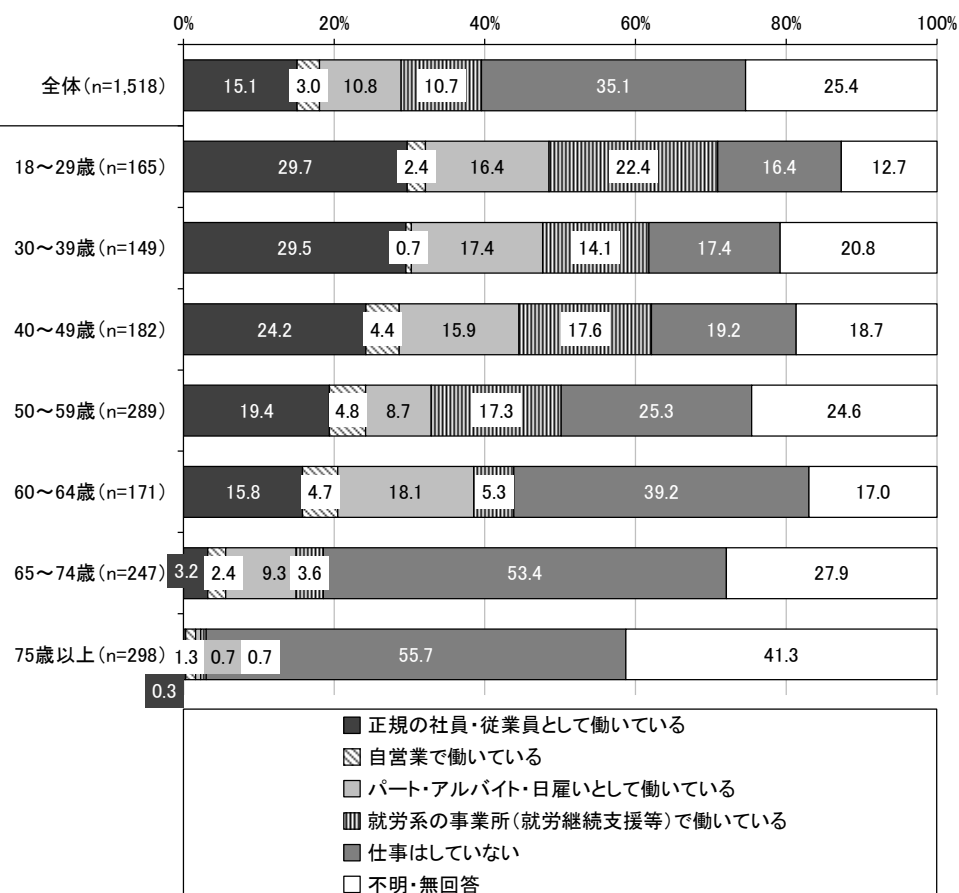
今後3年以内の就労希望

- 現状の就労状況と比較すると【身体】【療育】【精神】いずれも「仕事はしていない」を希望する層は15～22ポイント減少しています。【精神】では、「正規の社員・従業員として働いている」を希望は20.1%（現状+13.9ポイント）、「パート・アルバイト・日雇いとして働いている」を希望は15.8%（現状+8.4ポイント）と、特に精神障がいのある方で一般就労への意欲が高い傾向がみられます。年齢別でみると、18～49歳では、「正規の社員・従業員として働いている」を希望は20%台と、50歳以上よりも高くなっています。〔問37②〕

問37②今後3年以内で、仕事についてどうしたいですか。（選択は1つ）



(年齢別)



日中の過ごし方について

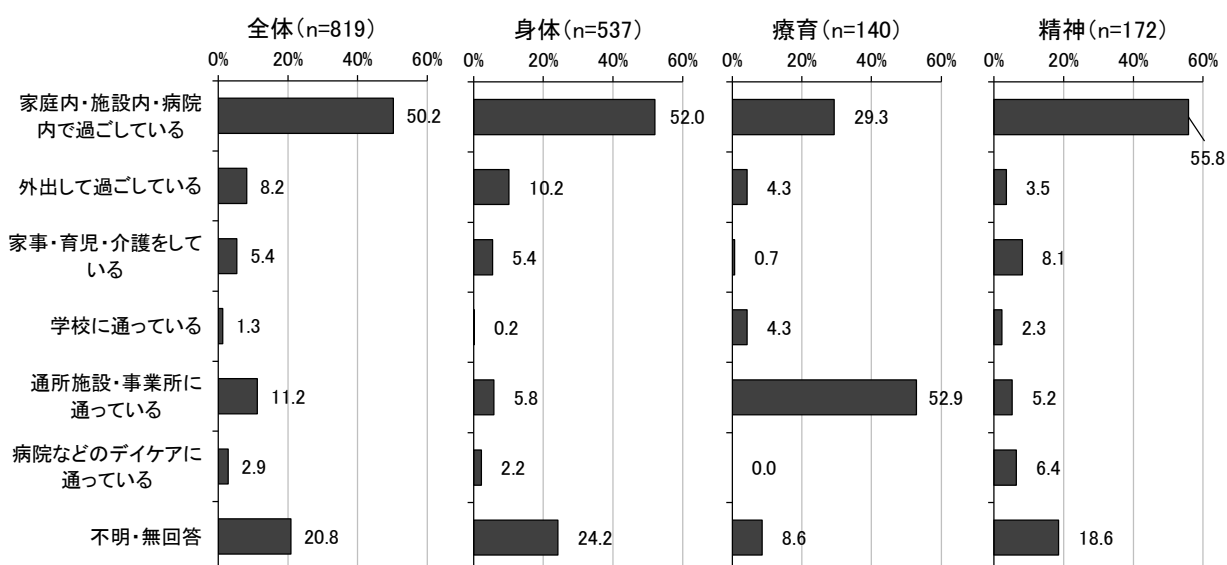
- ・【身体】【精神】では「家庭内・施設内・病院内で過ごしている」がそれぞれ 52.0%、55.8%と最も高く、【療育】では「通所施設・事業所に通っている」が 52.9%で最も高くなっています。〔問 40①〕

日中の過ごし方の希望について

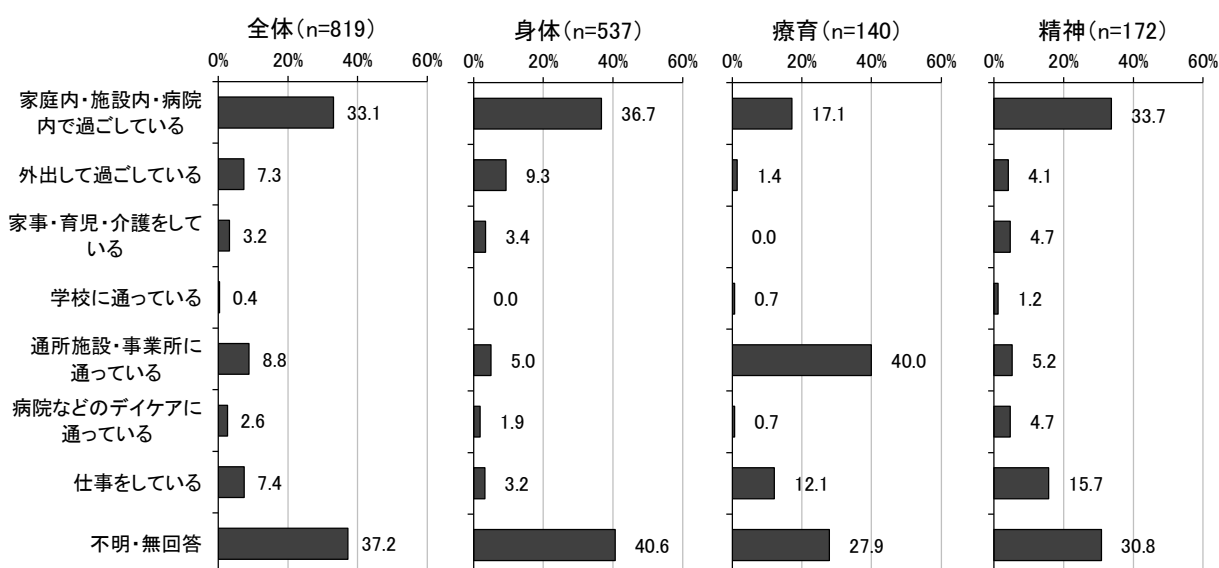
- ・【身体】【精神】では「家庭内・施設内・病院内で過ごしている」がそれぞれ 36.7%、33.7%と最も高く、【療育】では「通所施設・事業所に通っている」が 40.0%で最も高くなっています。「仕事をしている」は【精神】で 15.7%と、他の障がい種別と比較して高くなっています。〔問 40②〕

問 40 あなたは、普段、日中は主にどのようにして過ごしていますか。また、今後 3 年以内でどのように過ごしたいですか。

①現在



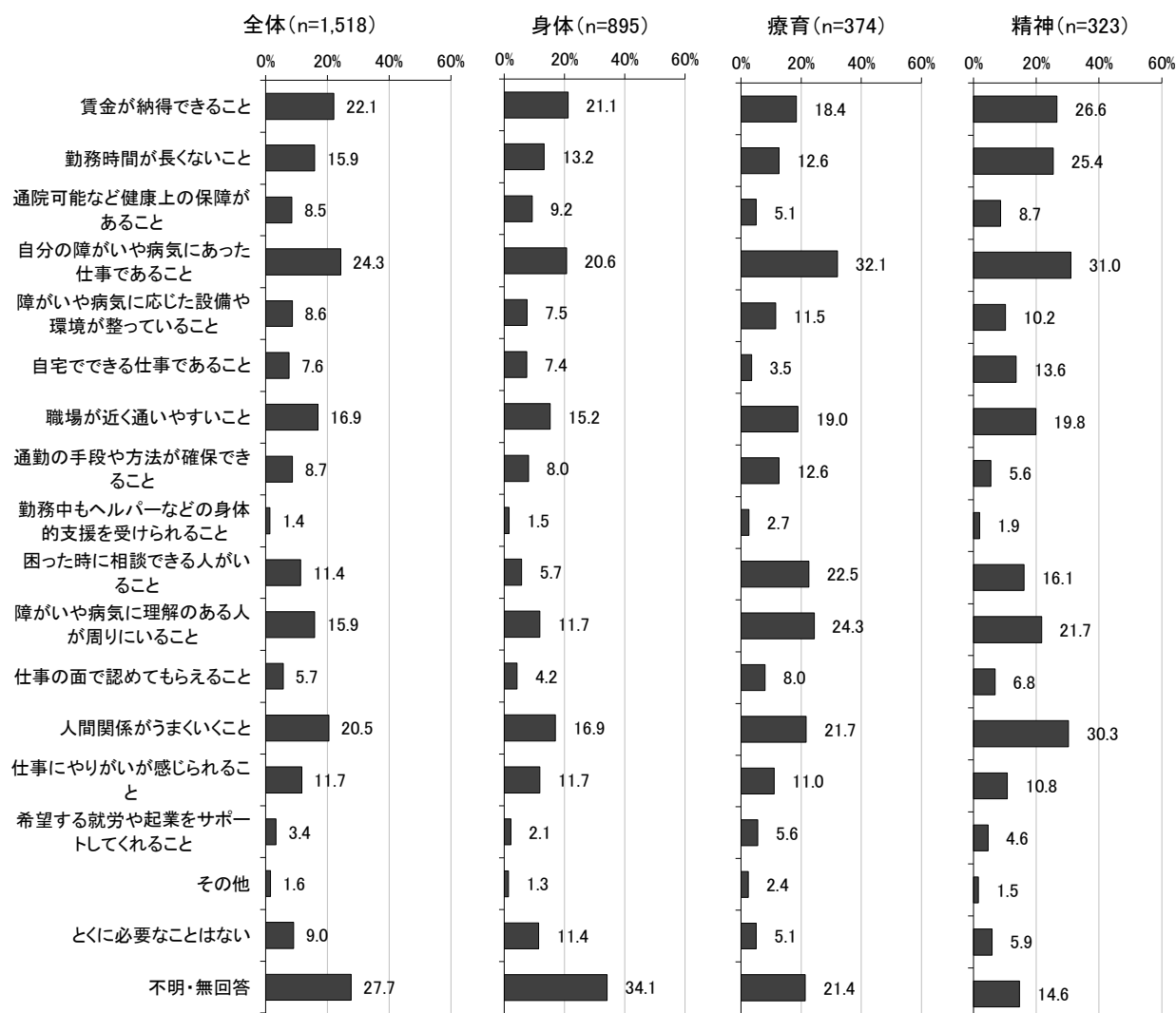
②今後 3 年間



働くこと・長く働き続けるために必要なことについて

- ・【身体】では「賃金が納得できること」が21.1%、【療育】【精神】では「自分の障がいや病気にあった仕事であること」が32.1%、31.0%、と最も高くなっています。【療育】では「困った時に相談できる人がいること」「障がいや病気に理解のある人が周りにいること」、【精神】では「人間関係がうまくいくこと」が他の障害種別より高くなっています。また、【身体】【療育】【精神】いずれも「自分の障がいや病気にあった仕事であること」は上位2項目に入っています。〔問41〕

問41 あなたは、働くことや、長く働き続けるために何が必要ですか。（複数選択）



【課題】

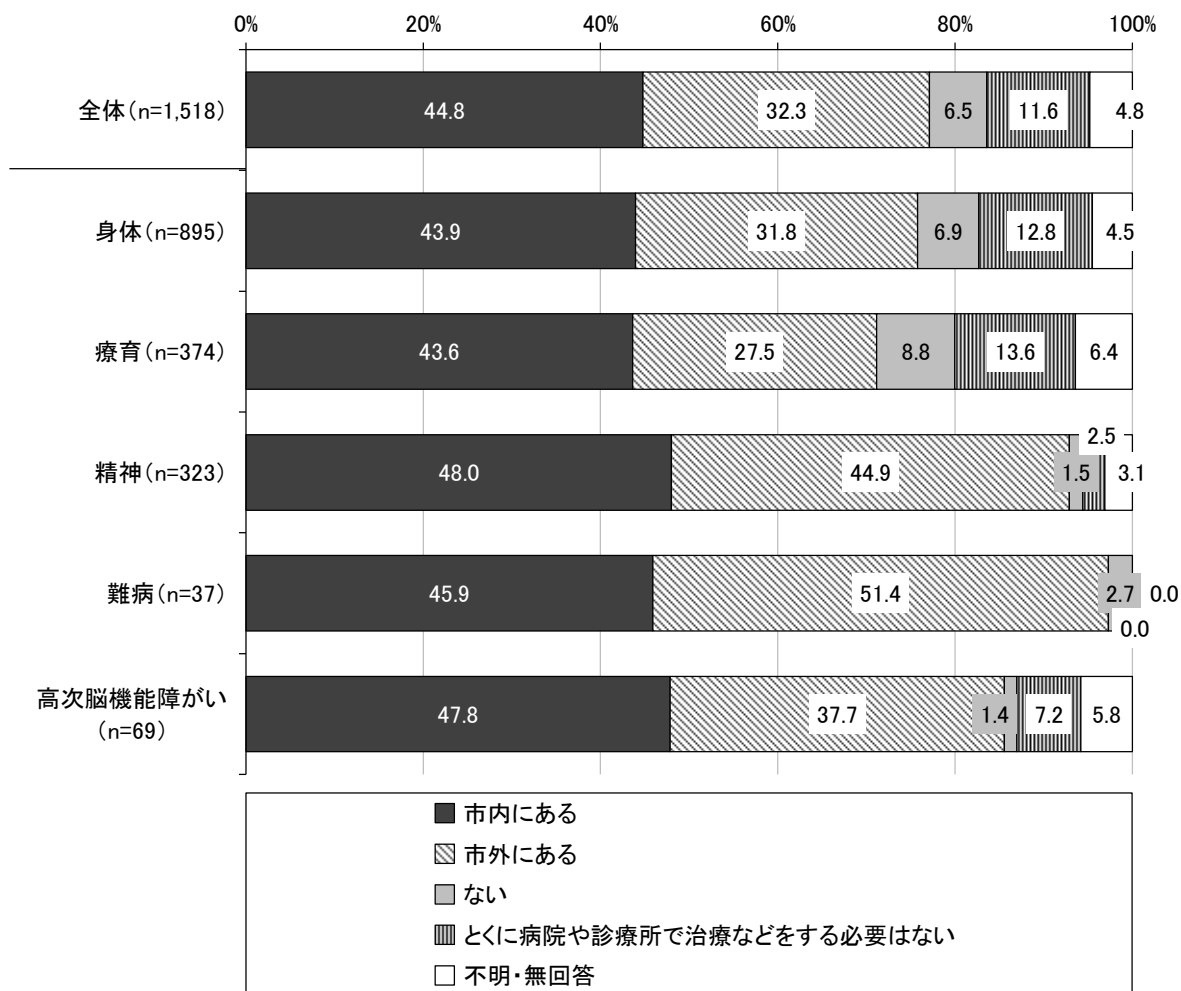
- ◆ 【精神】では一般就労の意欲が高く、【療育】では就労系の事業所（就労継続支援等）の意欲が高くなっています。障がい特性に応じた就労支援、職場開拓、企業への理解促進など、雇用促進に向けた取組の充実が求められています。また、全ての障がい種別で「自分の障がいや病気にあった仕事」が求められており、障がい特性を活かせる職場とのマッチング支援が必要です。
- ◆ 【身体】では、「賃金が納得できること」が働くための優先順位として高くなっています。工賃向上や受注機会の拡大など、障がい者の経済的自立を支える取組が必要です。
- ◆ 就労継続の条件として精神では「人間関係」が挙げられ、療育では「困った時の相談相手」「障害への理解者」のニーズが高くなっています。一般就労への移行だけでなく、長期的な就労定着に向け、職場での合理的配慮の浸透や人間関係の調整を図るなど、障がい特性に応じた支援が必要です。

(3) 医療・健康について

治療を受けている医療機関の所在地

- ・ いずれの障がい・診断種別も「和泉市内」が4割～5割台となっています。「和泉市外」は、【精神】【難病】では4割半ばから5割台と他の種別と比較して高くなっています。〔問30〕

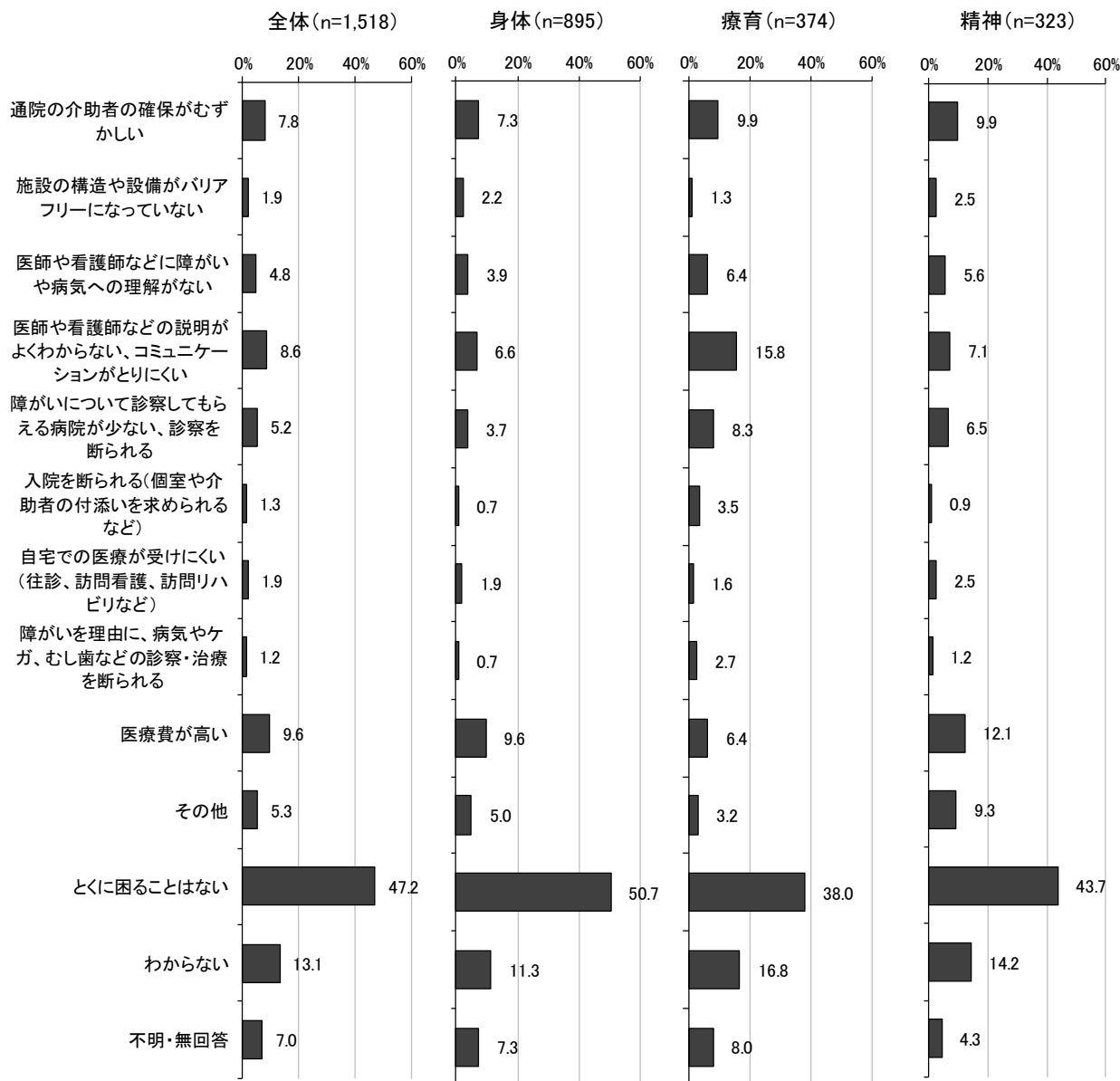
問30 あなたが障がいの治療などを受けている病院や診療所はどこにありますか。(選択は1つ)



病院での困りごとについて

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「とくに困ることはない」が最も高く、【身体】では半数を占めています。「わからない」を除くと、次いで、【身体】【精神】では「医療費が高い」が1割前後、【療育】では、「医師や看護師などの説明がよくわからない、コミュニケーションがとりにくい」が15.8%となっています。〔問31〕

問31 あなたが、病院で診察などを受けるとき、困ることや不満なことは何ですか。（複数選択）



【課題】

- ◆ 【療育】の約16%が医療従事者とのコミュニケーションに困難を感じています。医療機関における合理的配慮の徹底や本人に伝わりやすい情報提供の工夫を医療機関に働きかけていくことが求められます。

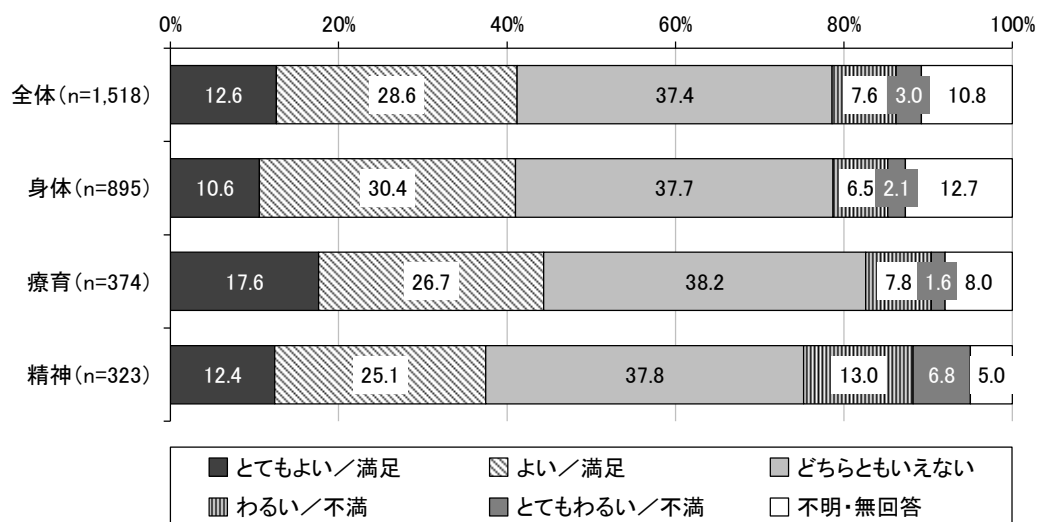
(4) 外出・余暇活動について

趣味や生きがいの満足度

- 『満足傾向』（「とても満足」と「満足」の計）は、【身体】41.0%、【療育】44.3%、【精神】37.5%となっています。一方、『不満傾向』（「不満」と「とても不満」の計）は、【身体】8.6%、【療育】9.4%、【精神】19.8%となっており、特に【精神】で趣味や生きがいへの不満が高くなっています。〔問 18⑥〕

問 18 あなたの現在の生活について5段階で評価してください。

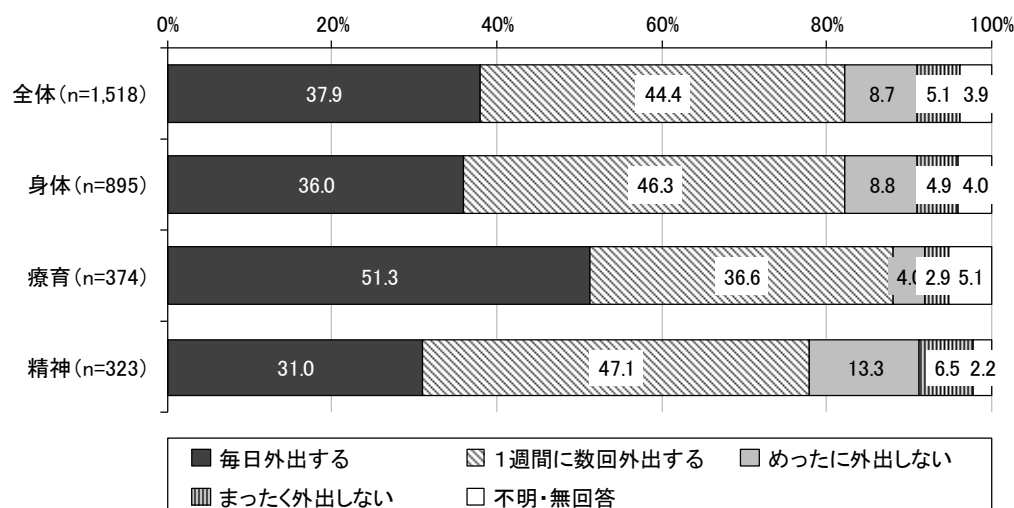
⑥趣味や生きがい（ひとつだけ選択）



外出頻度について

- 【身体】【精神】では「1週間に数回外出する」がそれぞれ46.3%、47.1%と最も高く、【療育】では「毎日外出する」が51.3%と最も高くなっています。『外出しない』（「めったに外出しない」「まったく外出しない」の計）は【身体】13.7%、【療育】6.9%、【精神】19.8%と、【精神】で特に高くなっています。〔問 32〕

問 32 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。（選択は1つ）



外出の目的

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「買い物に行く」がそれぞれ 67.6%、52.9%、67.5%と最も高くなっています。次いで【身体】【精神】では「医療機関への受診」42.5%、49.2%、【療育】では「通所（事業所等）」50.6%となっています。「友人や知人に会う」「趣味やスポーツをする」は約1割～1割台となっています。〔問 33〕

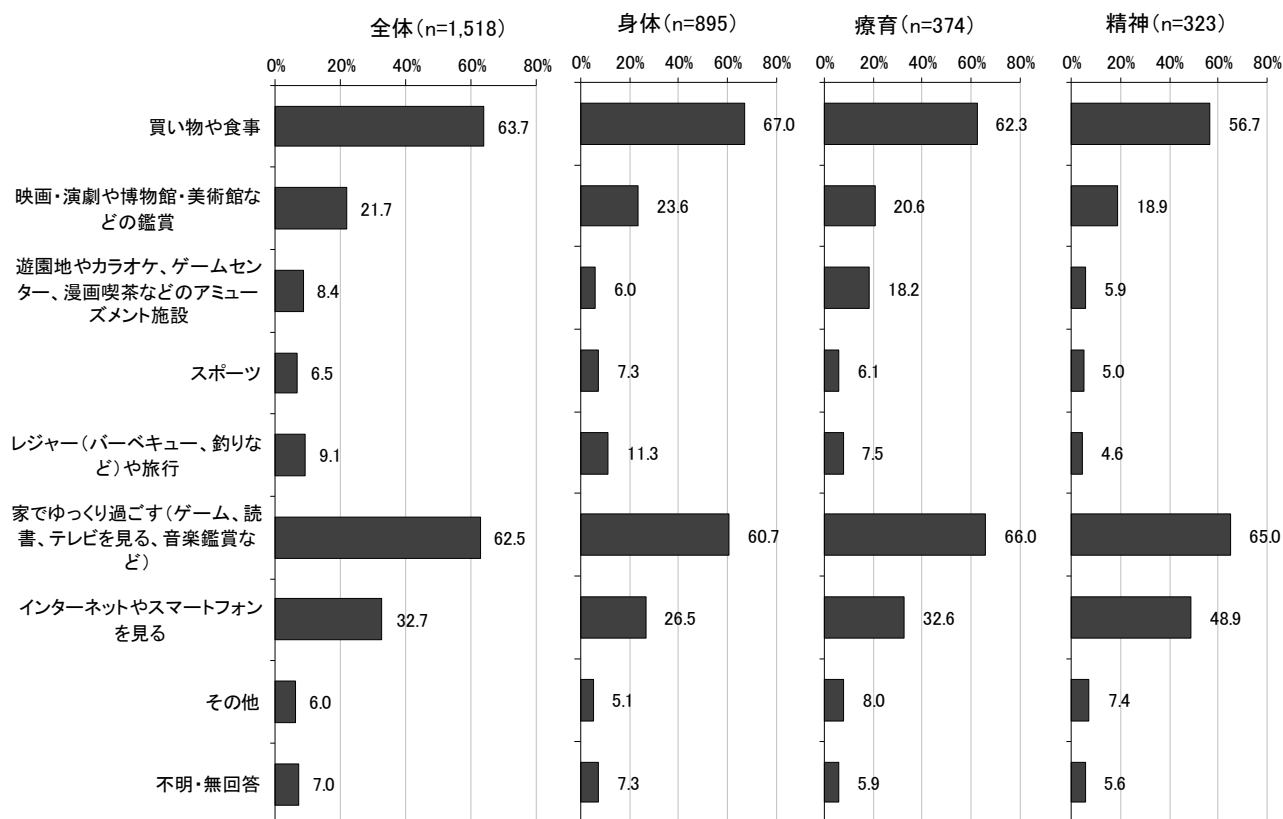
問 33 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（複数選択）

単位：%		通勤・通学	通所（事業所等）	く訓練 やリハビリ に行	医療 機関への 受診	買 い 物 に 行 く	友 人 や 知 人 に 会 う	る趣味 やスポ ーツを す	する グル ープ 活動 に 参 加	散歩 に 行 く	その他	不明・無回答
全体(n=1,381)		28.5	20.0	7.7	40.3	65.0	15.0	15.3	2.2	22.9	5.5	1.5
手帳別	身体(n=815)	28.0	9.7	10.6	42.5	67.6	18.2	16.2	2.5	21.7	4.8	1.3
	療育(n=344)	29.9	50.6	2.6	28.5	52.9	11.3	14.2	2.0	26.2	7.0	1.7
	精神(n=295)	28.5	21.7	6.1	49.2	67.5	9.5	13.6	1.4	19.3	7.1	1.7
年齢別	18～29歳(n=160)	39.4	43.8	3.1	26.3	51.9	18.1	16.9	0.6	23.1	3.1	0.6
	30～39歳(n=141)	41.1	39.7	6.4	28.4	57.4	11.3	14.2	2.1	18.4	8.5	0.7
	40～49歳(n=165)	37.0	28.5	4.2	37.0	64.8	11.5	17.0	3.0	21.2	4.2	1.2
	50～59歳(n=261)	37.9	17.2	5.7	44.1	62.5	11.9	13.8	1.5	18.0	5.7	2.7
	60～64歳(n=154)	40.9	12.3	9.7	37.7	76.6	15.6	12.3	3.2	18.8	5.2	1.9
	65～74歳(n=236)	17.8	8.9	10.6	42.8	72.5	16.9	18.2	2.1	26.3	6.4	1.3
	75歳以上(n=248)	2.8	6.5	11.7	52.4	64.5	18.5	14.1	3.2	29.8	5.2	1.6

余暇活動の状況

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「買い物や食事」「家でゆっくり過ごす（ゲーム、読書、テレビを見る、音楽鑑賞など）」が上位2項目となっています。〔問 35〕

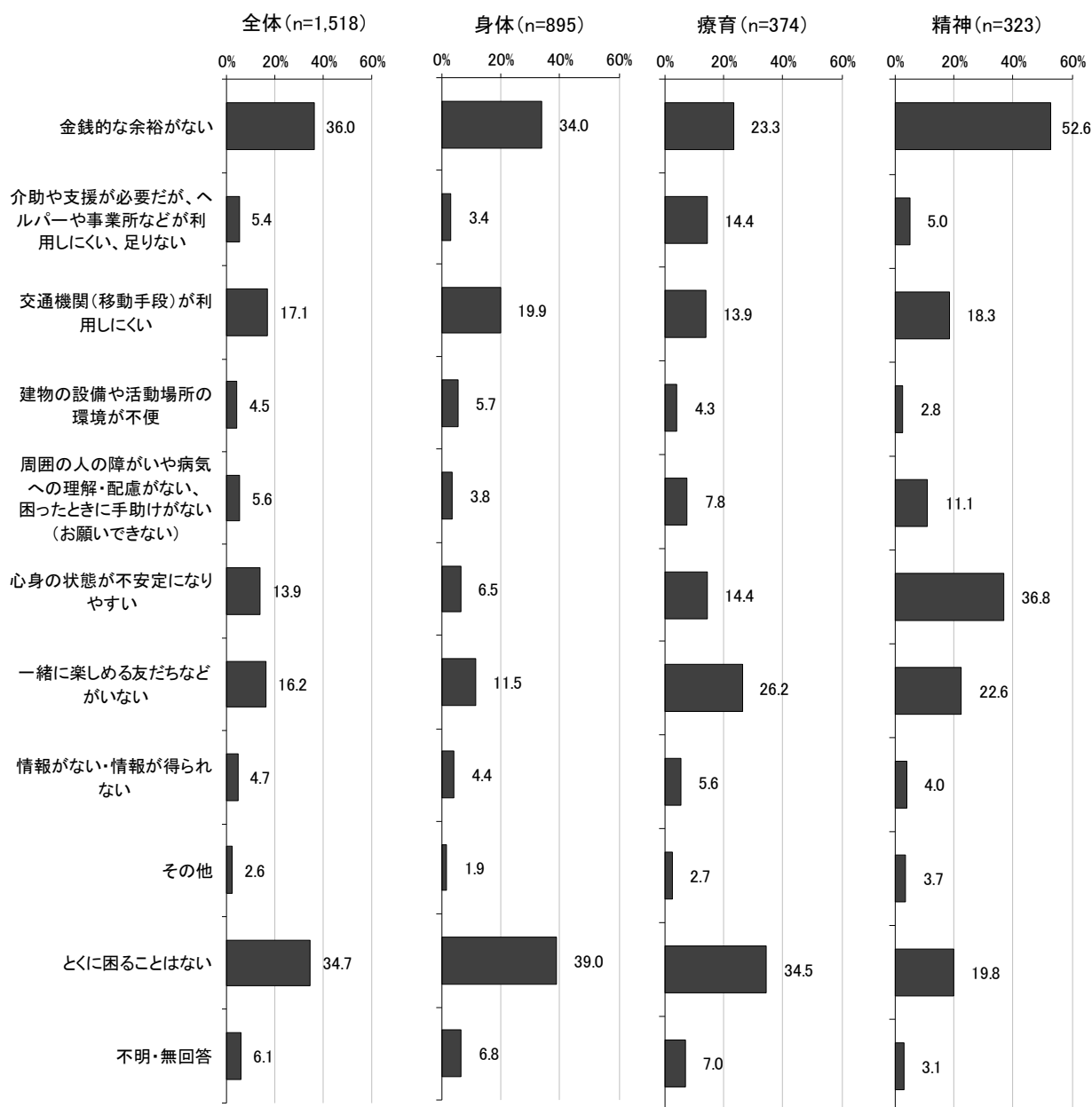
問 35 あなたは、次のような余暇活動を楽しむことができますか。（複数選択）



余暇活動の困りごと

- ・ 【身体】【療育】は「特に困ることはない」が最も高く、次いで【身体】は、「金銭的な余裕がない」が34.0%、「交通機関（移動手段）が利用しにくい」が19.9%【療育】は「一緒に楽しめる友だちなどがいない」が26.2%、「金銭的な余裕がない」が23.3%となっています。
【精神】では「金銭的な余裕がない」が52.6%、次いで「心身の状態が不安定になりやすい」が36.8%「一緒に楽しめる友だちなどがいない」が22.6%となっています。〔問36〕

問36 余暇活動を楽しむ上での困りごとはありませんか。（複数選択）



【課題】

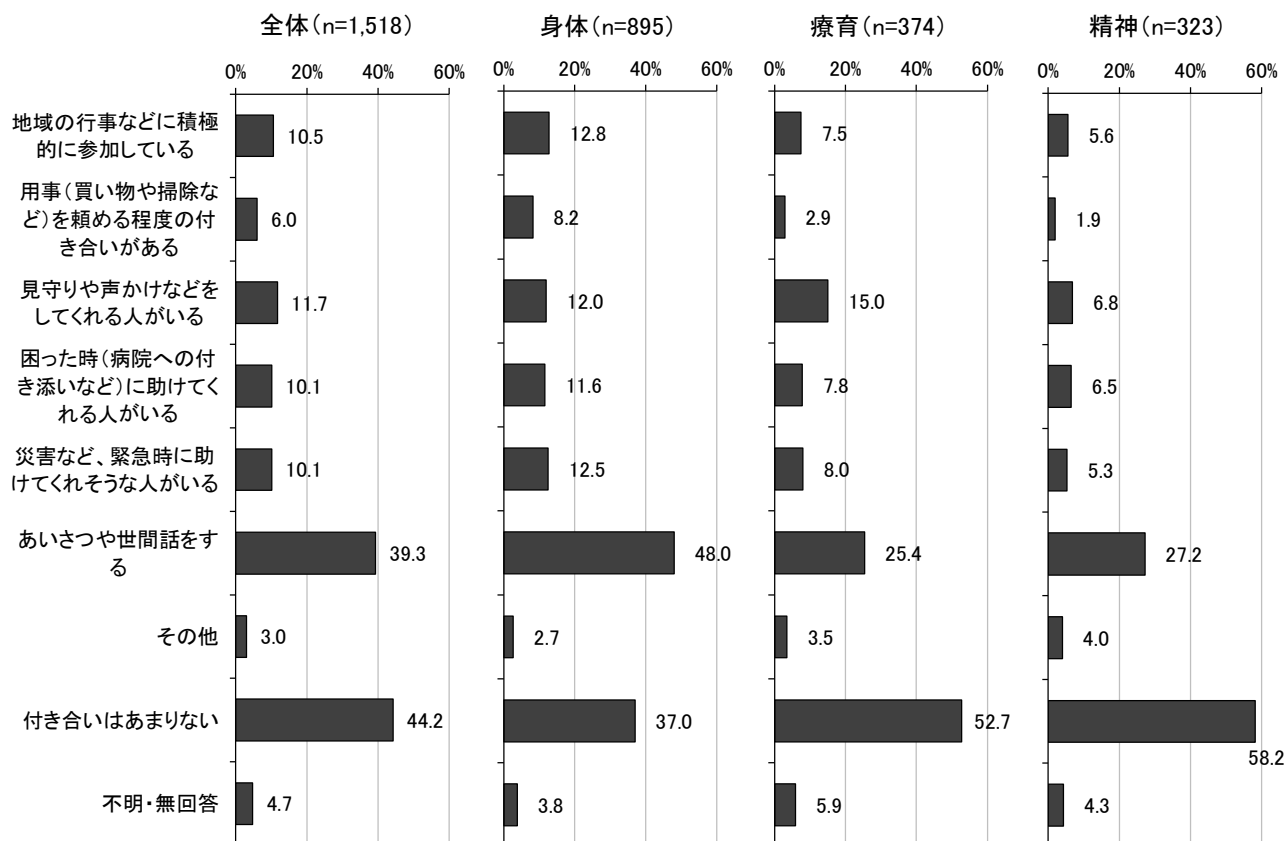
- ◆ 【精神】では、「外出しない」割合や趣味・生きがいへの不満が他の障がい種別より高く、約2割となっています。国の「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の理念に基づき、保健・医療・福祉が連携した相談支援体制の強化、孤独・孤立の防止に向けて社会参加の促進、地域住民との相互理解を深める取組を推進する必要があります。
- ◆ 外出目的が「買い物」や「通院」といった生活上必要な事項にかたよっており、「友人・知人に会う」「趣味・スポーツ」を目的とする層は約1割に留まっています。障がい者による文化芸術活動の推進に関する法律や国の基本指針を踏まえ、障がいのある方が鑑賞、創造、発表等の多様な活動に参加できる環境整備、および地域における障がい者スポーツの実施環境の確保を図り、生きがいの創出と自己実現を支援することが求められます。
- ◆ 【身体】を中心に「交通機関の利用しにくさ」が外出の障壁となっています。バリアフリー法に基づくハード面の整備（公共交通機関や施設の段差解消、ホームドアの整備等）の働きかけの継続に加え、交通事業者や市民に対する「心のバリアフリー」の啓発を推進し、障がいのある方が安全・安心かつ円滑に移動できるまちづくりをさらに進める必要があります。

(5) 地域活動・障がいへの理解について

地域との付き合いについて

- ・ 【身体】は「あいさつや世間話をする」が48.0%、【療育】【精神】は「付き合いはあまりない」がそれぞれ52.7%、58.2%と最も高くなっています。地域との深い関わりを持つ方は少ない状況です。また、【身体】【療育】では「見守りや声かけなどをしてくれる人がある」が12.0%、15.0%となっています。〔問28〕

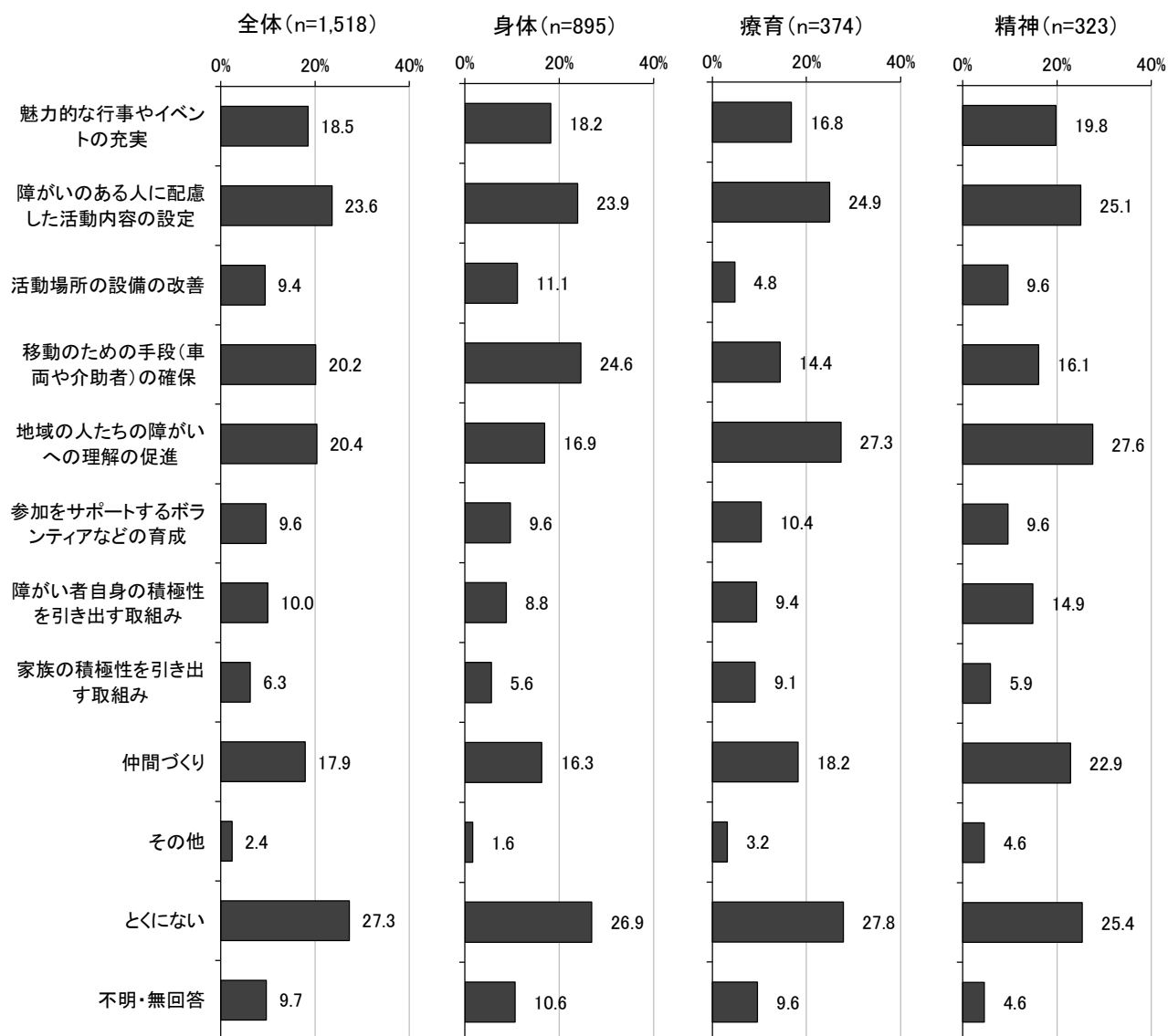
問28 あなたは、地域・近所でどのようなお付き合いをしていますか。(複数選択)



地域活動への参加に大切なこと

- ・ 「とくにない」を除くと【身体】は「移動のための手段（車両や介助者）の確保」が24.6%、【療育】【精神】は「地域の人たちの障がいへの理解の促進」がそれぞれ27.3%、27.6%と最も高くなっています。また、いずれの障がい種別も、「障がいのある人に配慮した活動内容の設定」が3番目に高くなっています。〔問29〕

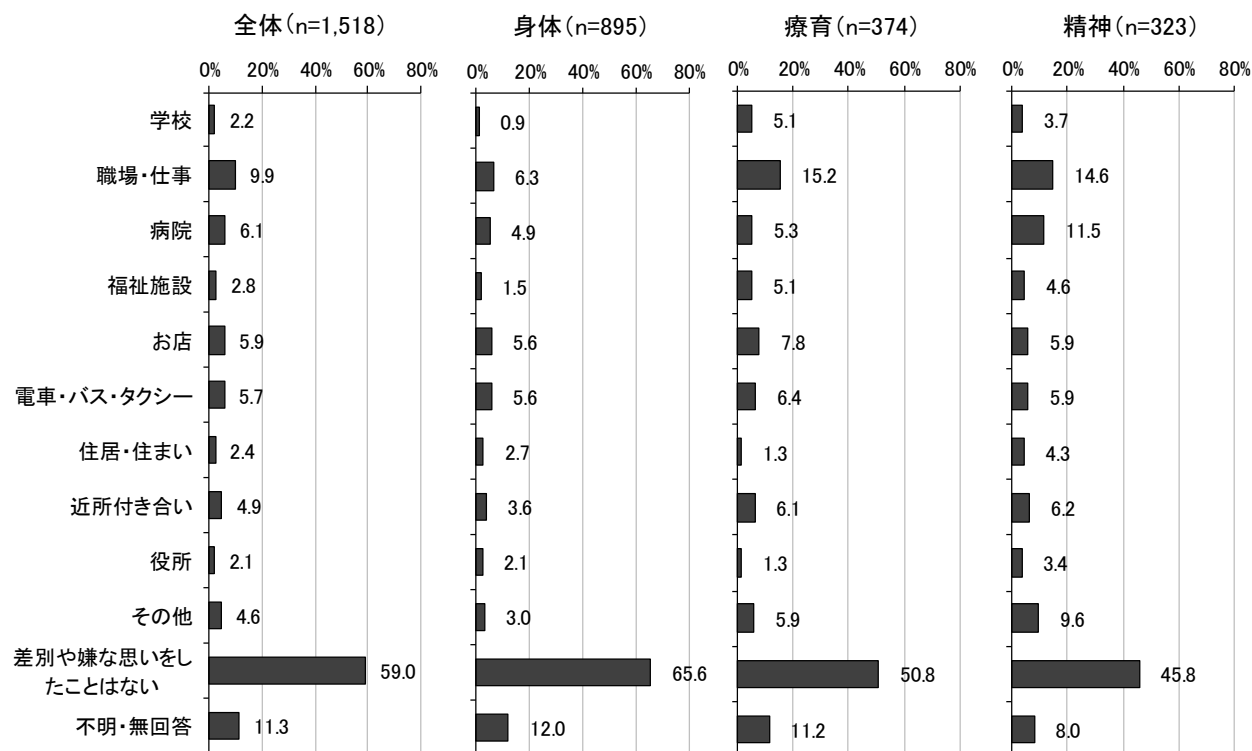
問29 障がいのある方が地域の活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが大切だと思いますか。（複数選択）



差別や嫌な思いをした経験

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「差別や嫌な思いをしたことはない」がそれぞれ 65.6%、50.8%、45.8%と最も高くなっています。一方、差別や嫌な思いをした場所として、【身体】【療育】【精神】いずれも「職場・仕事」が 6.3%、15.2%、14.6%となっています。また、【精神】では「病院」も 11.5%の回答があります。〔問 44〕

問 44 直近 3 年間の日常生活で、差別や嫌な思いをした機会・場所がありますか。（複数選択）

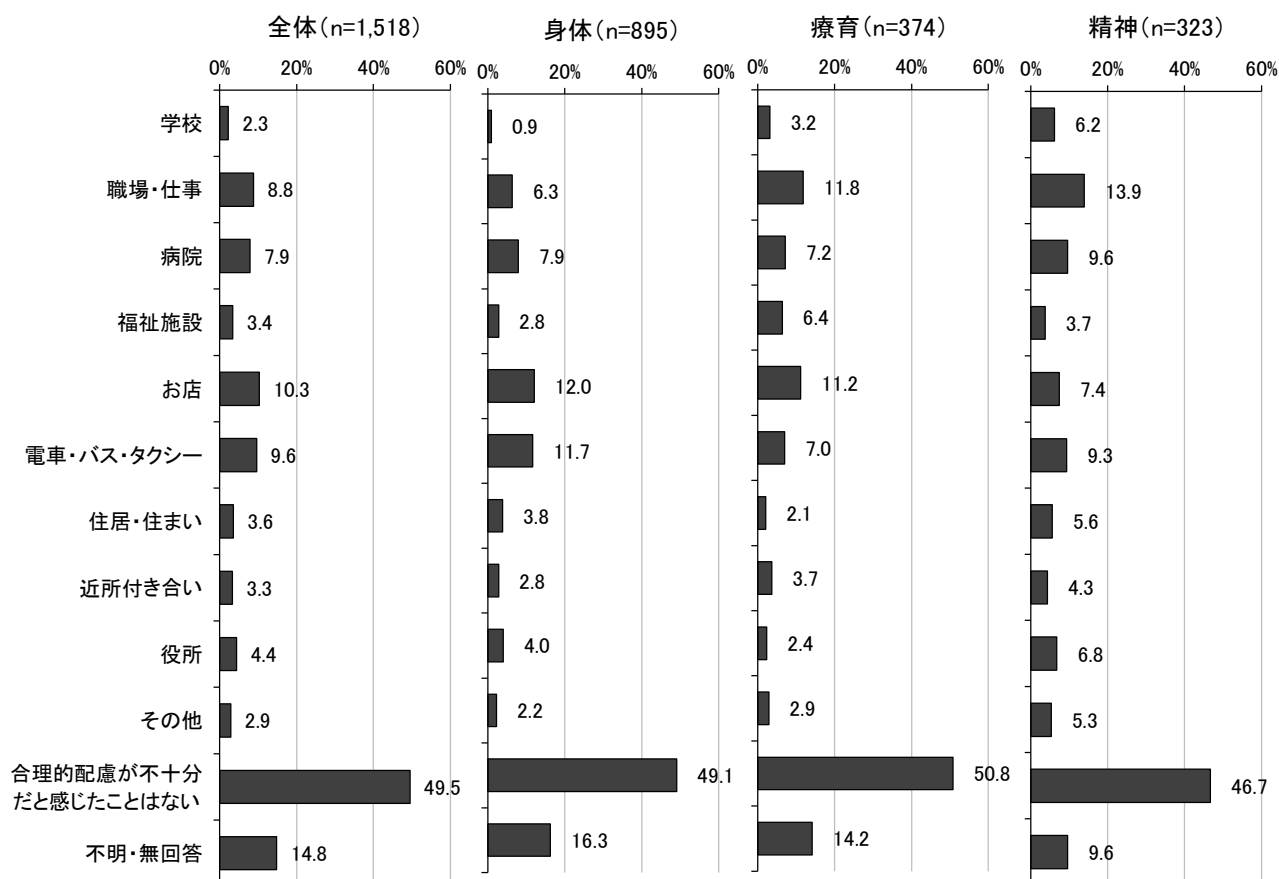


合理的配慮が不十分と感じた経験

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「合理的配慮が不十分だと感じたことはない」が4割後半～約5割と最も高くなっています。一方、合理的配慮が不十分と感じた場所として、【身体】では「お店」「電車・バス・タクシー」、【療育】では「職場・仕事」「お店」、【精神】では「職場・仕事」「病院」「電車・バス・タクシー」で1割程度の回答があります。〔問45〕

問45 直近3年間の日常生活で、合理的配慮が不十分だと感じた機会・場所がありますか。

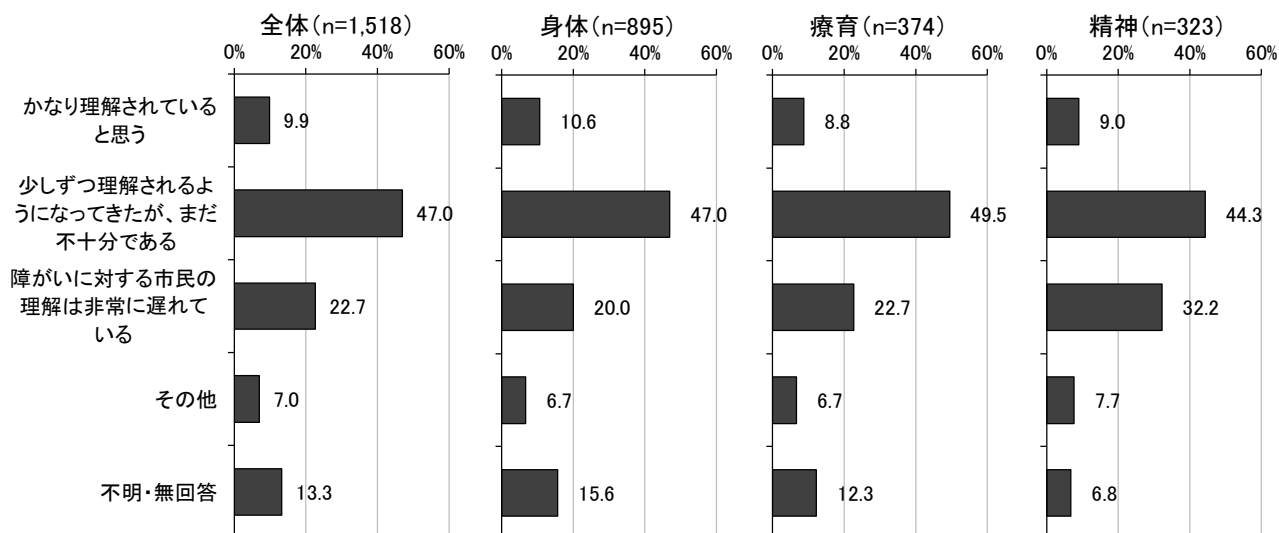
(複数選択)



市民の障がい理解について

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「少しずつ理解されるようになってきたが、まだ不十分である」が最も高く、4割後半～約5割となっています。【精神】では「障がいに対する市民の理解は非常に遅れている」が32.2%と、他の障がい種別と比較して10ポイント程度、高くなっています。〔問49〕

問49 障がいに対する市民の理解は進んでいると思いますか。（選択は1つ）



【課題】

- ◆ 【療育】【精神】の半数以上が地域との付き合いがほとんどなく、地域での孤立が懸念されます。地域住民との交流機会の創出、障がい理解の促進、地域コミュニティ活動への参加支援など、障がいのある方が地域の一員として安心して暮らせる環境づくりが求められます。
- ◆ 地域活動参加のためには、全ての障がい種別で「障がいのある人に配慮した活動内容の設定」が上位となっています。学校教育や地域での啓発活動、当事者との交流機会の創出など、障がい理解の促進とともに、「ともに活動する」意識の醸成が必要です。
- ◆ 職場、店舗、病院、公共交通機関などで合理的配慮の不十分さや差別的経験が一定数回答されています。合理的配慮の提供義務等について対応指針を周知徹底するとともに、相談窓口の体制を強化する必要があります。
- ◆ 市民の理解が不十分と感じる層が多く、特に【精神】において顕著となっています。啓発活動の推進、学校教育での福祉教育の充実、企業・事業所への研修実施など、継続的な障がい理解の促進が必要です。啓発にあたっては、各種啓発活動や研修の主体として、当事者が積極的に参画する機会を創出するなど、当事者の声を通じた「心のバリアフリー」の浸透が必要です。

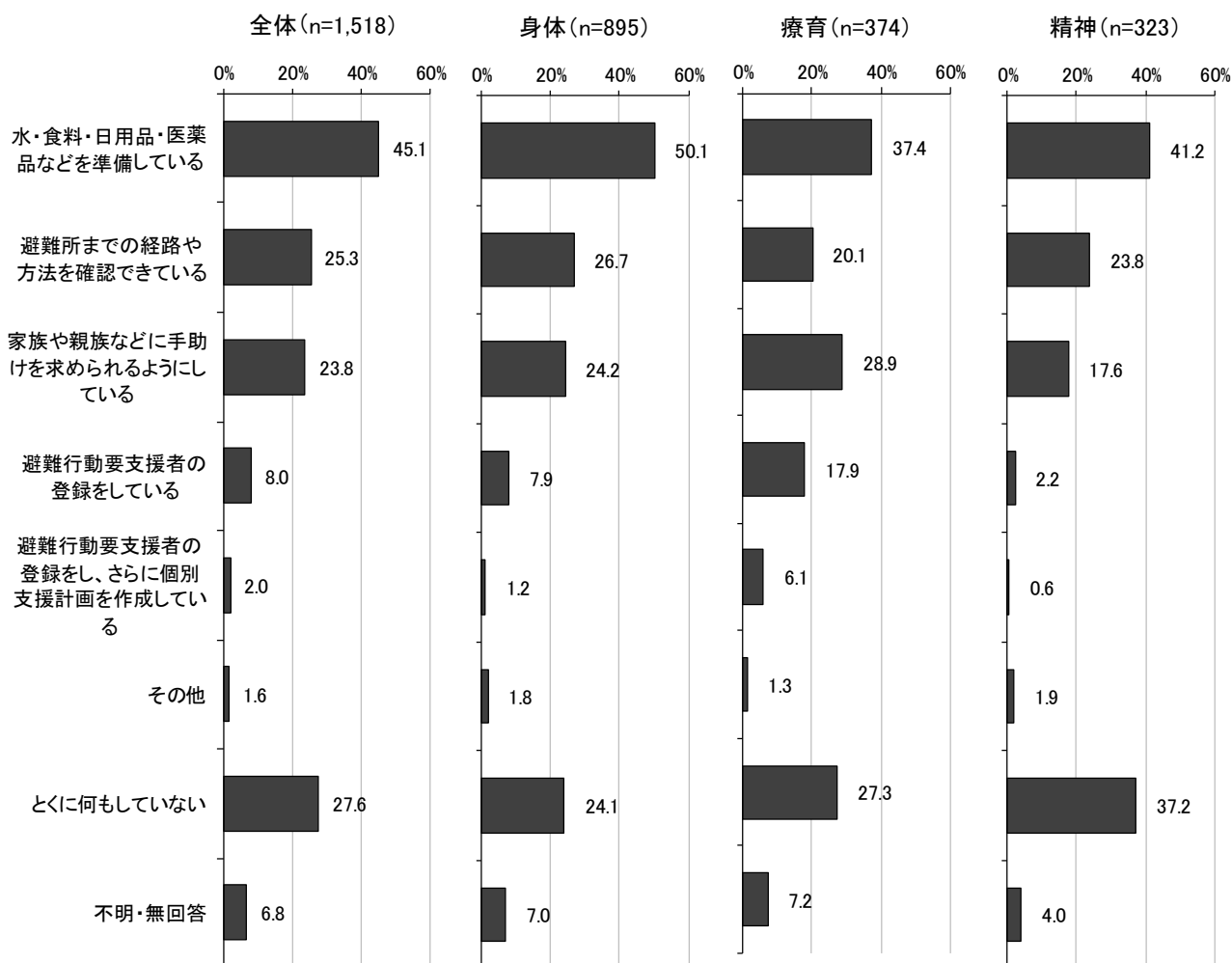
(6) 安心・安全について

地震や台風などへの備えについて

- ・ 【身体】【療育】【精神】いずれも「水・食料・日用品・医薬品などを準備している」がそれぞれ 50.1%、37.4%、41.2%と最も高くなっています。「避難所までの経路や方法を確認できている」は、いずれの障がい種別も2割台であり、「とくに何もしていない」は【身体】【療育】で2割台、【精神】では37.2%と特に高い傾向にあります。〔問 50〕

問 50 あなたは、地震や台風などに備え、日頃からどのような準備をしていますか。

(複数選択)



消費者トラブルの経験について

- ・ いずれの障がい種別も不明・無回答（該当する経験なし）が最も高くなっています。【精神】では「サービスの内容がよくわからないまま契約した」「インターネットショッピング等で、支払いに困るくらい購入した」「すでに利用していないサービスだが、解約方法が分からずにお金を払いつづけている」で1割前後の回答があり、他の障がい種別よりも高くなっています。〔問53〕

問53 あなたは、商品の購入や契約などにあたって、以下の経験をしたことはありますか。

（複数選択）

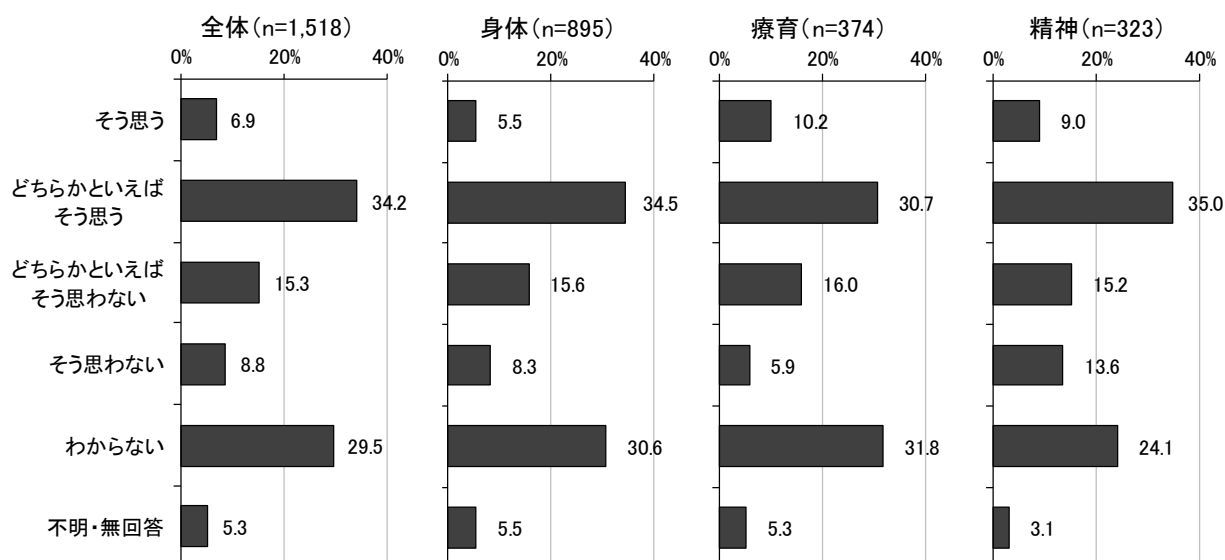
単位：％	サービスの内容がよくわからないまま契約した	訪問販売で強く勧められ、断れず購入・契約した	スマホゲームなどで支払いに困るくらい課金した	インターネットショッピング等で、支払いに困るくらい購入した	知らない人からのメールや電話に対応し、お金を振り込んだ	払い、すでに利用していないサービスだが、解約方法が分からずにお金を払いつづけている	その他	不明・無回答
全体 (n=1,518)	7.6	4.6	2.4	3.4	1.3	4.0	15.2	67.9
身体 (n=895)	6.0	4.4	1.3	1.6	1.1	3.6	15.1	71.2
療育 (n=374)	5.9	2.1	2.9	2.7	1.3	1.9	17.6	70.3
精神 (n=323)	12.7	7.7	4.6	9.0	1.2	8.0	14.9	54.5

和泉市は、障がい者が安心して生活できる環境が整っていると思うか

- ・ 【身体】【精神】いずれも「どちらかといえばそう思う」がそれぞれ 34.5%、35.0%、【療育】では「わからない」が 31.8%と最も高くなっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的評価は【身体】40.0%、【療育】40.9%、【精神】44.0%となっており、約4割の方が安心して生活できる環境が整っていると感じています。〔問 55〕

問 55 和泉市は、障がい者が安心して生活できる環境が整っていると思いますか。

(選択は1つ)



【課題】

- ◆ 物資の備蓄に比べ、避難経路の確認等の具体的な行動に結びついている層は少なく、全体では「特に対策をしていない」と 27.8%が回答した状況にあります。福祉専門職や地域住民と連携して、避難のタイミングや手段をあらかじめ共有することや、個別支援計画の作成の取組みを加速させる必要があります。
- ◆ 【精神】では、消費者トラブルの経験割合がやや高い傾向が見られます。消費者被害の未然防止に向けて、本人や身近な支援者への啓発と相談先等の情報提供が必要です。

(7) 強度行動障がいについて

① 報告書における「強度行動障がい傾向」の抽出について

◇本報告書においては、18 歳以上、18 歳未満調査において、各調査の回答結果をもとに「強度行動障がい傾向」の方を抽出し、分析しています。抽出基準は以下のとおりです。あくまでも回答傾向により設定した区分であり、医師の診断による「強度行動障がい」定義ではない点に留意が必要です。

【判定基準】

	調査項目		判定理由	
	問番号	設問	選択肢	理由
判定 1	問 7	次のような診断等を受けた（疑いがあると言われた場合も含む）ことはありますか。	強度行動障がいと言われたことがある	診断がある又はその傾向があると回答しているため。
判定 2	問 8	あなたの日常生活の状態について、「週に 1 回以上」複数選択してください。	食べられないものを口に入れたりする	参考調査※では、「異食行動」は行動関連項目でも点数が高い層にみられる傾向のため。

→判定 1、判定 2 いずれかに当てはまる場合は「強度行動障がい傾向」と判定しています。

調査項目			判定理由	
	問番号	設問	選択肢	理由（参考調査より）
判定 3	問6	あなたは障がい支援区分の認定を受けていますか。	「区分4」～「区分6」	行動関連項目 10 点以上の方のほとんどが区分4以上であるため
	問8	あなたの日常生活の状態について、「週に1回以上」複数選択してください。 で右記3つすべてを選択	大声・奇声を出す	行動関連項目 10 点以上の方で、平均的に「週1回以上」支援を必要とする人が多いため
			多動・行動停止（思うとおりにならないと多動になったり、こだわって動かなくなってしまう等） 不安定な行動（パニック状態になる等）	

→判定 3 に示す基準両方に当てはまる場合、「強度行動障がい傾向」と判定しています。

調査項目			判定理由	
	問番号	設問	選択肢など	理由
判定 4	問6	あなたは障がい支援区分の認定を受けていますか。	「区分4」～「区分6」	行動関連項目 10 点以上の方のほとんどが区分4 以上であるため
	問8	あなたの日常生活の状態について、「週に1 回以上」複数選択してください。で 選択肢1 つにつき1 点	合計点が5 点以上	行動関連項目 10 点以上の方では、平均5 つ以上の項目で「週1 回以上」支援を必要とするため
	問12④	家族以外の人とのコミュニケーションで「 一部介助必要 」を1 点「 介助必要 」を2 点		

→判定 4 に示す基準両方に当てはまる場合、「強度行動障がい傾向」と判定しています。

※上記記載の「参考調査」:

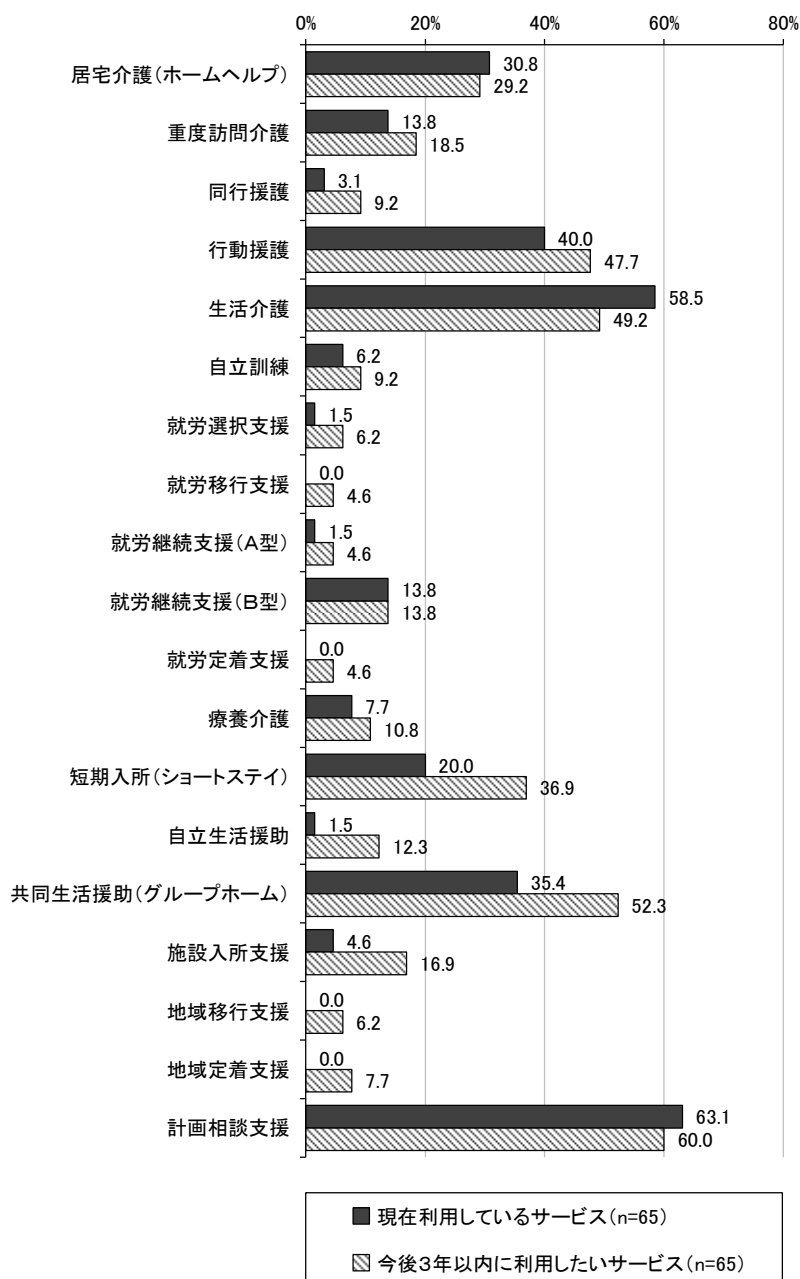
PwC コンサルティング合同会社「令和 3 年度障害者総合福祉推進事業強度行動障害児者の実態把握等に関する調査研究 事業報告書」

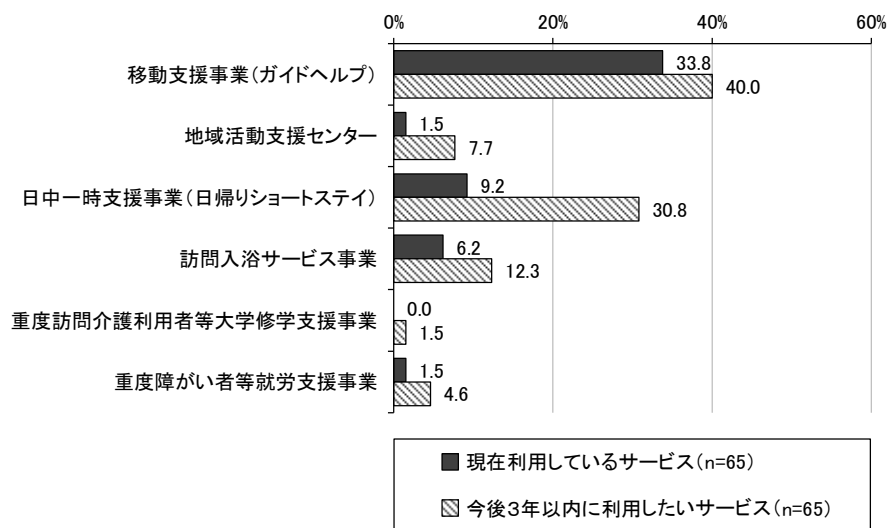
② 障がい福祉サービス等の利用等について

障がい福祉サービス等の利用状況と今後3年以内の利用意向

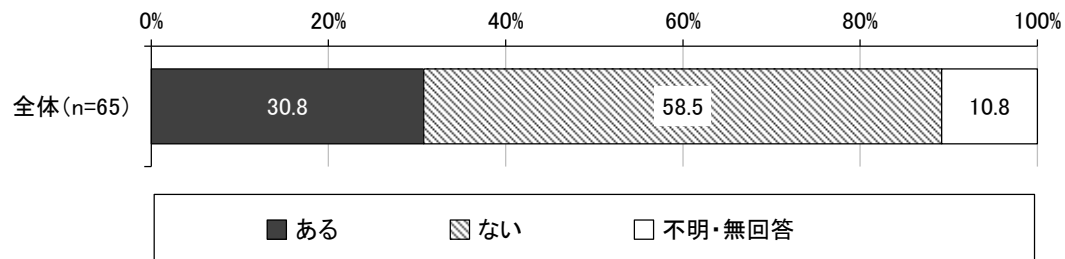
- ・【強度行動障がい傾向】では、「計画相談支援」で 63.1%、「生活介護」で 58.5%、「行動援護」で 40.0%、「共同生活援助（グループホーム）」で 35.4%の利用があります。現在利用しているサービスと今後3年以内に利用したいサービスを比較すると、「日中一時支援事業（日帰りショートステイ）」は 21.6 ポイント、「短期入所（ショートステイ）」「自立生活援助」「共同生活援助（グループホーム）」が 10～16 ポイント、希望の方が高くなっています。〔問 20〕

問 20 ①現在障がい福祉サービスを利用していますか②今後3年以内に利用したいと思いますか。





問 21①あなたは、現在利用を希望しているものの、利用できていない障がい福祉サービスなどがありますか。(選択は1つ)

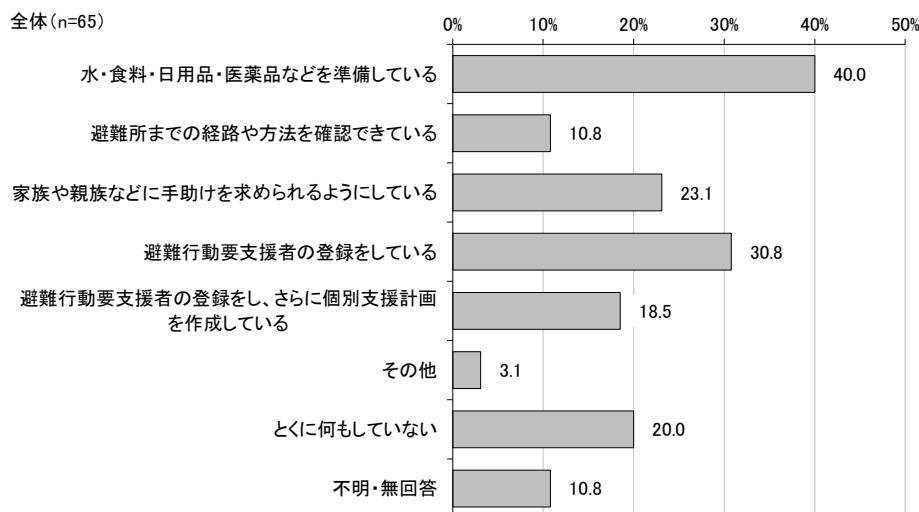


③ 安心・安全について

地震や台風などへの備えについて

- ・ 「水・食料・日用品・医薬品などを準備している」が40.0%と最も高く、次いで「避難行動要支援者の登録をしている」が30.8%、「家族や親族などに手助けを求められるようにしている」が23.1%となっています。

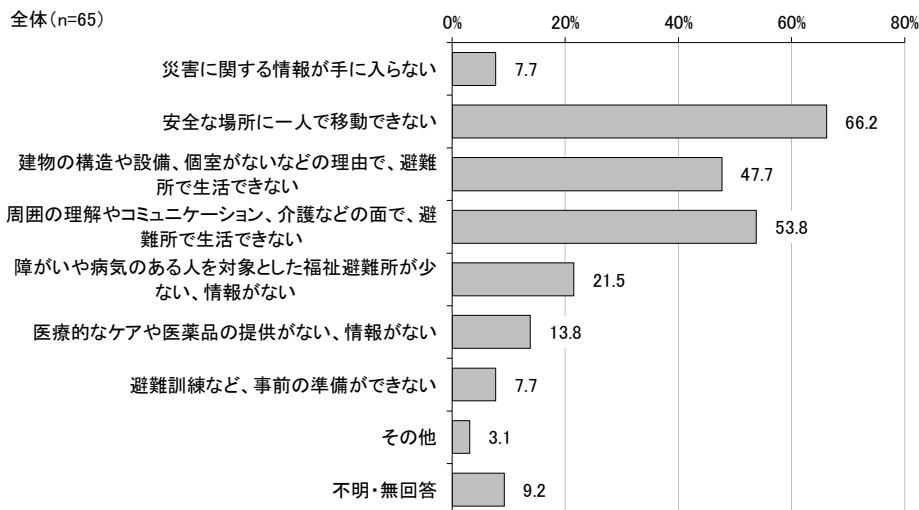
問 50 あなたは、地震や台風などに備え、日頃からどのような準備をしていますか。（複数選択）



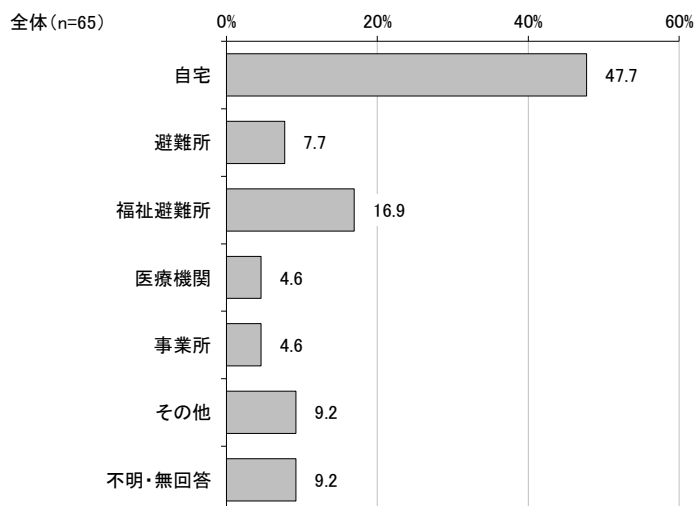
災害時に困ると思うこと、不安に思うこと

- ・ 「安全な場所に一人で移動できない」が66.2%と最も高く、次いで「周囲の理解やコミュニケーション、介護などの面で、避難所で生活できない」が53.8%、「建物の構造や設備、個室がないなどの理由で、避難所で生活できない」が47.7%となっています。避難指示が出た場合に過ごす場所は、「自宅」が47.7%と最も高く、次いで「福祉避難所」が16.9%となっています。

問 51 災害時に困ると思うこと、不安に思うことは何ですか。（複数選択）



問 52 あなたは、避難指示が出たとき、どこで過ごそうと考えていますか。（選択は1つ）



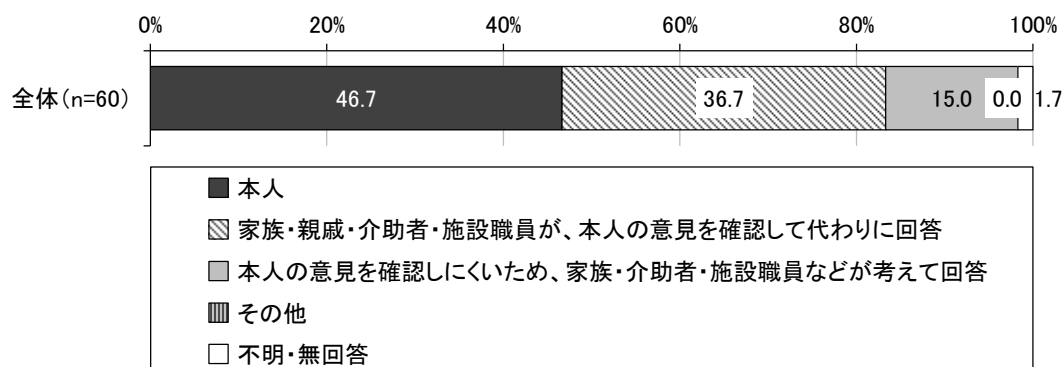
【課題】

- ◆ 【強度行動障がい傾向】では、特に施設・居住系サービスやショートステイに対するニーズが高くなっています。また、約3割の方が利用したいサービスが利用できていない状況があります。特性に応じた専門的なマネジメントを担う人材育成への支援や専門機関との連携により、困難ケースを受け入れる支援体制の構築が必要です。
- ◆ 「安全な場所に一人で移動できない」という不安が6割を超えており、避難指示が出ても半数が「自宅」に留まることを選択しています。一方、福祉避難所への避難を望む割合は、1割半ばと、手帳所持者全体（4.3%）よりも高くなっています。本人や家族に対し、災害時を想定して不安に感じていること、困るだろうと思うこと等を調査し、個別支援計画の整備を進める必要があります。

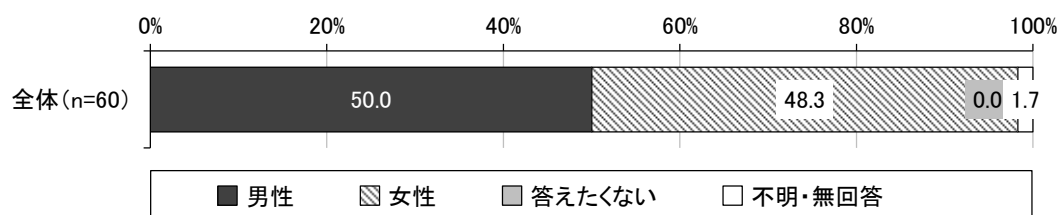
Ⅲ 医療的ケア者対象調査（18 歳以上）の結果

1 回答者の属性

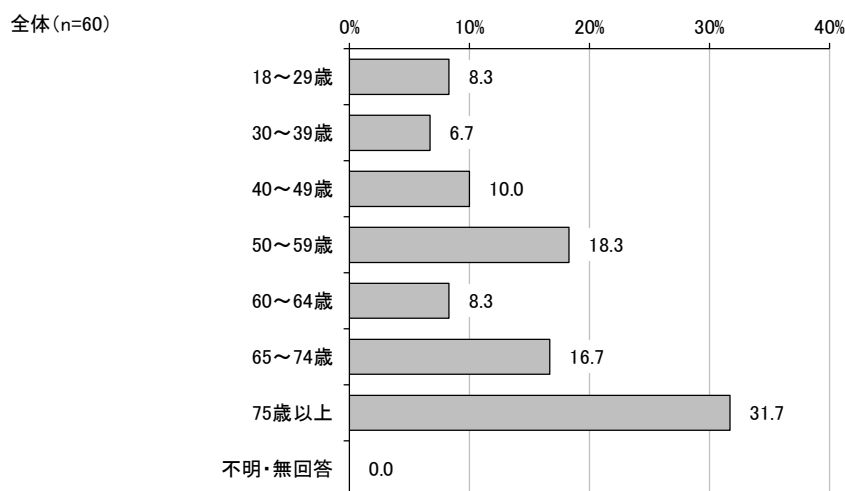
問1 お答えいただくのは、どなたですか。（選択は1つ）



問2 あなたの性別をお答えください。（選択は1つ）

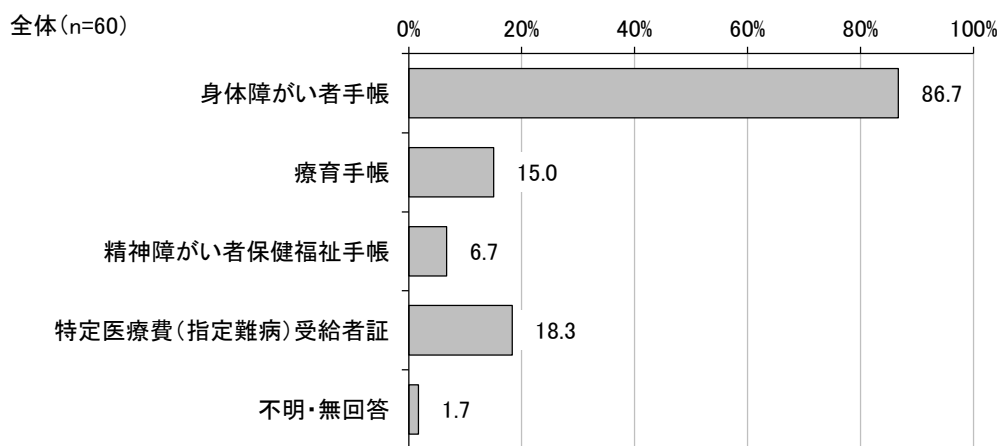


問3 あなたの年齢をお答えください。（令和7年12月1日現在）



問 4 あなたがお持ちの手帳の種類は何ですか。

(複数選択)



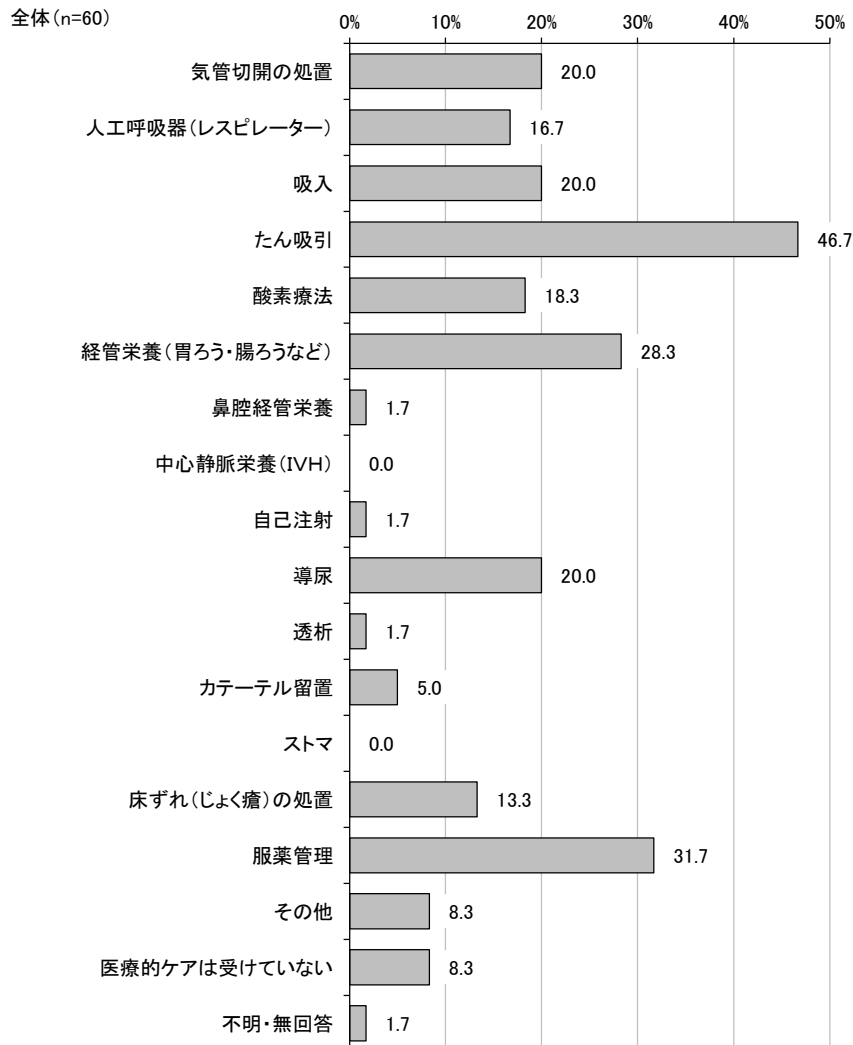
2 医療的ケア者対象調査（18 歳以上）各種結果

（1）ケアの状況や相談支援等について

必要とする医療的ケアの内容について

- ・ 「たん吸引」が46.7%と最も高く、次いで「服薬管理」が31.7%、「経管栄養（胃ろう・腸ろうなど）」が28.3%となっています。〔問6〕

問6 必要とする医療的ケアは何ですか。（あてはまるものをすべて選択）



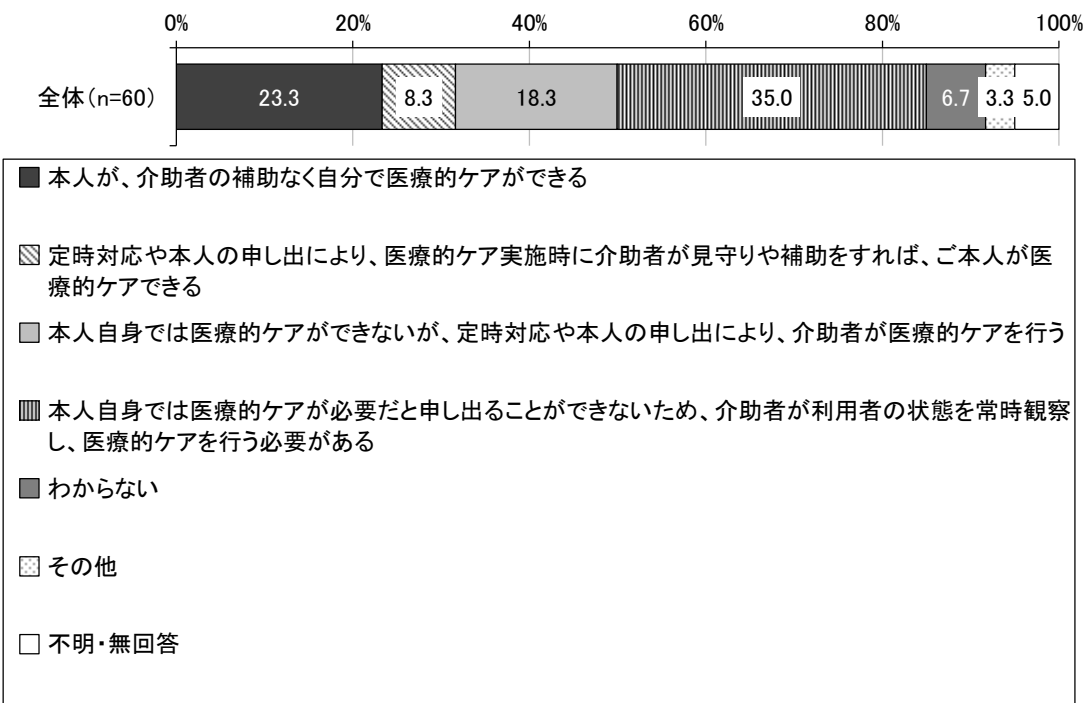
【年齢別】※上位2項目

18～64 歳 (n=31) (件数)	65 歳以上 (n=31) (件数)
たん吸引 (11)	たん吸引 (17)
服薬管理 (11)	経管栄養 (9)
導尿 (9)	

医療的ケアへの介助者の関与状況について

- 「本人自身では医療的ケアが必要だと申し出ることができないため、介助者が利用者の状態を常時観察し、医療的ケアを行う必要がある」が 35.0%と最も高く、次いで「本人が、介助者の補助なく自分で医療的ケアができる」が 23.3%となっています。年齢別にみると、18～64 歳では「本人自身では医療的ケアができないが、定時対応や本人の申し出により、介助者が医療的ケアを行う」が 9 件、次いで「本人が、介助者の補助なく自分で医療的ケアができる」が 6 件、65 歳以上では「本人自身では医療的ケアが必要だと申し出ることができないため、介助者が利用者の状態を常時観察し、医療的ケアを行う必要がある」が 12 件、「本人が、介助者の補助なく自分で医療的ケアができる」が 8 件となっています。〔問 10〕

問 10 医療的ケアの実施における主な介助者の関与度をお答えください。複数の医療的ケアが必要な方は、医療的ケアの中でご本人が対応が一番難しいものについてお答えください。（選択は 1 つ）



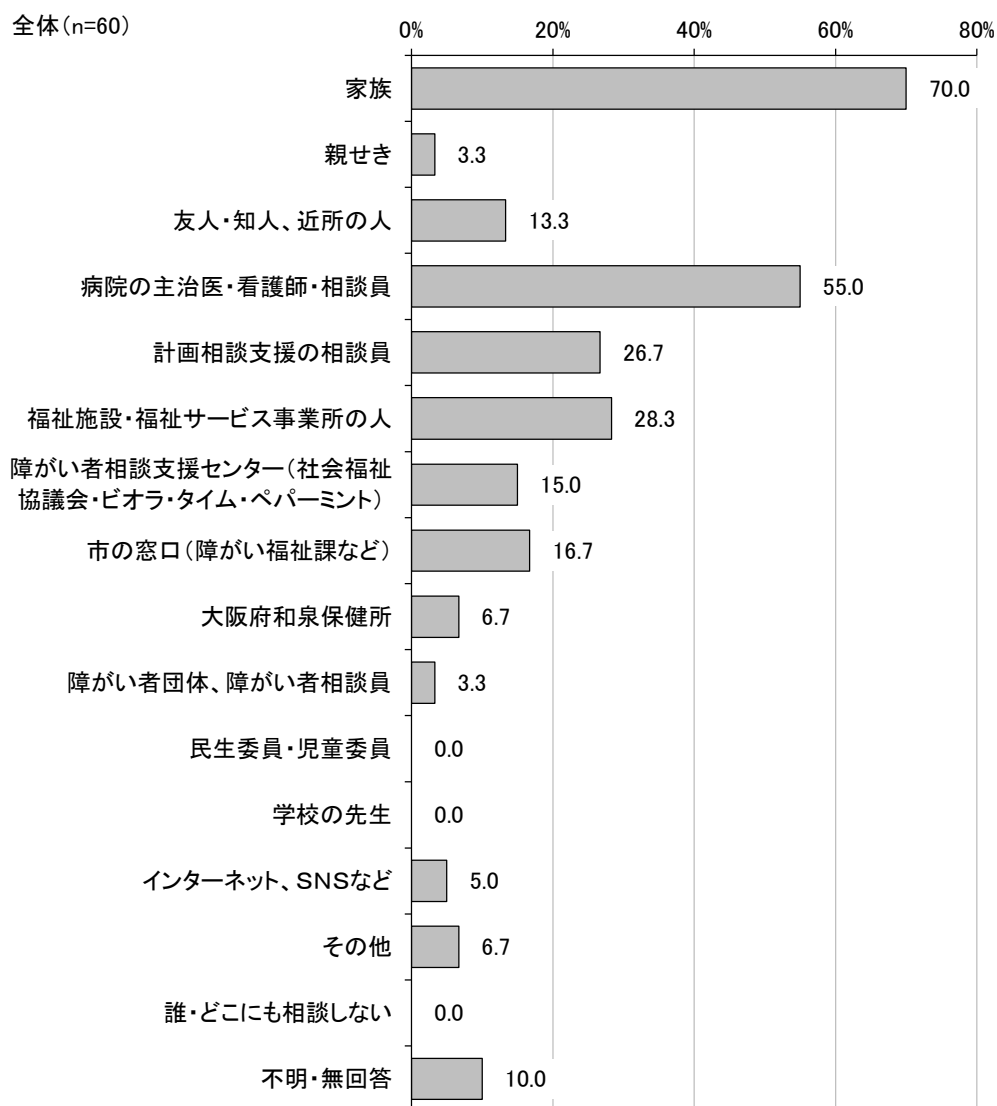
【年齢別】

	がな本 でく人 き自 る分 、 で介 医助 療者 的の ケ補 ア助	る本 りや 人施 がに 補時 医に 助り 的 す介 ケを れ、 アば が で、 見 き ご	定 時 対 応 に り や の 本 人 の 申 し 出 に よ り 、 介 助 者 が 医 療 的 ケ ア を 行 う	ケ を 介 助 者 が 必 要 と し て 申 し 出 る こ と が で き な い た め 、 介 助 者 が 利 用 者 の 状 態 を 常 時 観 察 し 、 医 療 的 ケ ア を 行 う 必 要 が あ る	わ か ら な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=60)							
18～64歳 (n=31)	6	3	7	9	3	2	1
65歳以上 (n=29)	8	2	4	12	1	0	2

困ったことや心配に思っていることの相談先

- ・ 「家族」が70.0%と最も高く、次いで「病院の主治医・看護師・相談員」が55.0%、「福祉施設・福祉サービス事業所の人」が28.3%となっており、医療関係者が身近な相談先となっています。〔問31①〕

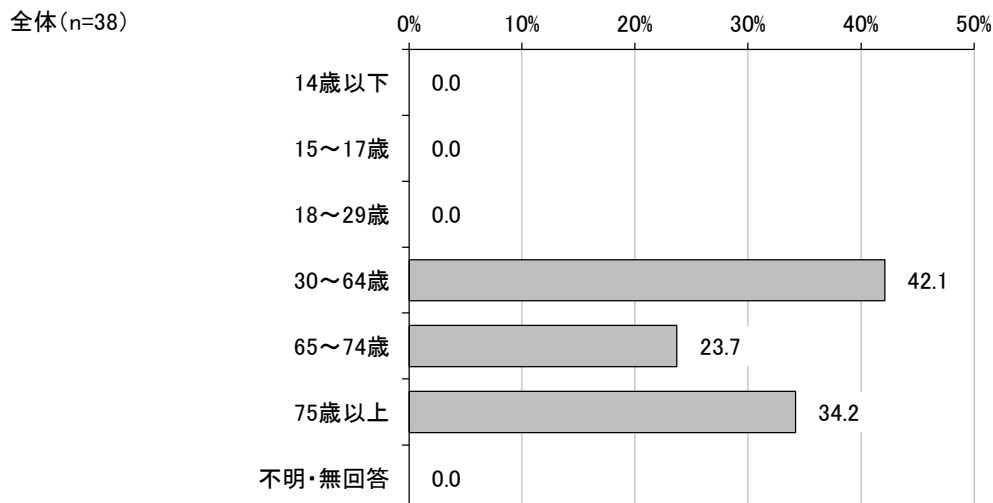
問31①困ったことや心配に思っていることを誰に相談しますか。（あてはまるものを全て選択）



主な介助者の年齢について

- ・ 「30～64 歳」が 42.1%と最も高く、次いで「75 歳以上」が 34.2%、「65～74 歳」が 23.7% となっています。〔問 12〕

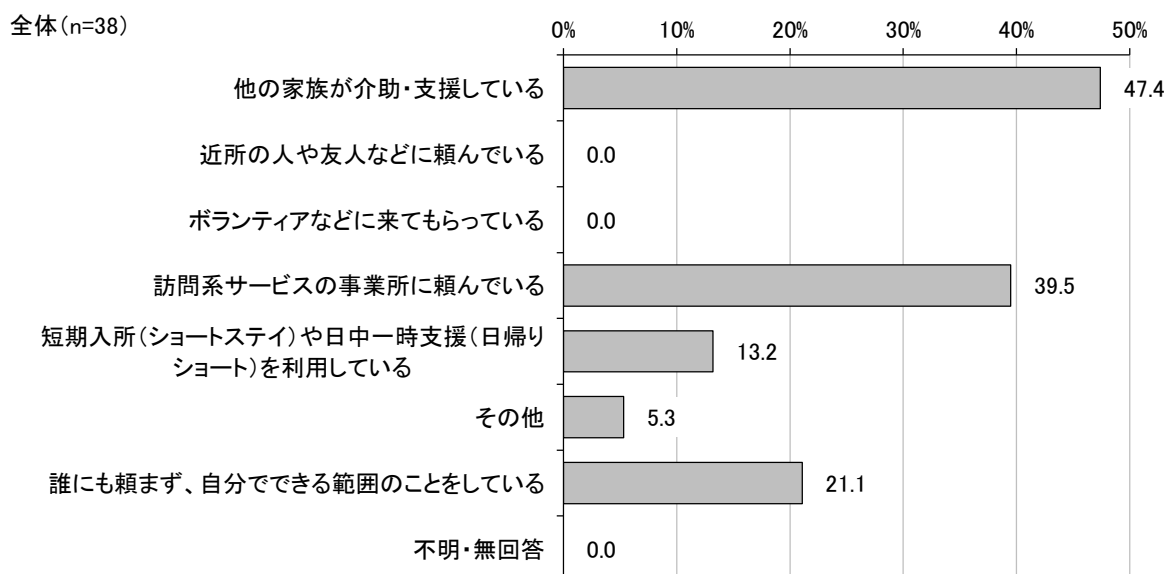
問 12 主な介助者の年齢をお答えください。（選択は 1 つ）（令和 7 年 12 月 1 日現在）



主な介助者に代わって介助・支援できる人の有無について

- ・ 「他の家族が介助・支援している」が 47.4%と最も高く、次いで「訪問系サービスの事業所に頼んでいる」が 39.5%、「誰にも頼まず、自分でできる範囲のことをしている」が 21.1% となっています。〔問 16〕

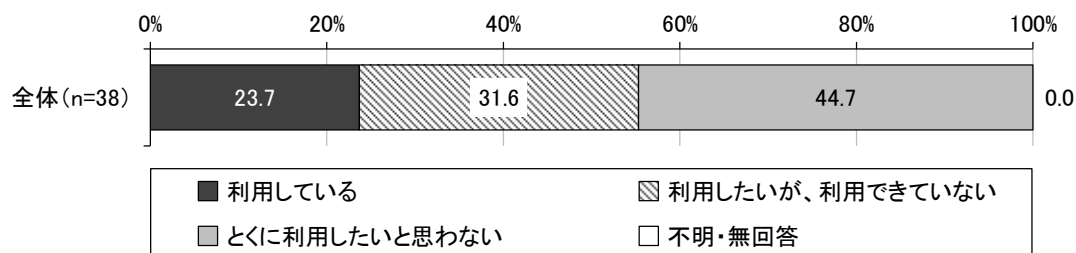
問 16 主な介助者の方が、急な病気や用事などで一時的に介助・支援できない時、どうされていますか。（あてはまるものを 3 つ以内で選択）



介助者の心身の負担軽減（レスパイトケア）の状況

- ・ 「とくに利用したいと思わない」が44.7%と最も高く、次いで「利用したいが、利用できていない」が31.6%、「利用している」が23.7%となっています。利用にあたっての課題では、「本人が施設の利用に慣れていない／不安がある」が8件、次いで「予約が取りづらい／空きがない」「経済的な負担が大きい」がそれぞれ5件となっています。〔問17・18〕

問17 主な介助者の方は、心身の負担軽減（レスパイトケア）のために、サービスを利用できていますか。（選択は1つ）



問18 レスパイトを目的としたサービスの利用にあたって、課題に感じるものがあればお答えください。（あてはまるものをすべて選択）

No.	項目名	件数 (n=21)
1	本人が施設の利用に慣れていない／不安がある	8
2	予約が取りづらい／空きがない	5
3	経済的な負担が大きい	5
4	利用できる施設が近くにない	3
5	利用条件が複雑・わかりにくい	3
6	信頼できる施設・スタッフがいない	3
7	課題はとくに感じない	3
8	その他	5
	不明・無回答	2

介助者の主な悩みについて

- ・ 「腰痛など身体的負担がある」が11件、「将来、介助者が高齢化したり、亡くなった後のことが不安である」が6件の回答があります。〔問19〕

問19【主な悩み1つ】 主な介助者の方は、介助をする上で何か悩みごとや心配ごとがありますか。
(主な悩み1つと、その他あてはまる悩みをすべて選択)

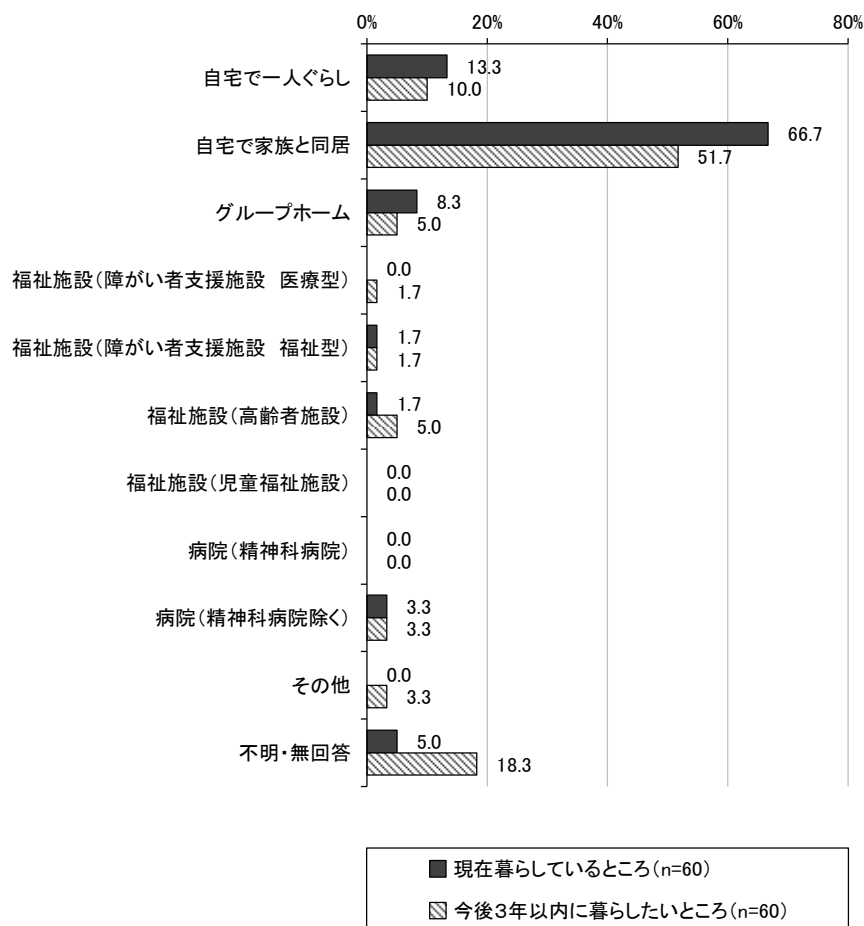
No.	項目名	件数 (n=38)
1	腰痛など身体的負担がある	11
2	将来、介助者が高齢化したり、亡くなった後のことが不安である	6
3	とくにない	4
4	気を抜けないなど、精神的な負担がある	3
5	将来、経済的負担の増加に耐えられるか不安である	2
6	慢性的な睡眠不足である	1
7	病気や用事などの時に、助けてくれる人がいない	1
8	自分の時間が十分にもてない	1
9	介助の指導をしたり、相談にのってくれる人がいない	1
10	家事やほかの家族の世話が十分にできない	0
11	就労したいができない・希望する働き方ができない	0
12	社会から孤立していると感じる	0
13	もっと障がい福祉サービスなどを利用してほしい	0
14	経済的な負担が大きい	0
15	その他	2
	不明・無回答	6

現在暮らしているところと、今後の希望

- ・ 「自宅で家族と同居」が 66.7%、「自宅で一人暮らし」が 13.3%となっています。今後 3 年以内に暮らしたいところでは、上位 2 項目は現在と同様ですが、無回答者が増え、施設や病院の回答が数件増えています。〔問 20〕

問 20①現在暮らしているところはどこですか。

②今後 3 年以内に暮らしたいところはどこですか。（それぞれ選択は 1 つ）



【課題】

- ◆ 今回の調査の回答者の約半数が高齢者であり、主な介助者も 75 歳以上が 3 割を超えるなど、障がいのある方と介助者の高齢化が進行しています。介助者の身体的負担（腰痛等）や将来への不安が顕著であり、介助者の心身の健康、また、虐待の未然防止の観点からも、介助者への支援が重要となっています。レスパイトケア（短期入所等）の利便性向上や緊急時の受入体制の強化が必要です。
- ◆ 今回の調査の回答者の場合、医療的ケアを受ける方の 8 割は自宅で生活しています。介助者の亡き後、引き続き自宅での生活を希望する方に対し、本人の意向を尊重した地域生活への移行・継続を支えるため、成年後見制度の利用促進や身近な地域での相談体制の充実など、将来を見据えた継続的な支援体制の構築が求められます。

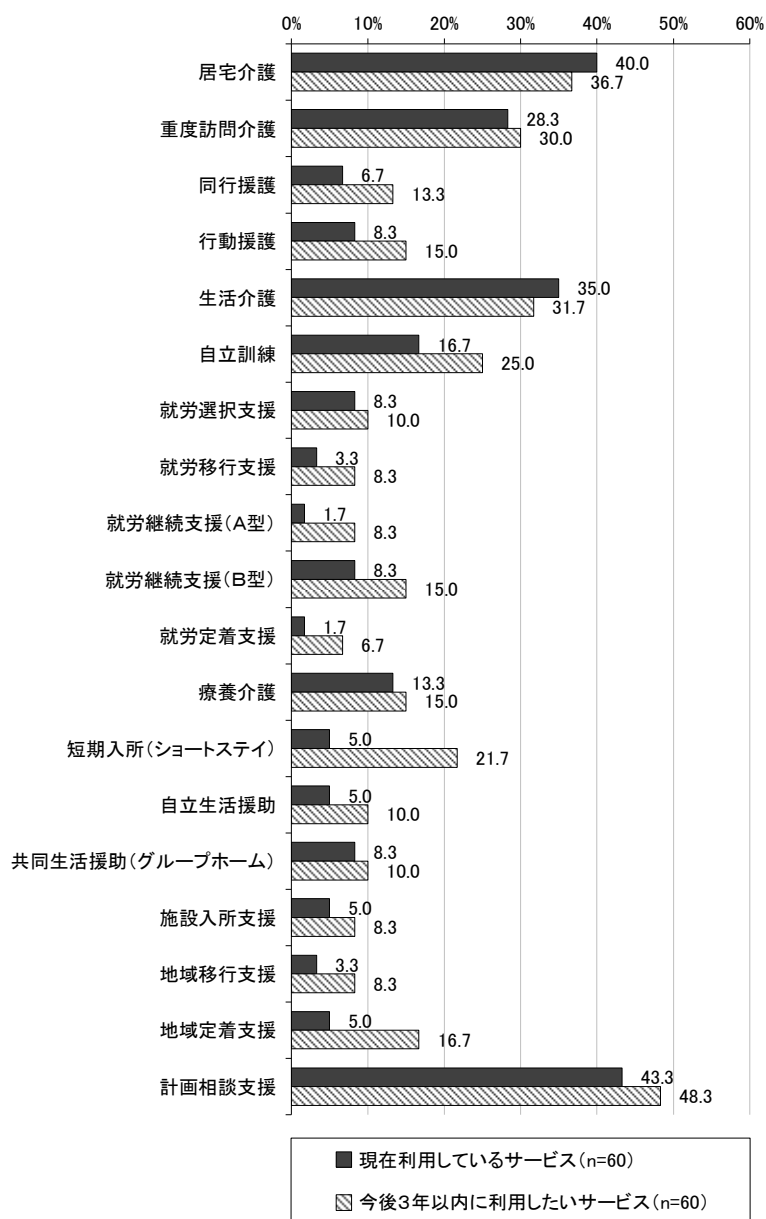
(2) 障がい福祉サービス等の利用について

現在利用している障がい福祉サービスと今後3年以内に利用したいサービスについて

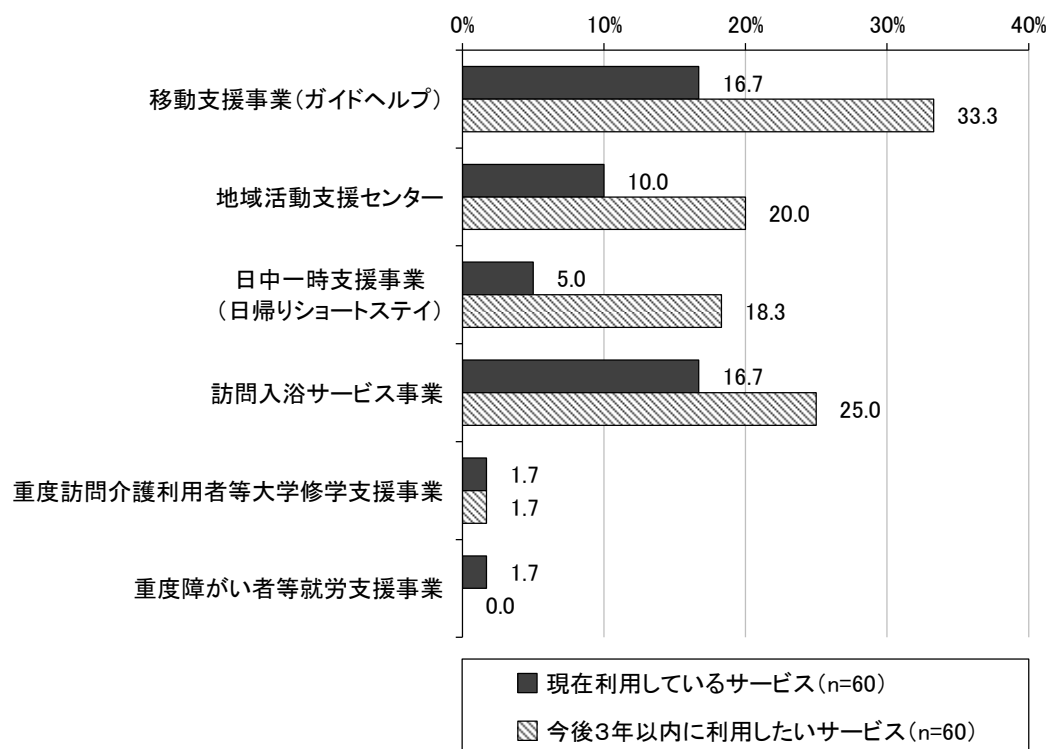
- ・ 現在利用している障がい福祉サービスについて、「計画相談支援」「居宅介護」が4割以上、「生活介護」が35.0%、「重度訪問介護」28.3%となっています。現在と今後3年間の希望の差をみると、「短期入所（ショートステイ）」「地域定着支援」は希望が10ポイント以上高く、ニーズの高いサービスとなっています。また、地域生活支援事業では、「移動支援事業（ガイドヘルプ）」「地域活動支援センター」「日中一時支援事業」は希望が10ポイント以上高くなっています。〔問26〕

問26 現在利用しているサービスと今後3年以内に利用したいサービス

●障がい福祉サービス



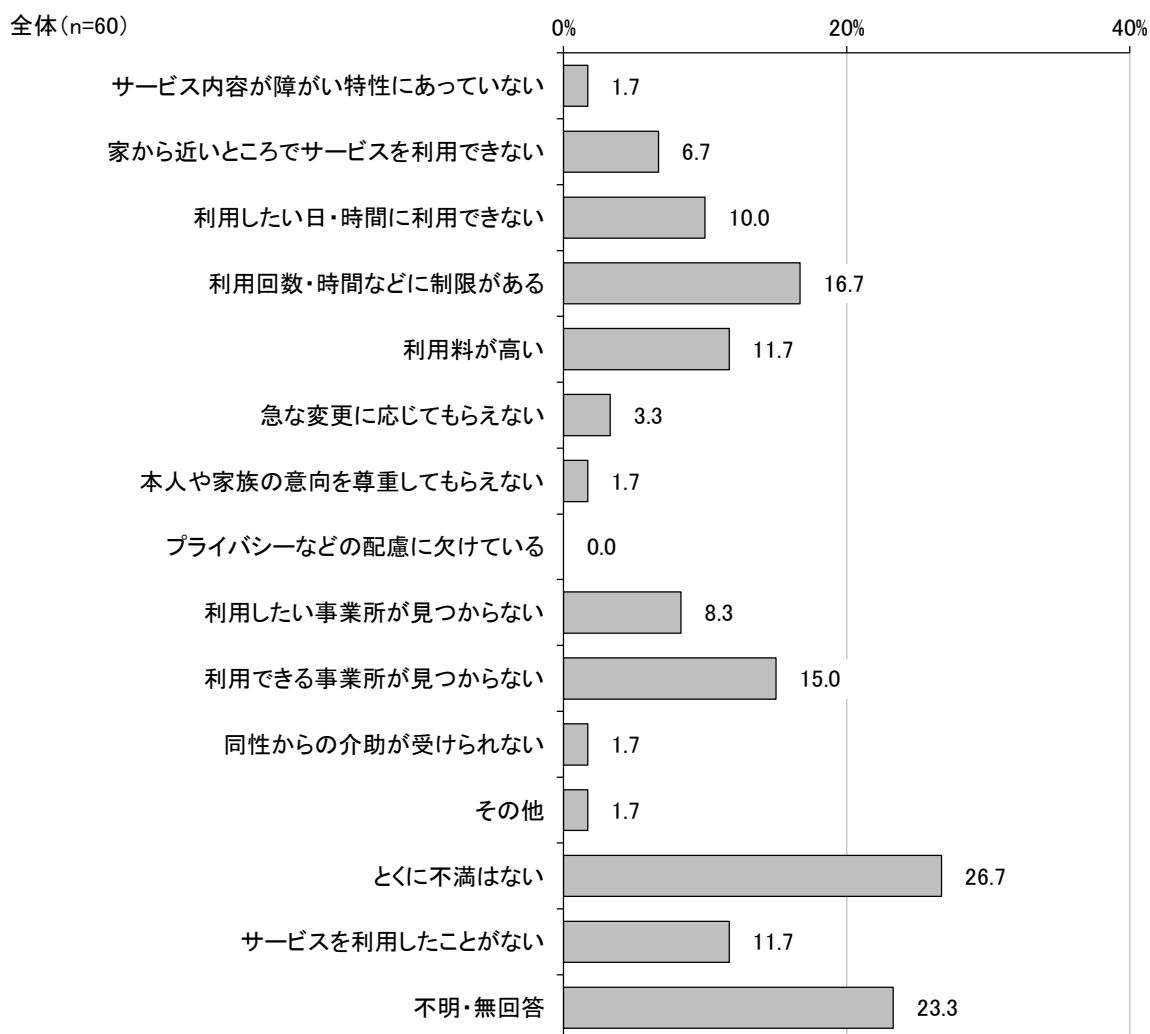
●地域生活支援事業



障がい福祉サービスなどを利用して不満に思うことについて

- ・ 「とくに不満はない」を除くと、「利用回数・時間などに制限がある」が16.7%、「利用できる事業所が見つからない」が15.0%と高くなっています。〔問29〕

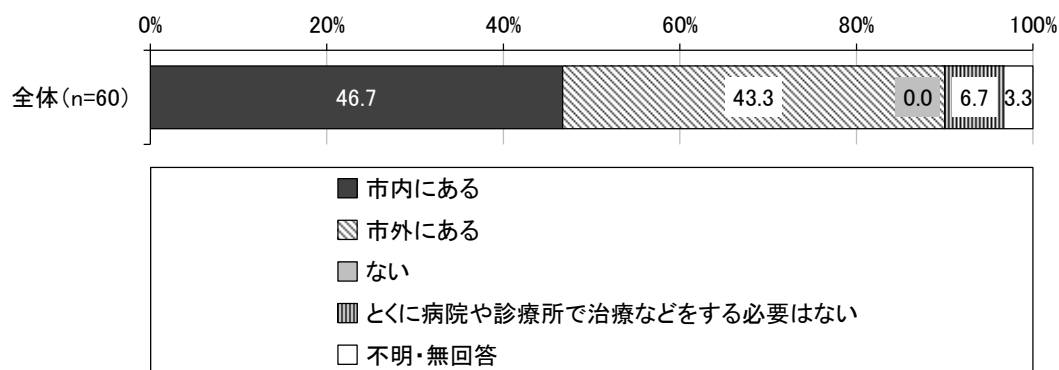
問29 障がい福祉サービスなどを利用して不満に思うことは何ですか。（複数選択）



利用している医療機関の場所について

- ・ 「市内にある」が46.7%と最も高く、次いで「市外にある」が43.3%となっています。年齢別にみると、18～64歳では市外が20件、市内が10件、65歳以上では市内が18件、市外が6件となっています。〔問34〕

問34 障がいの治療などを受けている病院や診療所はどこにありますか。（選択は1つ）



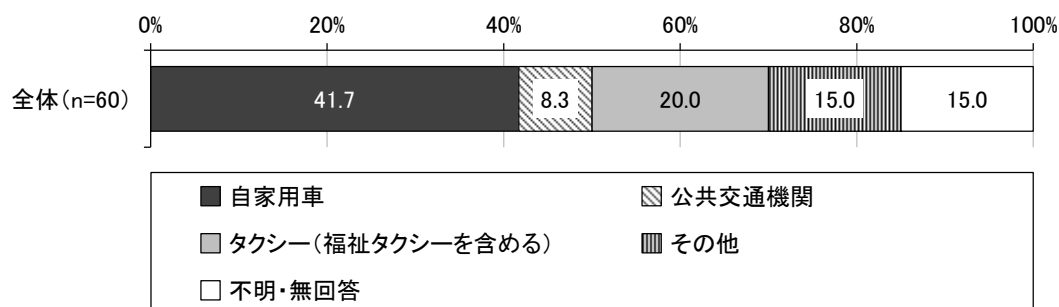
【年齢別】（件数）

年齢別	市内にある	市外にある	ない	とくに病院や診療所で治療などをする必要はない	不明・無回答
全体 (n=60)					
18～64歳 (n=31)	10	20	0	1	0
65歳以上 (n=29)	18	6	0	3	2

主な移動手段について

- ・ 「自家用車」が41.7%で最も多く、次いで「タクシー(福祉タクシー含む)」が20.0%となっています。〔問22〕

問22 日常生活圏での主な移動手段は何ですか。（選択は1つ）



差別や嫌な思いをした経験

- ・ 「差別や嫌な思いをしたことはない」が37件、次いで「電車・バス・タクシー」が6件、「病院」が5件となっています。〔問39〕

問39 直近3年間の日常生活で、差別や嫌な思いをした機会・場所がありますか。

(主なものを3つまで選択)

No.	項目名	件数 (n=60)
1	差別や嫌な思いをしたことはない	37
2	電車・バス・タクシー	6
3	病院	5
4	近所付き合い	4
5	お店	3
6	職場・仕事	2
7	住居・住まい	2
8	役所	2
9	福祉施設	1
10	学校	0
11	その他	2
	不明・無回答	5

【課題】

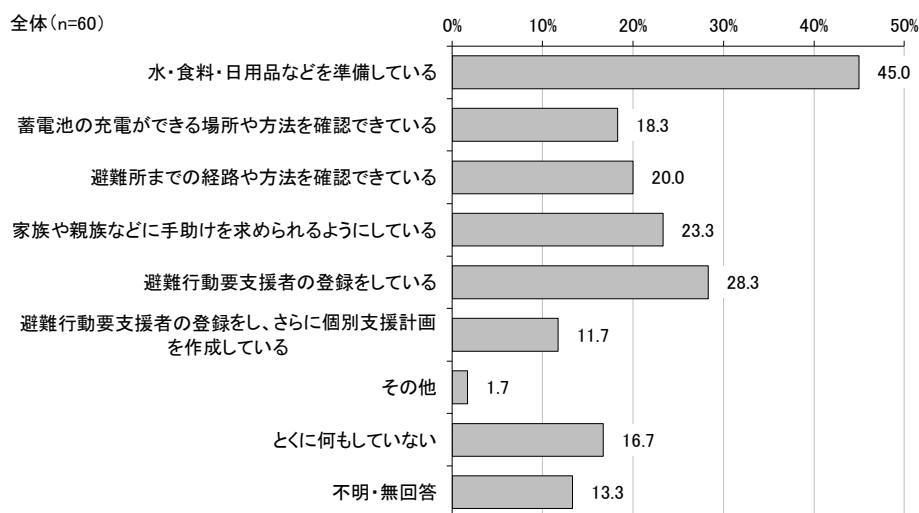
- ◆ 短期入所の利用は5%に留まり、今後3年間に利用したいサービスとして、拡充を求める声が多くなっています。重度の障がいのある方の受入れを行う事業所の確保に向けた取組が必要です。
- ◆ 主な移動手段は自家用車とタクシーが6割を占めています。タクシーを含む公共交通機関における「差別や嫌な思い」の経験も報告されており、交通事業者等への「心のバリアフリー」啓発の推進が求められます。また今後、介助者の高齢化により、自家用車での移動が困難となり、移動に対するニーズの増大が予想されます。
- ◆ 障がい福祉サービスへの不満として、利用回数・時間の制限や事業所が見つからないといった不満があがっています。基幹相談支援センターと相談支援専門員が連携して利用できるサービスの情報を得やすくする取組や、福祉人材確保等サービス供給体制の充実を検討する必要があります。

(3) 安心・安全について

地震や台風などへの備えについて

- ・ 「水・食料・日用品などを準備している」が45.0%と最も高く、次いで「避難行動要支援者の登録をしている」が28.3%、「家族や親族などに手助けを求められるようにしている」が23.3%となっています。個別支援計画の作成は11.7%となっています。また、18歳以上の手帳所持者と比較して、避難行動要支援者の登録割合が高くなっています。〔問 45〕

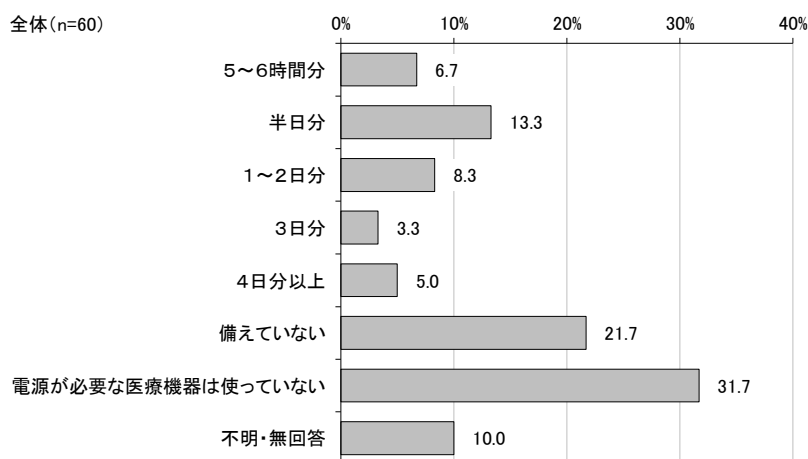
問 45 あなたは、地震や台風などに備え、日頃からどのような準備をしていますか。(複数選択)



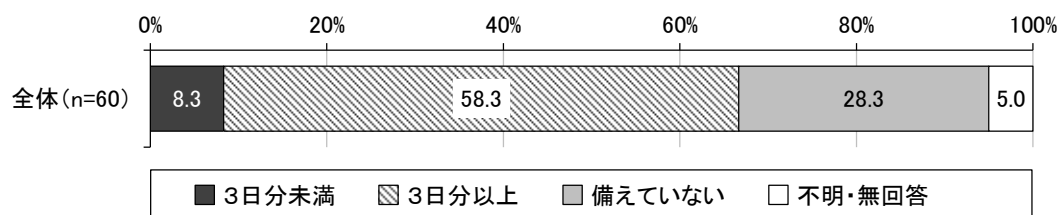
非常用の電源やケア用品の備えについて

- ・ 非常用の電源は、「備えていない」が21.7%（13件）、「半日分」が13.3%（8件）となっています。薬やケア用品の備えは、「3日以上」が58.3%と最も高く、次いで「備えていない」が28.3%、「3日分未満」が8.3%となっています。〔問46・47〕

問46 災害時の停電に備えて、医療機器（呼吸器、吸引器など）の電源はどのくらい備えていますか。（選択は1つ）



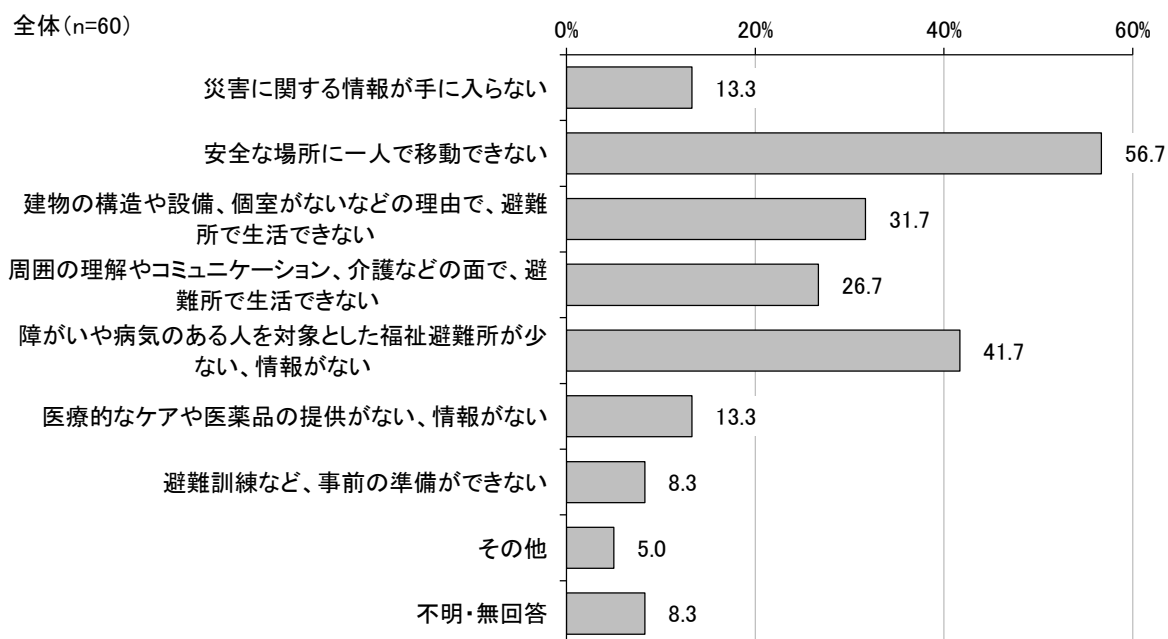
問47 災害時に備えて、薬やケア用品を備えていますか。（選択は1つ）



災害時に困ると思うこと、不安に思うこと

- ・ 「安全な場所に一人で移動できない」が56.7%と最も高く、次いで「障がいや病気のある人を対象とした福祉避難所が少ない、情報がない」が41.7%、「建物の構造や設備、個室がないなどの理由で、避難所で生活できない」が31.7%となっています。〔問48〕

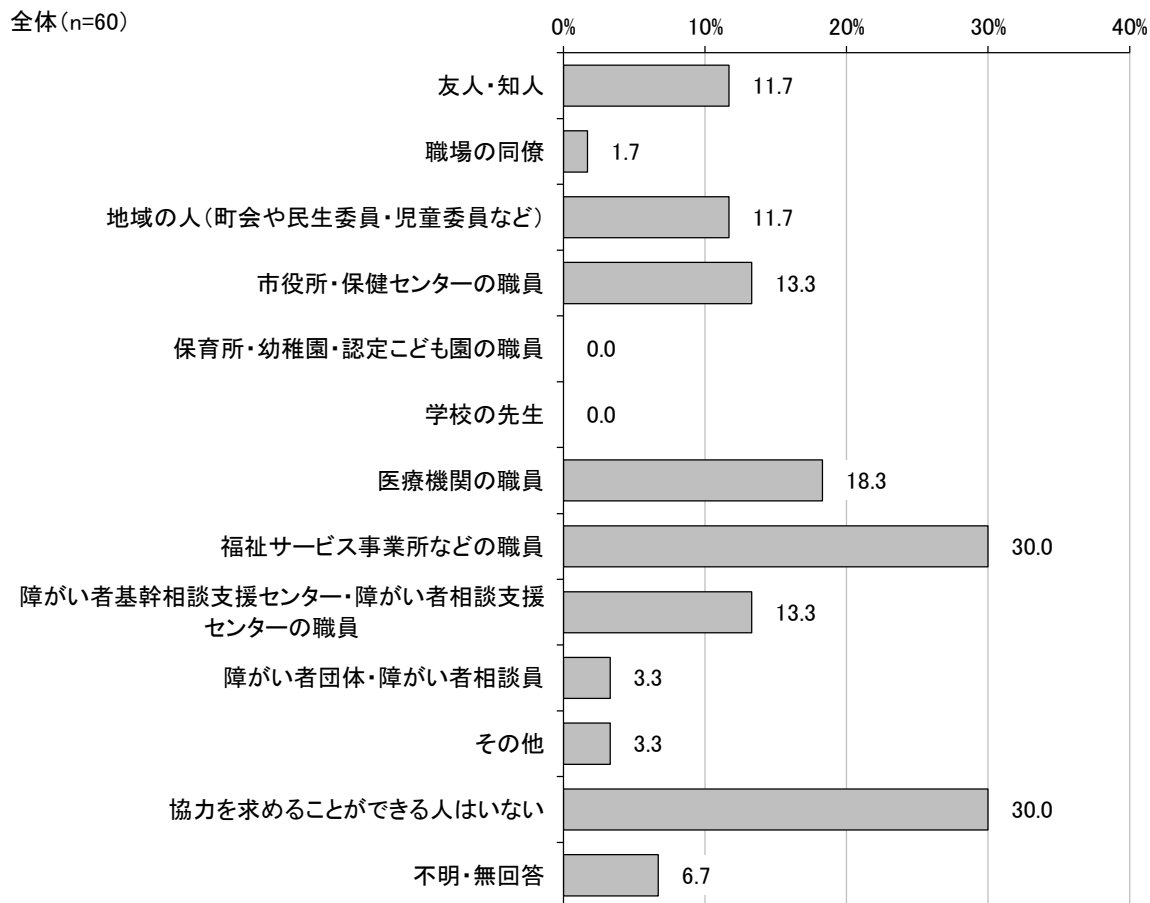
問48 災害時に困ると思うこと、不安に思うことは何ですか。（複数選択）



家族や親族以外に、災害時に協力を求めることができる人について

- ・ 「協力を求めることができる人はいない」「福祉サービス事業所などの職員」がそれぞれ30.0%と最も高く、次いで「福祉サービス事業所などの職員」が30.0%、「医療機関の職員」が18.3%と、専門職が中心となっています。〔問49〕

問49 家族や親族を除いて、災害時に協力を求めることができる人は誰ですか。（複数選択）



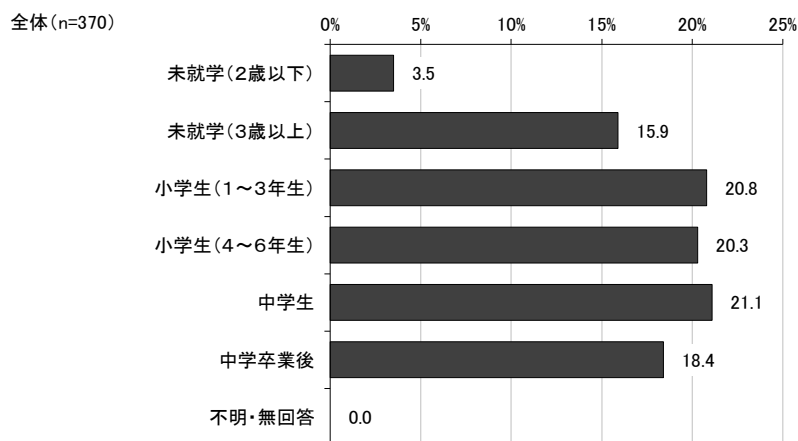
【課題】

- ◆ 「安全な場所に一人で移動できない」という不安が5割を超えています。本人や家族に対し、災害時を想定して不安に感じていること、困るだろうと思うこと等を調査し、福祉や医療、地域住民、防災部局が連携して個別支援計画の整備を進める必要があります。
- ◆ 非常用電源を備えていない世帯が2割を占め、ケア用品の備蓄が充分でない世帯もみられます。人工呼吸器等の医療機器を使用する障がい者にとって、停電は命に関わる問題であり、備蓄について啓発の強化が必要です。
- ◆ 福祉避難所の情報不足や避難所での生活環境への不安が大きな課題となっています。各施設・事業所の業務継続計画（BCP）の策定などを促進し、発災時でも専門職による支援が受けられるよう情報ネットワークの構築が必要です。また、本人や家族に対し、最寄りの避難所や福祉避難所に関する情報を周知する必要があります。

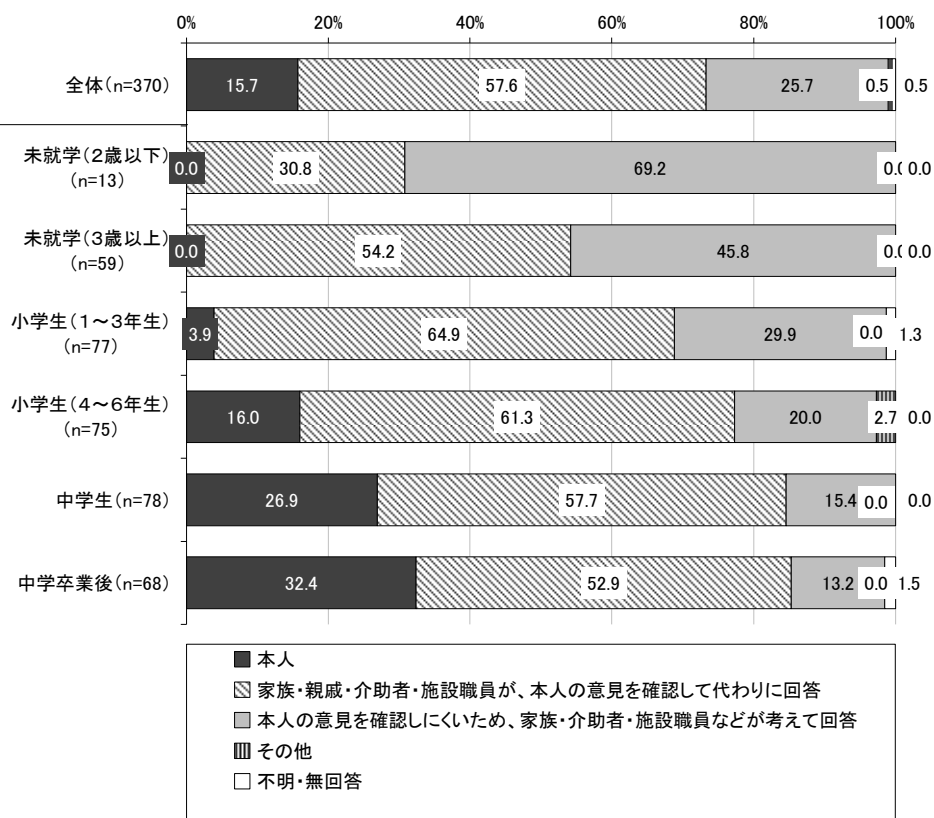
IV 18 歳未満対象調査の結果

1 回答者の属性

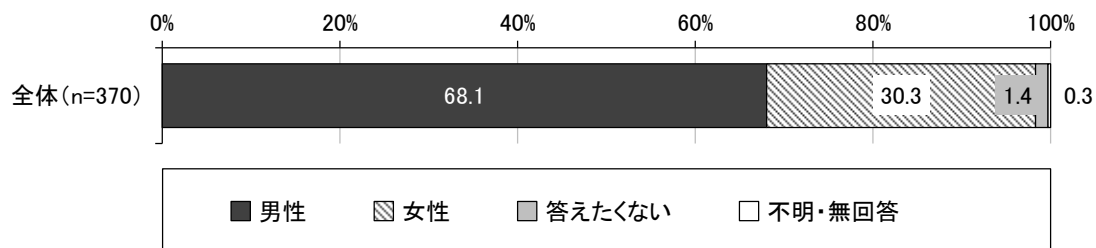
問2 あなたの年齢・学年をお答えください。(令和7年12月1日現在)



問1 お答えいただくのは、どなたですか。(選択は1つ)



問3 あなたの性別をお答えください。(選択は1つ)



問48 あなたがお持ちの手帳の種類は何ですか。(複数選択)

単位: %		身体障がい者手帳	療育手帳	精神障がい者保健福祉手帳	特定医療費(指定難病)受給者証	手帳は持っていない	不明・無回答
全体 (n=370)		17.8	49.7	9.5	2.2	30.3	1.1
年齢・学年別	未就学(2歳以下) (n=13)	30.8	38.5	0.0	0.0	38.5	0.0
	未就学(3歳以上) (n=59)	22.0	50.8	0.0	3.4	33.9	1.7
	小学生(1～3年生) (n=77)	15.6	40.3	6.5	3.9	39.0	1.3
	小学生(4～6年生) (n=75)	9.3	34.7	13.3	1.3	48.0	1.3
	中学生 (n=78)	23.1	59.0	10.3	1.3	21.8	1.3
	中学卒業後 (n=68)	17.6	67.6	17.6	1.5	5.9	0.0

2 18歳未満対象調査各種結果

(1) 育成・就学について

保育園・学校等の在籍状況について

- 年齢・学年別にみると、【未就学（2歳以下）】は「どこにも通っていない」、【未就学（3歳以上）】は「保育園・幼稚園・認定こども園」、【小学生（1～3年生）】【小学生（4～6年生）】は「地域の学校の支援学級」が最も高く、それぞれ5割台～6割半ばとなっています。【中学生】は、「地域の学校の通常学級」が37.2%と最も高く、次いで「地域の学校の支援学級」が34.6%、【中学卒業後】は「特別支援学校」が39.7%と最も高く、「その他」が33.8%（主に高校、通信制高校等の回答）となっています。〔問5〕

問5 あなたは、現在、学校などに在籍していますか。（選択は1つ）

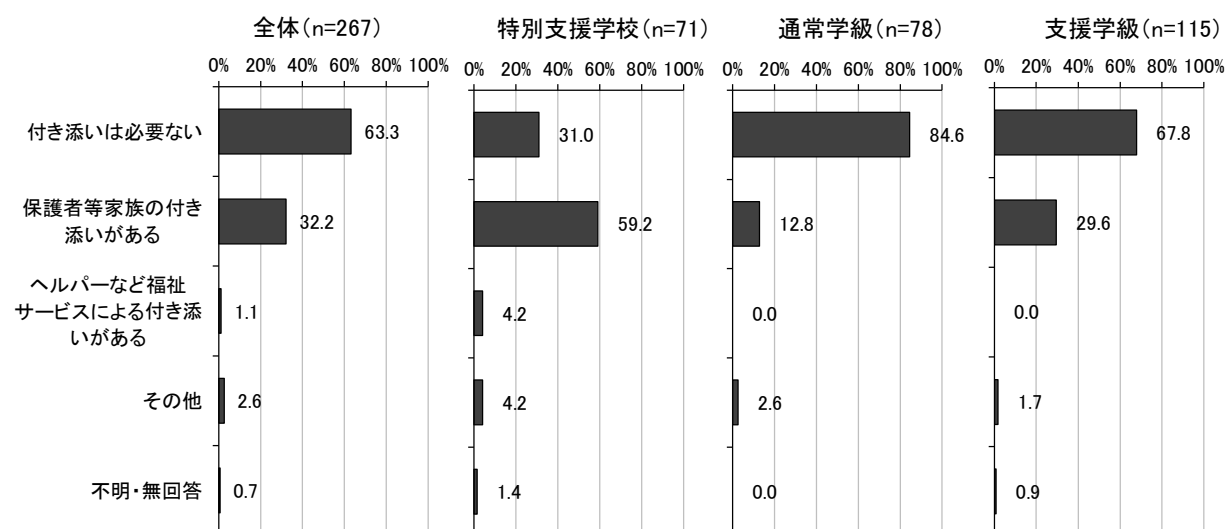
単位：%		ど も 保 育 園 ・ 幼 稚 園 ・ 認 定 こ	特 別 支 援 学 校	地 域 の 学 校 の 通 常 学 級	地 域 の 学 校 の 支 援 学 級	専 門 学 校 な ど	ど 児 童 発 達 支 援 セ ン タ ー な	そ の 他	ど こ に も 通 っ て い な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=370)		11.1	19.2	21.1	31.1	0.8	5.9	7.6	2.7	0.5
年 齢 ・ 学 年 別	未就学(2歳以下) (n=13)	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	23.1	0.0	53.8	0.0
	未就学(3歳以上) (n=59)	64.4	0.0	0.0	0.0	0.0	32.2	1.7	0.0	1.7
	小学生(1～3年生) (n=77)	0.0	20.8	23.4	55.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小学生(4～6年生) (n=75)	0.0	10.7	28.0	56.0	0.0	0.0	2.7	1.3	1.3
	中学生(n=78)	0.0	25.6	37.2	34.6	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0
	中学卒業後(n=68)	1.5	39.7	14.7	2.9	4.4	0.0	33.8	2.9	0.0

主な通学手段と保護者の付き添いの状況

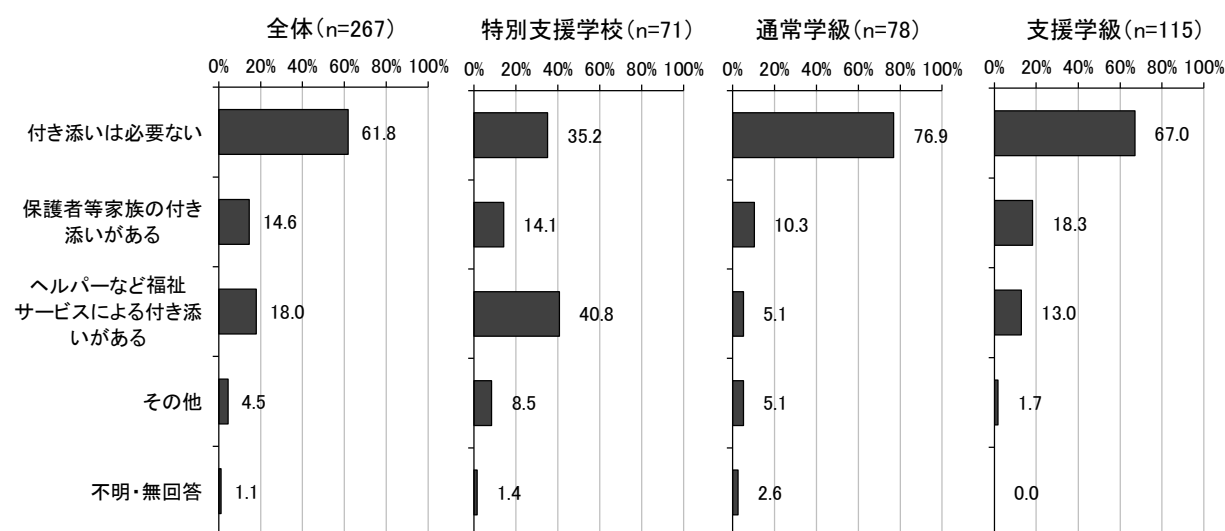
- ・【特別支援学校】は、登校時『保護者等家族の付き添い』(59.2%)があり、「スクールバス」(76.1%)が多くなっています。下校時は『ヘルパーなど福祉サービスによる付き添い』(40.8%)や「付き添いは必要ない」(35.2%)で「通所支援事業所(放課後デイなど)の送迎」(63.4%)が多くなっています。「自家用車」の割合は登下校共に、3%未満となっています。〔問6・問7〕
- ・【通常学級】【支援学級】は、登校時『付き添いは必要ない』(84.6%、67.8%)または【支援学級】は、「保護者等家族の付き添いがある」(29.6%)、「徒歩」(ともに約73%)が多くなっています。下校時は「付き添いは必要ない」(76.9%、67.0%)、「徒歩」(ともに5割台)または、【支援学級】は「通所支援事業所(放課後デイなど)の送迎」(27.0%)が多くなっています。また、登下校ともに「自家用車」が1割台と、【特別支援学校】と比較して高くなっています。〔問6・問7〕

問7 【学校通学者のみ】ふだん、学校への通学に、保護者や福祉サービスによる付き添いが必要ですか。

①登校(選択は1つ)

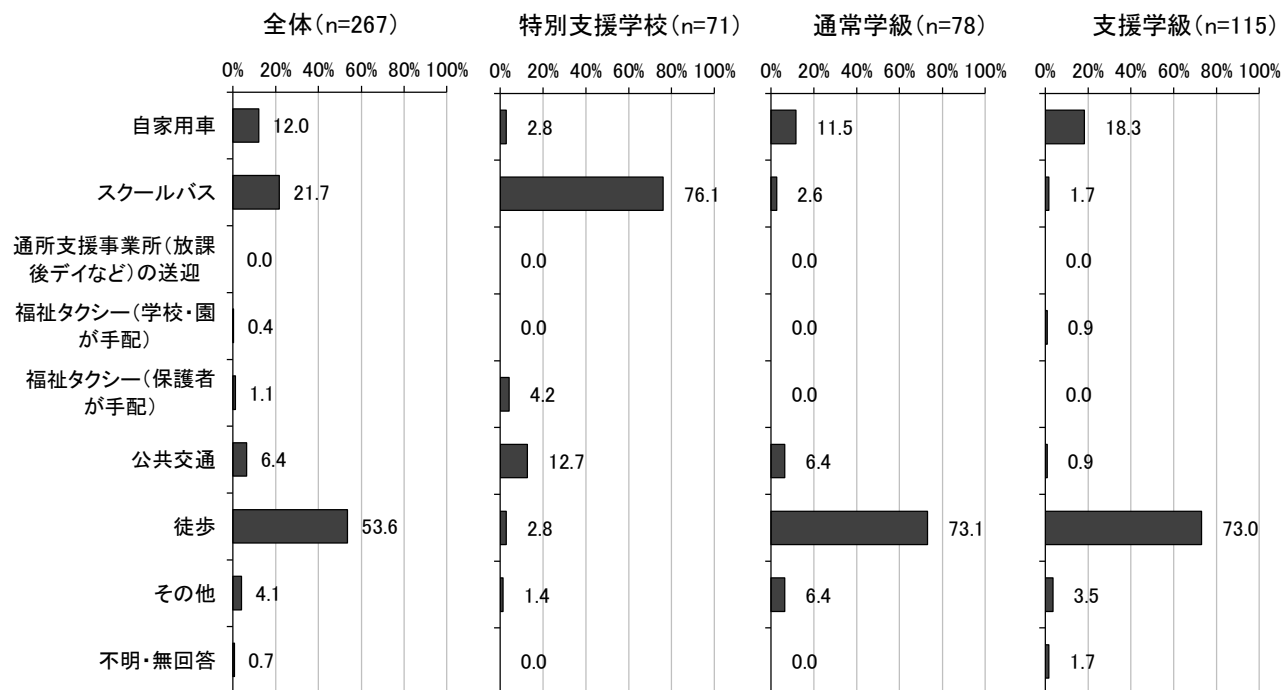


②下校(選択は1つ)

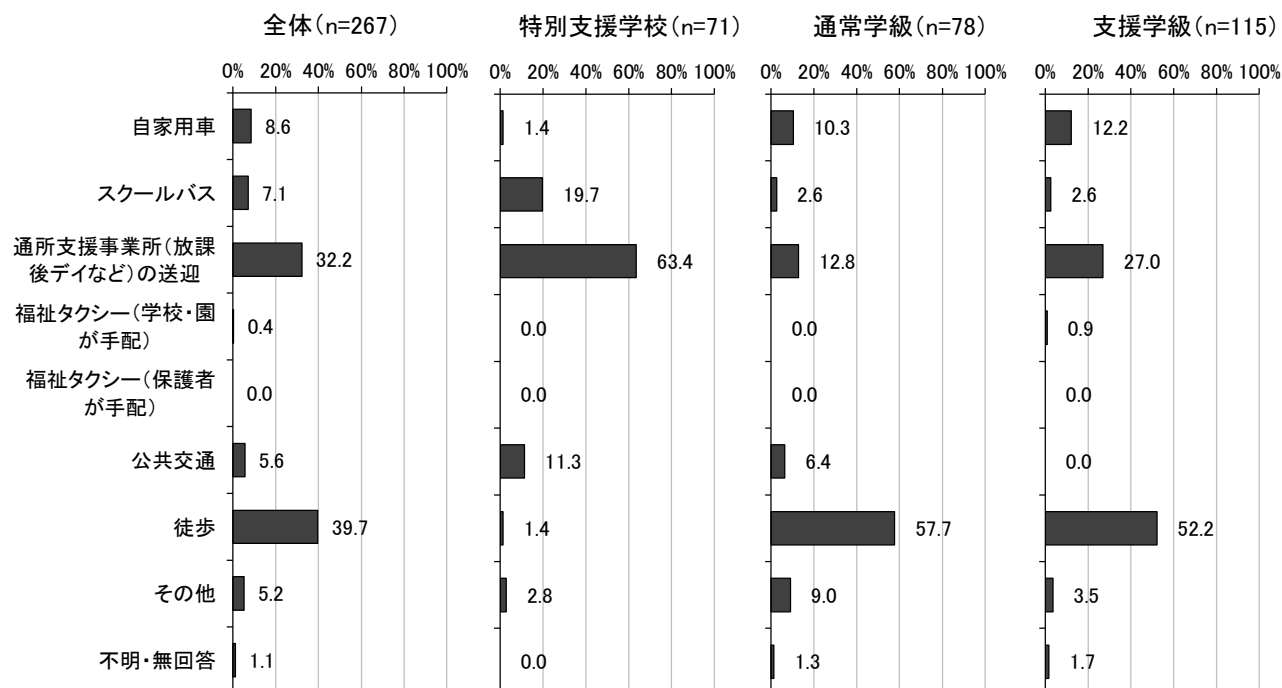


問6 【学校通学者のみ】主な通学手段

①登校（○は1つ）



②下校（○は1つ）

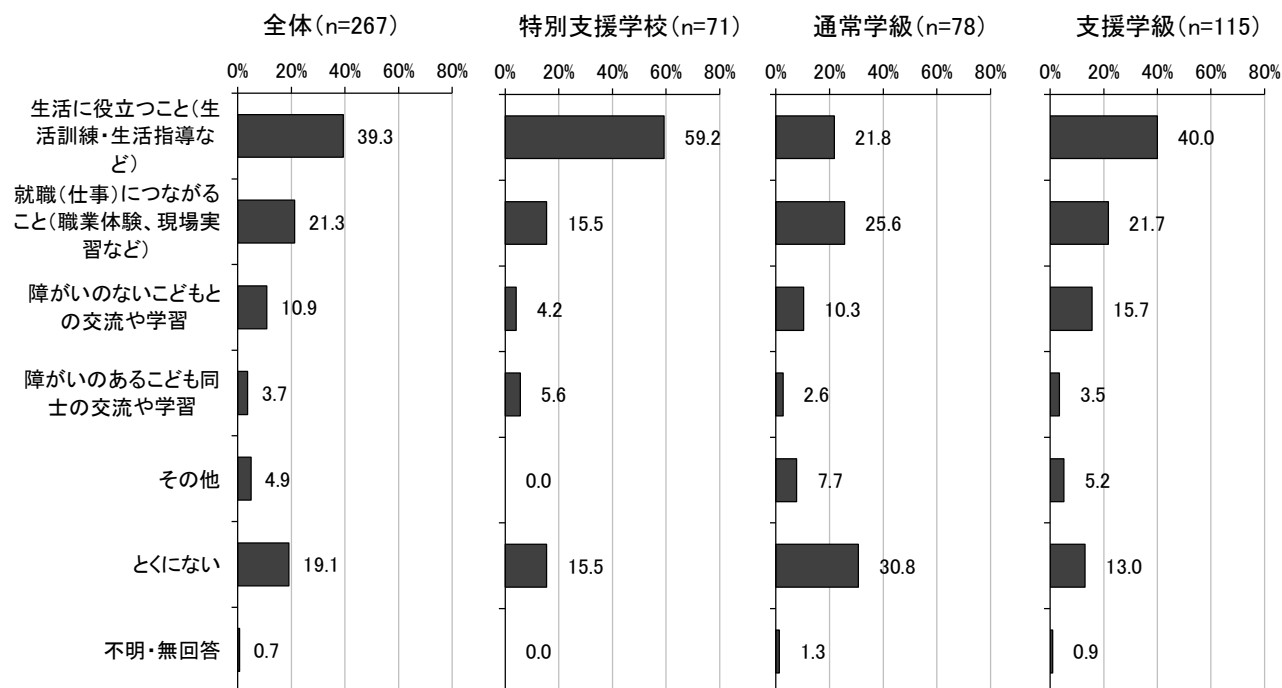


学校などで勉強以外で最もしてほしいこと

- ・【特別支援学校】【支援学級】は「生活に役立つこと（生活訓練・生活指導など）」がそれぞれ 59.2%、40.0%【通常学級】は「とくにない」が 30.8%と最も高くなっています。〔問8〕

問8 【学校通学者のみ】あなたが、学校などで勉強以外で最もしてほしいことは何ですか。

（選択は1つ）



学校・保育園などでの教育・保育で困っていること

- ・【支援学級】は「障がいについて理解している教職員などが少ない」が23.5%、【児童発達支援センターなど】は「障がいのない子どもとの交流が少ない」が31.8%と最も高くなっています。また、「とくに困っていることはない」に次いで、【保育園等】【通常学級】は「障がいについて理解している教職員などが少ない」、【特別支援学校】は「障がいのない子どもとの交流が少ない」が1割台で高くなっています。
- ・年齢・学年別にみると、いずれも「とくに困っていることはない」が最も高く、【未就学（3歳以上）】は「障がいについて理解している教職員などが少ない」「障がいのない子どもとの交流が少ない」、【小学生（4～6年生）】以上は「障がいについて理解している教職員などが少ない」が2番目に高くなっています。〔問12〕

問12 学校・保育園などでの教育・保育で困っていることは何ですか。（複数選択）

単位：％		え学校 でない に在籍 している が通	て希 望する 保育園 や学校 に入れ	て施 設な い設 備が 障が いに対 応し	大 通 園・ 通 学に ついて の負 担が	る保 育・ 教育 の 内容 に不 満が あ	教障 職が い に つ が い て 少 な い 理 解 し て い る	が障 が い の な い こ ど も と の 交 流	そ の 他	と く に 困 っ て い る こ と は な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=370)		4.1	3.0	7.0	9.7	9.2	17.3	8.1	10.5	23.0	30.8
学校・ 保育園 等別	保育園・幼稚園・認定こども園 (n=41)	0.0	12.2	4.9	2.4	14.6	19.5	2.4	2.4	26.8	29.3
	特別支援学校(n=71)	2.8	0.0	9.9	7.0	4.2	5.6	15.5	5.6	23.9	36.6
	地域の学校の通常学級(n=78)	7.7	1.3	7.7	9.0	9.0	17.9	5.1	11.5	30.8	29.5
	地域の学校の支援学級(n=115)	4.3	0.9	7.8	12.2	13.0	23.5	1.7	16.5	17.4	29.6
	児童発達支援センターなど (n=22)	0.0	13.6	4.5	18.2	4.5	9.1	31.8	9.1	13.6	31.8
	その他(n=28)	7.1	0.0	3.6	14.3	3.6	21.4	17.9	7.1	17.9	32.1
年 齢・ 学 年 別	未就学(2歳以下)(n=13)	0.0	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4	0.0	15.4	30.8	23.1
	未就学(3歳以上)(n=59)	0.0	10.2	5.1	8.5	11.9	15.3	15.3	5.1	22.0	30.5
	小学生(1～3年生)(n=77)	3.9	0.0	6.5	6.5	11.7	14.3	6.5	18.2	19.5	32.5
	小学生(4～6年生)(n=75)	5.3	1.3	8.0	10.7	12.0	20.0	6.7	10.7	24.0	26.7
	中学生(n=78)	6.4	0.0	7.7	12.8	7.7	17.9	9.0	14.1	21.8	29.5
	中学卒業後(n=68)	4.4	2.9	8.8	10.3	4.4	19.1	5.9	1.5	26.5	36.8

※学校別「専門学校など（n=3）」「どこにも通っていない（n=10）」は件数が少ないため省略しています。（以下同様）

【課題】

- ◆ 登校については、特別支援学校では約6割、支援学級では約3割に家族が付き添っています。一方、通園・通学についての負担が大きいと感じている人は、特別支援学校、支援学級いずれも概ね全体の1割前後となっています。毎日の送迎に負担を感じている人は多くないものの、保護者の就労制限や精神的・身体的負担となっている場合には、福祉タクシー等多様な送迎支援の活用を検討することが求められます。
- ◆ 通常学級や支援学級において「障がいを理解している教職員の不足」が課題として挙がっています。また、小学校高学年以上の課題として、「学校などに在籍しているが通えていない」層が5%前後存在しており、学校等の職員の障がい理解に対する不安がうかがえます。保育園・学校等の教職員に対する障がい特性に応じた研修や巡回支援等を通して、福祉・教育の両分野で一体的に支援体制を整えていく必要があります。

(2) 進学・就労について

卒業後の進路について

- ・【特別支援学校】は「特別支援学校の小・中・高等部に進学したい」【保育所等】【通常学級】【支援学級】は「地域の小・中・高等学校に進学したい」が最も高く、いずれも現状に近い環境を希望しています。また、【支援学級】は約1割が「特別支援学校の小・中・高等部に進学したい」と回答しています。
- ・年齢・学年別にみると、【未就学（2歳以下）】から【中学生】まで、「地域の小・中・高等学校に進学したい」、【中学卒業後】は「大学・専門学校に進学したい」「一般の会社などに就職したい」が最も高くなっています。また、【未就学（3歳以上）】【中学生】では、「特別支援学校の小・中・高等部に進学したい」が2割台と高くなっています。〔問13〕

問13 あなたは現在の学校などを卒業後、どんな進路を考えていますか。現在どこにも通っていない方は、今後の希望する進路についてお答えください。（選択は1つ）

単位：%		学地 域の 小・ 中・ 高 等 学 校 に 進	部特 別支 援学 校の 小・ 中・ 高 等	大 学・ 専 門 学 校 に 進 学 し た い	し障 たい が い 児 （ 者 ） の 施 設 に 通 所	一 般 の 会 社 な ど に 就 職 し た い	そ の 他	と く に 考 え て い な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=370)		52.4	16.2	7.3	5.1	5.9	5.4	6.5	1.1
学 校 ・ 保 育 園 等 別	保育園・幼稚園・認定こども園 (n=41)	80.5	9.8	2.4	0.0	2.4	2.4	0.0	2.4
	特別支援学校 (n=71)	5.6	46.5	0.0	25.4	9.9	4.2	7.0	1.4
	地域の学校の通常学級 (n=78)	69.2	1.3	14.1	0.0	2.6	2.6	10.3	0.0
	地域の学校の支援学級 (n=115)	72.2	9.6	0.9	0.0	2.6	7.0	6.1	1.7
	児童発達支援センターなど (n=22)	40.9	50.0	0.0	4.5	0.0	4.5	0.0	0.0
	その他 (n=28)	10.7	0.0	39.3	0.0	32.1	7.1	10.7	0.0
年 齢 ・ 学 年 別	未就学(2歳以下) (n=13)	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	7.7
	未就学(3歳以上) (n=59)	67.8	23.7	1.7	1.7	1.7	1.7	0.0	1.7
	小学生(1～3年生) (n=77)	68.8	19.5	2.6	0.0	0.0	1.3	7.8	0.0
	小学生(4～6年生) (n=75)	70.7	13.3	2.7	0.0	1.3	5.3	5.3	1.3
	中学生 (n=78)	47.4	25.6	3.8	2.6	1.3	9.0	9.0	1.3
	中学卒業後 (n=68)	4.4	0.0	27.9	23.5	27.9	7.4	8.8	0.0

進学や進級時の不安について

- ・ いずれの年齢、学年も「新しい環境への対応」が5割後半～6割台で最も高くなっています。次いで【未就学（2歳以下）】【中学生】【中学卒業後】は「進学を決めるための情報」、【小学生（4～6年生）】は「今までの療育・教育内容の引き継ぎについて」「進学を決めるための情報」がともに41.3%となっています。〔問14〕

問14 あなたが進学や進級に際して、どんな不安がありますか、ありましたか。（複数選択）

単位：%		進学を決めるための情報	進学の相談先	き今までの療育・教育内容の引き継ぎについて	新しい環境への対応	進学先への通学方法	放課後などの居場所	受けとられるか	大学・専門学校などで身体的支援がし	その他	不安はない（なかった）	不明・無回答
全体 (n=370)		39.7	28.6	40.0	61.9	21.9	19.7	6.2	5.7	11.4	0.5	
年齢・学年別	未就学(2歳以下) (n=13)	61.5	53.8	46.2	69.2	38.5	30.8	7.7	0.0	7.7	0.0	
	未就学(3歳以上) (n=59)	39.0	28.8	45.8	66.1	22.0	33.9	5.1	6.8	5.1	0.0	
	小学生(1～3年生) (n=77)	39.0	35.1	53.2	57.1	19.5	22.1	3.9	9.1	9.1	1.3	
	小学生(4～6年生) (n=75)	41.3	30.7	41.3	66.7	17.3	20.0	6.7	4.0	10.7	1.3	
	中学生 (n=78)	42.3	25.6	35.9	60.3	30.8	12.8	10.3	6.4	9.0	0.0	
	中学卒業後 (n=68)	32.4	17.6	22.1	58.8	16.2	10.3	4.4	2.9	23.5	0.0	

【課題】

- ◆ 多くのこどもが現状に近い環境を希望する一方で、支援学級から特別支援学校への移行を希望する層も存在します。本人の意見を尊重しつつ、本人にとって最善の利益が図られるよう、進路選択を支援していくことが必要です。
- ◆ 進学や進級時において「新しい環境への対応」に強い不安を抱えていることがうかがえます。「進学を決めるための情報」「今までの療育・教育内容の引き継ぎ」も上位となっています。本人の希望や特性に合わせた環境調整を円滑に進めるため、教育・保育機関と行政、相談支援機関が早期から連携し、進学後の生活を見据えた「移行支援」を強化する必要があります。
- ◆ 「進学を決めるための情報」へのニーズが未就学児から中学卒業後まで一貫して高くなっています。将来を見据えて目標や見通しを持って生活できるよう、本人に合った選択をできるための環境づくりや相談支援体制の構築が求められます。

(3) 障がいへの理解やこどもの意見を伝えることについて

差別や嫌な思いをした経験

- ・ 【未就学（2歳以下）】から【小学生（4～6年生）】では「差別や嫌な思いをしたことはない」が最も高くなっていますが、その割合は学年が上がるにつれて減少しています。【中学生】【中学卒業後】では「学校」が4割前後で最も高くなっています。〔問16〕

問16 直近3年間の日常生活で、差別や嫌な思いをした機会・場所がありますか。（複数選択）

単位: %		学校	職場・仕事	病院	福祉施設	お店	シ ー 電 車 ・ バ ス ・ タ ク	住居・住まい	近所付き合い	役所	その他	差別や嫌な思いをしたこと	不明・無回答
全体 (n=370)		33.5	1.4	5.7	1.6	7.0	4.9	2.4	6.8	3.5	4.9	46.5	1.6
年齢・学年別	未就学(2歳以下) (n=13)	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	69.2	0.0
	未就学(3歳以上) (n=59)	8.5	0.0	6.8	1.7	8.5	3.4	0.0	6.8	1.7	1.7	66.1	1.7
	小学生(1～3年生) (n=77)	33.8	0.0	3.9	5.2	3.9	5.2	2.6	7.8	6.5	9.1	48.1	1.3
	小学生(4～6年生) (n=75)	40.0	0.0	5.3	0.0	4.0	2.7	1.3	6.7	2.7	5.3	45.3	2.7
	中学生(n=78)	44.9	1.3	6.4	0.0	9.0	5.1	1.3	2.6	2.6	3.8	39.7	2.6
	中学卒業後(n=68)	39.7	5.9	5.9	1.5	10.3	8.8	7.4	11.8	2.9	2.9	32.4	0.0

差別や嫌な思いをした時の相談の有無

- ・ 「誰にも相談していない」は全体で22.4%となっています。〔問18①〕

問18 あなたは、差別を受けたり、嫌な思いをしたとき、だれかに相談しましたか。（複数選択）

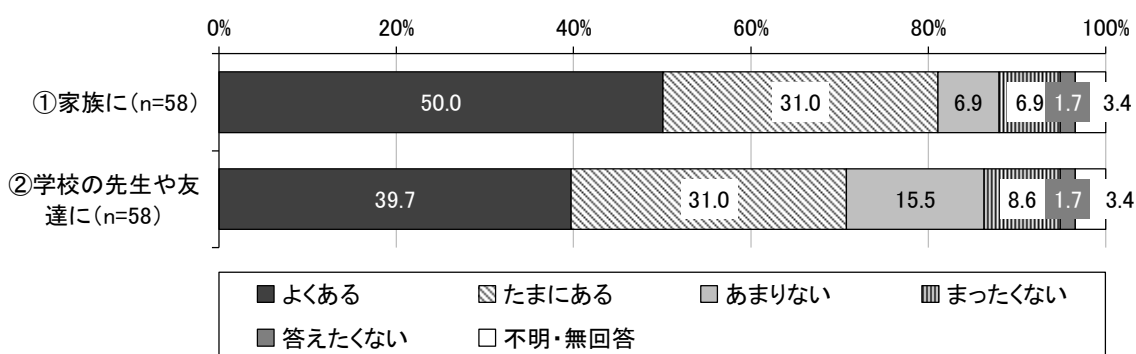
単位：%		家族や友人など、身近な人に相談した	電話相談や相談窓口など、専門機関に相談した	誰にも相談していない	不明・無回答
全体 (n=192)		70.3	3.1	22.4	6.8
年齢・学年別	未就学(2歳以下) (n=4)	75.0	0.0	25.0	0.0
	未就学(3歳以上) (n=19)	63.2	5.3	31.6	5.3
	小学生(1～3年生) (n=39)	71.8	0.0	20.5	7.7
	小学生(4～6年生) (n=39)	82.1	5.1	12.8	5.1
	中学生(n=45)	71.1	4.4	17.8	8.9
	中学卒業後(n=46)	60.9	2.2	32.6	6.5

こども本人が考えや思っていることを話す機会の有無

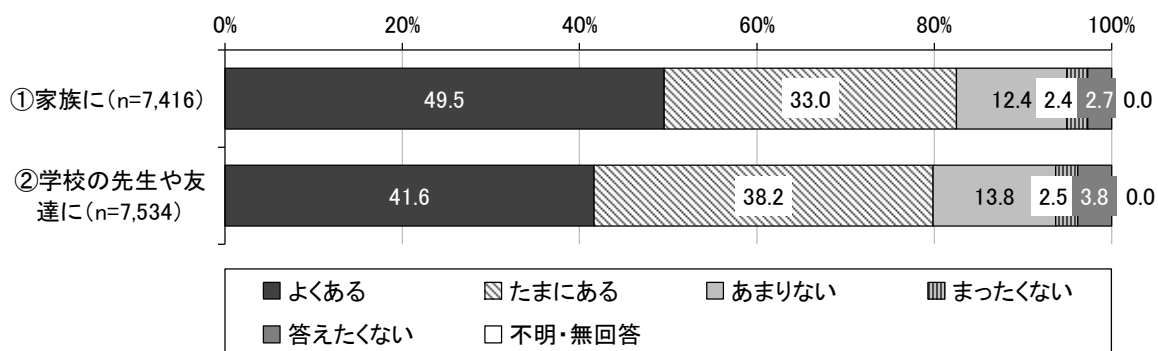
- ・ ①家族に伝える機会について、『ある』（「よくある」「たまにある」の計）は81.0%、『ない』（「あまりない」「まったくない」の計）は13.8%となっています。〔問 22①〕
- ・ ②学校の先生や友達に伝える機会について、『ある』は、70.7%、『ない』は24.1%となっています。〔問 22②〕
- ・ 学校生活実態調査と比較すると、②学校の先生や友達に伝える機会が『ない』の割合がやや高くなっています。

問 22 あなたの考えや思っていることを話す機会がありますか。（それぞれ選択は1つ）

※「本人」記入のみ集計（小学校1～3年生3人、4～6年生12人、中学生21人、中学卒業後22人）



【参考】学校生活実態調査



※学校生活実態調査は、小学5年生～中学3年生本人が回答したもの。

【課題】

- ◆ 成長し、社会とのかかわりが増えることに合わせて、差別や嫌な思いを経験したこどもが増えています。また、経験者の2割程度が、だれにも相談できずに抱えていたと回答しています。学校等での福祉教育の継続的な推進とともに、身近な人には相談できないというこどもをスクールカウンセラーにつないだり、そのほかの相談先を周知啓発するなど、総合的な対策が求められます。
- ◆ こどもの意見表明の機会については、学校の先生や友達に伝える機会が「ない」というこどもが2割半ばとなっています。こどもが自分の気持ちや考えを表明しやすい環境づくりは、不安や悩みを相談しやすい環境づくりにもつながります。こども基本法を踏まえ、障がいの有無にかかわらず、「こども本人の意見を聴き、尊重する」ため、こどもを取り巻く大人たちへの周知啓発など、取組を推進することが求められます。

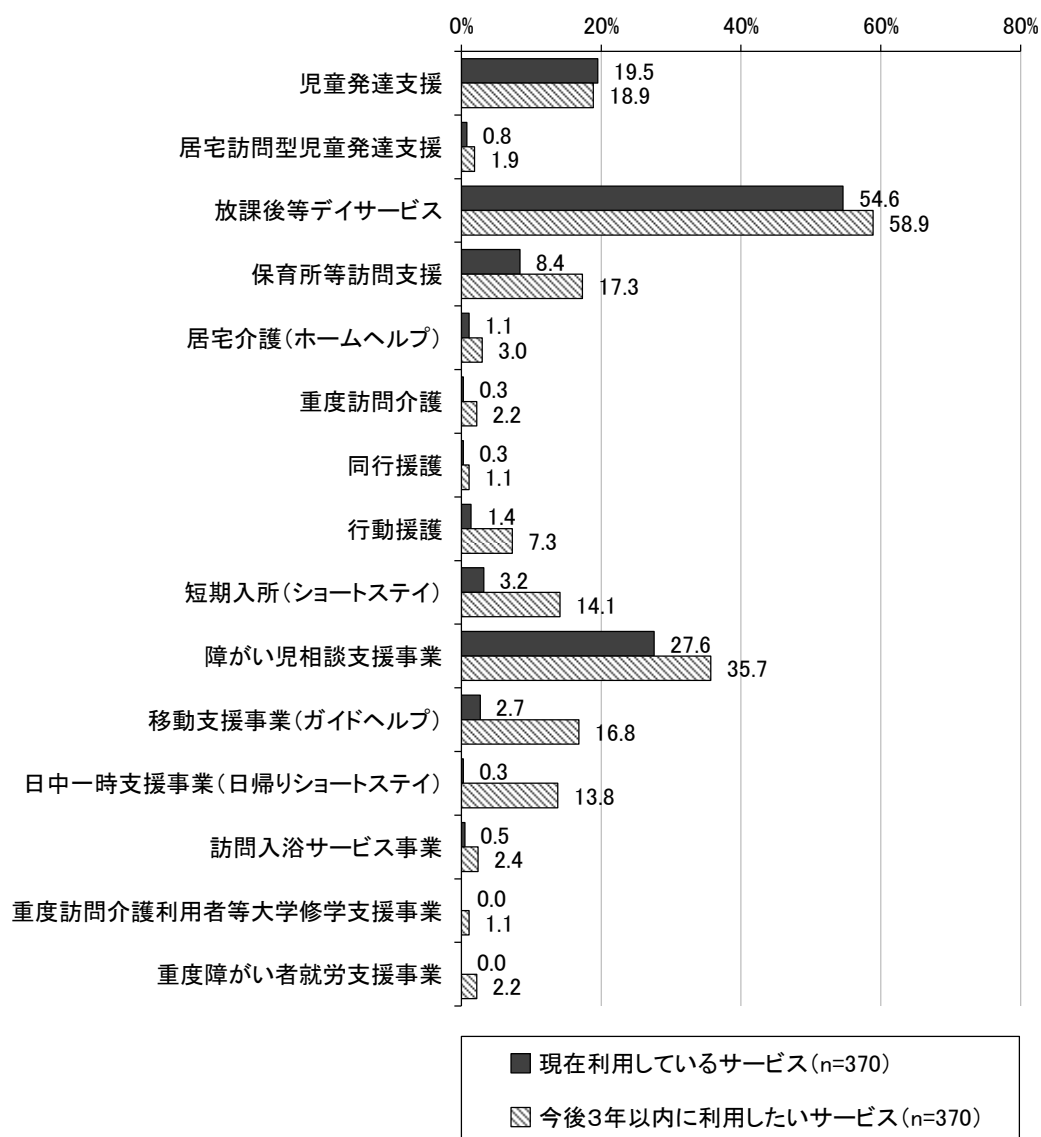
(4) 障がい児福祉サービスの利用について

障がい福祉サービスの利用状況と利用意向

- ・ 現在利用しているサービスについてみると、「放課後等デイサービス」が54.6%と最も高く、次いで「障がい児相談支援事業」が27.6%となっています。今後3年以内に利用したいサービスと比較すると、「短期入所（ショートステイ）」「移動支援事業（ガイドヘルプ）」「日中一時支援事業（日帰りショートステイ）」は、利用希望が10ポイント以上高く、特にニーズの高いサービスとなっています。また、「障がい児相談支援事業」も利用希望が約8ポイント高くなっています。〔問27①②〕

問27①現在障がい福祉サービスを利用していますか。

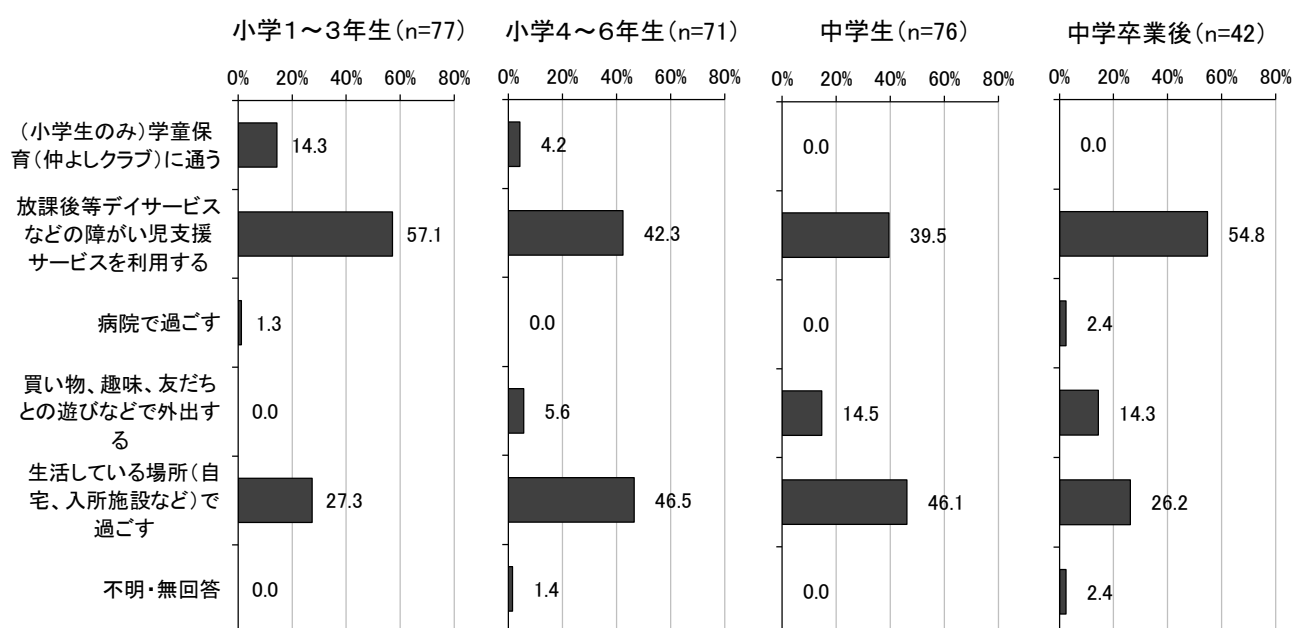
②今後3年以内に利用したい障がい福祉サービスがありますか。



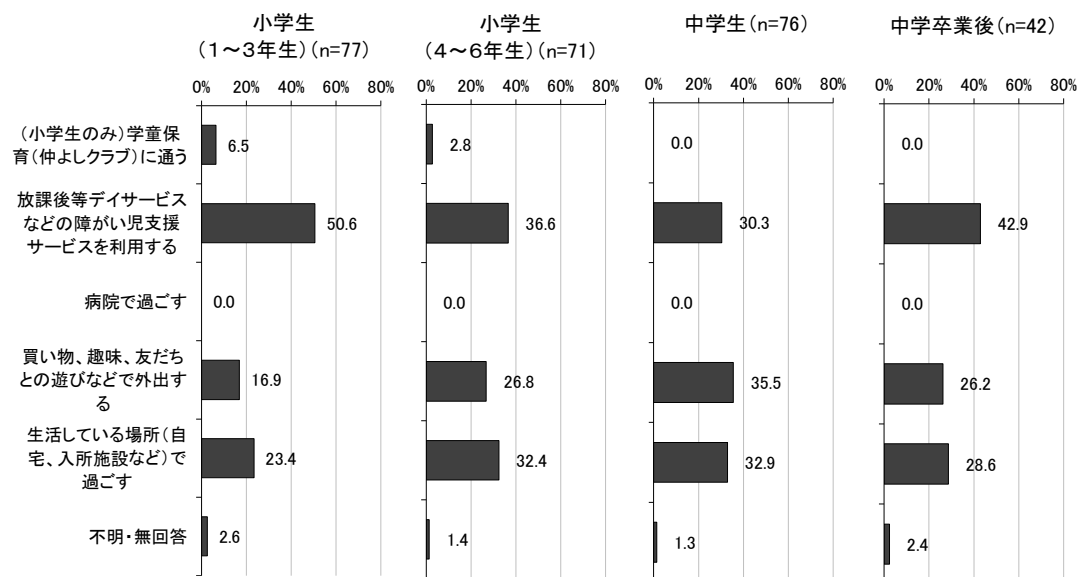
長期休暇の現在の過ごし方と今後の希望

- ・ 現在の過ごし方では、いずれの学年も、「放課後等デイサービスなどの障がい児支援サービスを利用する」「生活している場所（自宅、入所施設など）で過ごす」が上位2項目となっています。〔問9①〕
- ・ 希望する過ごし方では、【小学生（1～3年生）】【中学卒業後】は、「放課後等デイサービスなどの障がい児支援サービスを利用する」が4割～5割と最も高く、【小学生（4～6年生）】【中学生】は「放課後等デイサービスなどの障がい児支援サービスを利用する」「買い物、趣味、友だちとの遊びなどで外出する」「生活している場所（自宅、入所施設など）で過ごす」がそれぞれ2割後半～3割程度と多様な過ごし方を希望しています。〔問9②〕
- ・ 長期休暇の過ごし方について、現状よりも希望の方が高い項目として、いずれの学年も「買い物、趣味、友だちとの遊びなどで外出する」（+10～20ポイント）、希望が上回っています。また、現状よりも希望の方が低い項目として【小学生（4～6年生）】【中学生】では「生活している場所（自宅、入所施設など）で過ごす」（-約13～14ポイント）となっています。〔問9①②〕

問9①今、夏休みや冬休みなど学校が長い休みの日は、どのように過ごしていますか。



問9② 今後は夏休みや冬休みなど学校が長い休みの日をどのように過ごしたいですか。

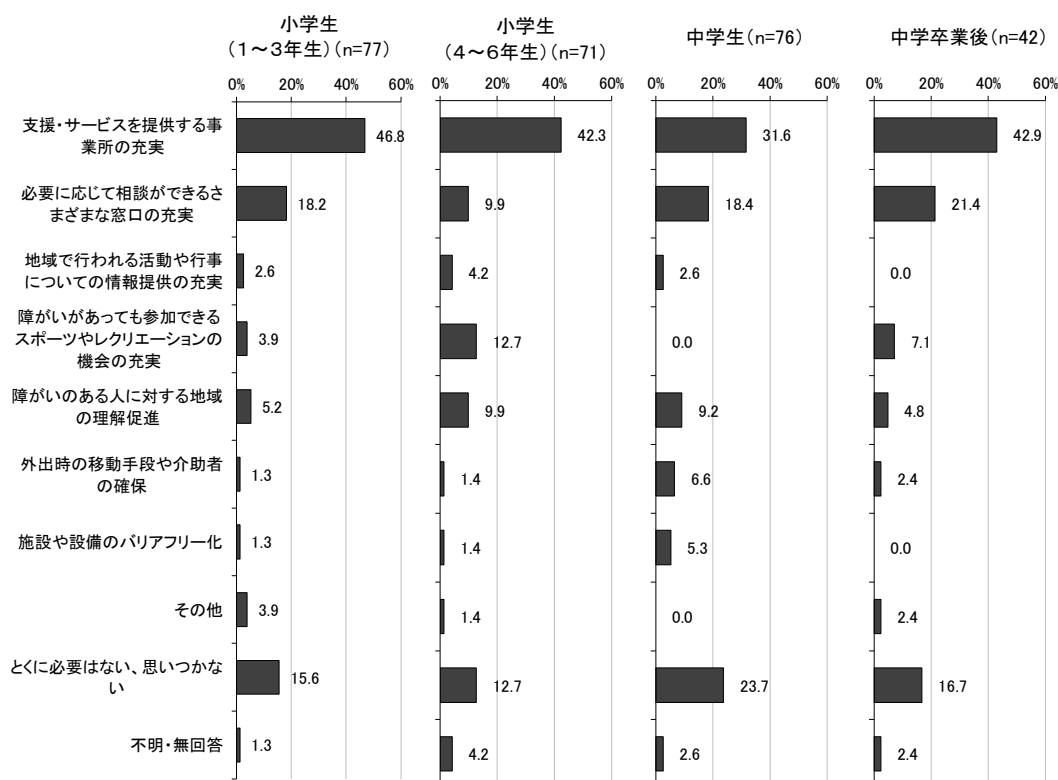


希望する過ごし方を実現するために必要なこと

- ・ いずれの学年も「支援・サービスを提供する事業所の充実」が最も高く、3割台～4割台となっています。【小学生（4～6年生）】では「障がいがあっても参加できるスポーツやレクリエーションの機会の充実」が12.7%、【中学生】【中学卒業後】では「必要に応じて相談ができるさまざまな窓口の充実」が2割前後と、他の学年と比べて高くなっています。〔問10〕

問10 問9②の今後希望する過ごし方を実現するためには、何が必要と思いますか。

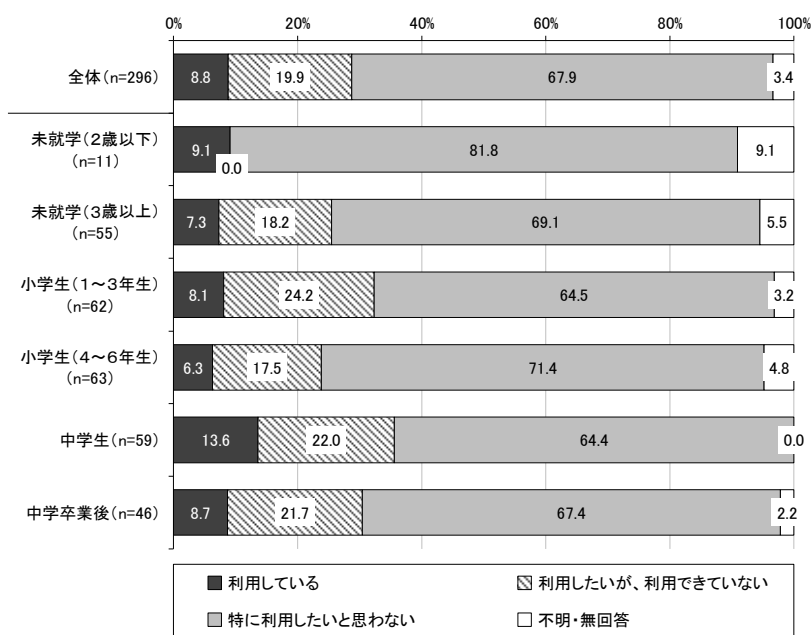
※最も必要だと思うものの1つについての回答



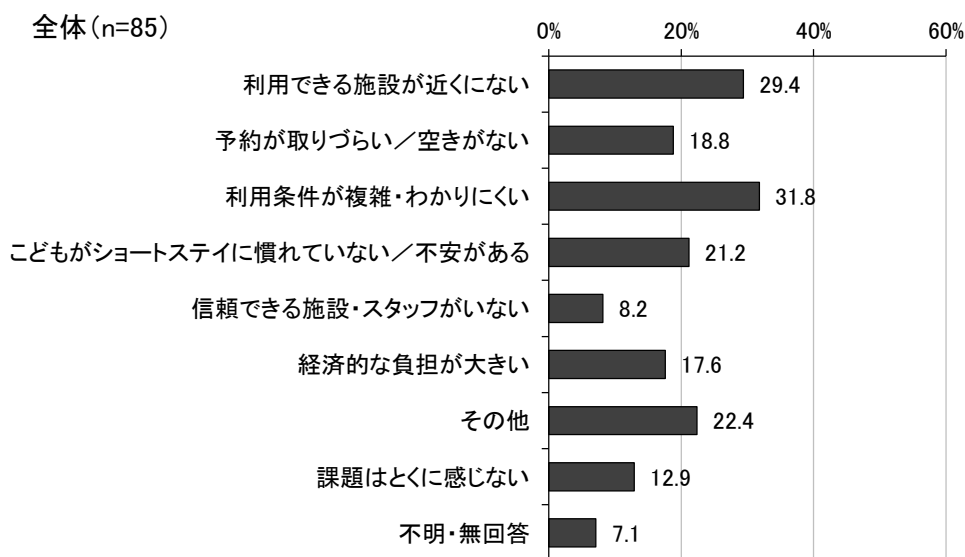
心身の負担軽減（レスパイトケア）について

- ・心身の負担軽減（レスパイトケア）のためのサービス利用については、「利用したいが、利用できていない」は全体で約2割となっています。また、利用にあたっての課題として「利用条件が複雑・わかりにくい」「利用できる施設が近くにない」で約3割の回答があります。〔問 38・39〕

問 38 主な介助者の方は、心身の負担軽減（レスパイトケア）のために、サービスを利用できていますか。（選択は1つ）



問 39 レスパイトを目的としたサービスの利用にあたって、課題に感じるものがあればお答えください。（複数選択）



【課題】

- ◆ 心身の負担軽減（レスパイトケア）について、約2割の人が利用できていない状況にあります。一方、「短期入所（ショートステイ）」や「日中一時支援」について、現在利用していないが今後利用したいという人が約1割という状況であり、それぞれの状況と希望に応じたマネジメントと心身の負担軽減（レスパイトケア）の支援体制が求められています。
- ◆ 障がい児相談支援の利用希望が高まっており、適切なアセスメントに基づくサービス利用が求められています。「令和11年度末までにのぞまないセルフプランを解消する」ことを目標に、相談支援専門員への計画的な働きかけが必要です。
- ◆ 学齢期を中心に、長期休暇において「買い物・趣味・遊び」といった外出を希望する声が多くなっています。特に小学校高学年では、長期休暇中のスポーツやレクリエーション活動への参加機会の拡充等により、こどもたちが多様な経験・社会参加をできる環境が求められています。

(5) 強度行動障がい児や医療的ケア児への対応について

① 報告書における「強度行動障がい傾向」の抽出について

- ・ 本調査では、認定調査の行動関連項目を参考に、調査設問の各項目の回答に対し、0～2点の重みづけを行いました。（22点満点）
- ・ 上記の基準で見ると、18歳未満調査は、370件のうち48件が10点以上、全体の13.0%となります。そのうち、20点以上は3件で、全体の0.8%となります。
- ・ 参考調査の示す割合と概ね同数となることから、本調査においては、10点以上を「強度行動障がい」の状況と仮定し、課題分析を行います。

※18歳未満に占める強度行動障がいの割合については、調査によって差があります。本調査では、可能性も含めた区分として「強度行動障がい児」と表記しています。

【18歳未満調査における判定項目】

調査項目		選択肢ごとの得点		
問番号	設問	0点	2点	4点
問 51④	日常生活の中で、次の支援が必要ですか。 「家族以外の人とのコミュニケーション」	不要	一部必要	必要

※「家族以外の人とのコミュニケーション」は、行動関連項目「コミュニケーション」「説明の理解」の2項目に相当すると仮定し、公道関連項目で示される点数を2倍している。

調査項目		選択肢ごとの得点		
問番号	設問	0点	1点	2点
問 52①	大声・奇声を出す	ほとんどない・ 全くない	週に1回以上ある	ほぼ毎日ある
問 52②	食べられないものを口に入れたりする	問 52①と同様		
問 52③	多動・行動停止			
問 52④	不安定な行動（パニック状態になるなど）			
問 52⑤	自らを傷つける行為			
問 52⑥	他人を傷つける行為			
問 52⑦	不適切な行為			
問 52⑧	突発的な行動			
問 52⑨	過食・反すう			

※行動関連項目はこのほか「てんかん」も項目としてあるが、本調査では把握していない。

② 報告書における「医療的ケア児」の抽出について

- ・本調査では、「問 53 あなたは、次のような医療的ケアを受けていますか。」において、何らかのケアを受けている人を「医療的ケア児」として抽出しています。

No.		【18歳未満全体(n=370)】 (件)
1	気管切開の処置	6
2	人工呼吸器(レスピレーター)	4
3	吸入	7
4	たん吸引	8
5	酸素療法	12
6	経管栄養(胃ろう・腸ろうなど)	8
7	鼻腔経管栄養	3
8	中心静脈栄養(IVH)	0
9	導尿	4
10	透析	0
11	カテーテル留置	0
12	ストマ	1
13	床ずれ(じよく瘡)の処置	3
14	その他	4
15	医療的ケアは受けていない	310
	不明・無回答	34

18歳未満 370 件より、以下を除いた 24 件が対象

- ・「その他」のみを選択（2 件）
- ・医療的ケアは受けていない（310 件）
- ・不明・無回答（34 件）

③ 通学状況や地域生活等について

保育園・学校等の在籍状況について

- ・在籍状況については、【医療的ケア児】【強度行動障がい児】ともに「特別支援学校」がそれぞれ7件、20件で最も多くなっています。それぞれ、年齢・学年別の件数は以下の通りです。

問5 在籍状況

単位:件		保育園・幼稚園・認定こども園	特別支援学校	地域の学校の通常学級	地域の学校の支援学級	専門学校など	児童発達支援センターなど	その他	どこにも通っていない	不明・無回答
医療的ケア児	合計(n=24)	2	7	2	4	0	5	1	3	0
	年齢・学年別									
	未就学(2歳以下)(n=3)	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	未就学(3歳以上)(n=8)	2	0	0	0	0	5	1	0	0
	小学生(1～3年生)(n=1)	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	小学生(4～6年生)(n=6)	0	2	1	3	0	0	0	0	0
	中学生(n=3)	0	2	0	1	0	0	0	0	0
	中学卒業後(n=3)	0	3	0	0	0	0	0	0	0
強度行動障がい児	合計(n=48)	5	20	4	9	1	5	1	2	1
	年齢・学年別									
	未就学(2歳以下)(n=2)	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	未就学(3歳以上)(n=10)	5	0	0	0	0	5	0	0	0
	小学生(1～3年生)(n=15)	0	7	2	6	0	0	0	0	0
	小学生(4～6年生)(n=9)	0	3	2	3	0	0	0	0	1
	中学生(n=4)	0	4	0	0	0	0	0	0	0
	中学卒業後(n=8)	0	6	0	0	1	0	1	0	0

主な通学手段の状況

- ・登校手段は【医療的ケア児】は「自家用車」が5件、【強度行動障がい児】は「スクールバス」が20件で最も多くなっています。下校手段は、【医療的ケア児】【強度行動障がい児】ともに「通所支援事業所（放課後デイなど）の送迎」がそれぞれ6件、23件で最も多く、障がい児全体と同様の傾向となっています。

問6 あなたの主な通学手段についてお答えください。

登校（○は1つ）

No.		【医療的ケア児 (n=13)】(件)	【強度行動障 がい児(n= 34)】(件)
1	自家用車	5	2
2	スクールバス	3	20
3	通所支援事業所（放課後デイなど）の送迎	0	0
4	福祉タクシー（学校・園が手配）	0	0
5	福祉タクシー（保護者が手配）	3	0
6	公共交通	0	1
7	徒歩	2	11
8	その他	0	0
	不明・無回答	0	0

下校（○は1つ）

No.		【医療的ケア児 (n=13)】(件)	【強度行動障 がい児(n= 34)】(件)
1	自家用車	3	0
2	スクールバス	2	3
3	通所支援事業所（放課後デイなど）の送迎	6	23
4	福祉タクシー（学校・園が手配）	0	0
5	福祉タクシー（保護者が手配）	0	0
6	公共交通	0	1
7	徒歩	2	7
8	その他	0	0
	不明・無回答	0	0

通学時の保護者の付き添いの状況

- ・登校時は、【医療的ケア児】【強度行動障がい児】ともに「保護者等家族の付き添いがある」が最も多く、下校時は【医療的ケア児】は「保護者等家族の付き添いがある」「ヘルパーなど福祉サービスによる付き添いがある」がともに5件、【強度行動障がい児】は「ヘルパーなど福祉サービスによる付き添いがある」が14件、次いで「付き添いは必要ない」が12件となっています。

問7 ふだん、学校への通学に、保護者や福祉サービスによる付き添いが必要ですか。

登校（○は1つ）

No.		【医療的ケア児 (n=13)】(件)	【強度行動障 がい児(n=34)】(件)
1	付き添いは必要ない	1	9
2	保護者等家族の付き添いがある	8	24
3	ヘルパーなど福祉サービスによる付き添いがある	2	0
4	その他	2	0
5	不明・無回答	0	1

下校（○は1つ）

No.	(n=24)	【医療的ケア児 (n=13)】(件)	【強度行動障 がい児(n=34)】(件)
1	付き添いは必要ない	1	12
2	保護者等家族の付き添いがある	5	6
3	ヘルパーなど福祉サービスによる付き添いがある	5	14
4	その他	2	1
5	不明・無回答	0	1

学校などで勉強以外で最もしてほしいこと

- ・【医療的ケア児】【強度行動障がい児】ともに「生活に役立つこと（生活訓練・生活指導など）」がそれぞれ5件、21件で最も多くなっています。

問8 あなたが、学校などで勉強以外で最もしてほしいことは何ですか。（選択は1つ）

No.		【医療的ケア児 (n=13)】(件)	【強度行動障 がい児(n=34)】(件)
1	生活に役立つこと(生活訓練・生活指導など)	5	21
2	就職(仕事)につながること(職業体験、現場実習など)	3	5
3	障がいのないこどもとの交流や学習	2	4
4	障がいのあるこども同士の交流や学習	0	1
5	その他	0	2
6	とくにない	3	1
	不明・無回答	0	0

困ったことや心配に思っていることの相談先について

- ・「家族」に次いで、【医療的ケア児】は「病院の主治医・看護師・相談員」が11件、【強度行動障がい児】は、「保育園・学校の先生」「障がい児相談支援事業所（計画相談）の相談員」がともに20件と多くなっています。また、「誰・どこにも相談しない」は【医療的ケア児】で2件、【強度行動障がい児】で4件の回答があります。

問 15①困ったことや心配に思っていることを誰に相談しますか。（複数選択）

No.		【医療的ケア児 (n=24)】(件)	【強度行動障 がい児(n= 48)】(件)
1	家族	16	33
2	親せき	3	7
3	友人・知人、近所の人	7	14
4	保育園・学校の先生	4	20
5	障がい児相談支援事業所(計画相談)の相談員	4	20
6	訪問看護ステーションの人	7	7
7	通所支援事業所など福祉サービス事業所の人	9	17
8	市の窓口(障がい福祉課・子育て支援室・保健センターなど)	6	7
9	病院の主治医・看護師・相談員	11	14
10	大阪府和泉保健所	7	1
11	障がい者団体の人	2	0
12	民生委員・児童委員	0	0
13	インターネット、SNSなど	7	5
14	その他	0	1
15	誰・どこにも相談しない(その理由を簡潔に)	2	4
	不明・無回答	0	0

差別や嫌な思いをした経験

- ・【医療的ケア児】【強度行動障がい児】ともに「差別や嫌な思いをしたことはない」が14件、16件と最も多く、【強度行動障がい児】は、「学校」も15件と多くなっています。差別や嫌な思いを経験したとき、「誰にも相談していない」は、【医療的ケア児】で3件、【強度行動障がい児】で11件の回答があります。

問 16 直近3年間の日常生活で、差別や嫌な思いをした機会・場所がありますか。(複数選択)

No.		【医療的ケア児 (n=24)】(件)	【強度行動障 がい児(n=48)】(件)
1	学校	3	15
2	職場・仕事	0	1
3	病院	3	7
4	福祉施設	1	2
5	お店	5	6
6	電車・バス・タクシー	0	4
7	住居・住まい	0	2
8	近所付き合い	0	9
9	役所	1	3
10	その他	3	2
11	差別や嫌な思いをしたことはない	14	16
	不明・無回答	0	1

問 18 あなたは、差別を受けたり嫌な思いをしたとき、だれかに相談しましたか。(複数選択)

No.		【医療的ケア児 (n=10)】(件)	【強度行動障 がい児(n=31)】(件)
1	家族や友人など、身近な人に相談した	6	17
2	電話相談や相談窓口など、専門機関に相談した	0	2
3	誰にも相談していない	3	11
	不明・無回答	1	3

きょうだい児や家族が抱える不安や悩みについて

- ・【医療的ケア児】では「きょうだい児の生活に負担をかけているように思う」が9件【強度行動障がい児】では「きょうだい児がストレスを抱えているように感じる」「きょうだい児の生活に負担をかけているように思う」がそれぞれ15件以上と多くなっています。

問 42 きょうだい児や家族が抱える、生活上の不安や悩みについて、あてはまるものを選択してください。（複数選択）

No.		【医療的ケア児 (n=19)】(件)	【強度行動障 がい児(n= 43)】(件)
1	きょうだい児がストレスを抱えているように感じる	4	17
2	きょうだい児の勉強を見たり、話をする時間がない	4	8
3	きょうだい児の用事(予防接種等)にあてる時間がない	0	5
4	きょうだい児の授業参観や学校行事に参加できない	1	1
5	きょうだい児の生活に負担をかけているように思う	9	15
6	その他	1	1
7	あてはまるものはない	7	13
	不明・無回答	2	7

④ 障がい福祉サービス等の利用について

障がい福祉サービスの利用状況と利用意向

- ・サービスの利用について現在と今後3年間の希望をみると、【医療的ケア児】は「放課後等デイサービス」「日中一時支援事業（日帰りショートステイ）」で、それぞれ、希望が4件以上、上回っています。【強度行動障がい児】では、「行動援護」「短期入所（ショートステイ）」「障がい児相談支援事業」「移動支援事業（ガイドヘルプ）」「日中一時支援事業（日帰りショートステイ）」で希望が10件以上上回り、地域生活支援事業等のニーズが特に高くなっています。

問 27①現在障がい福祉サービスを利用していますか。

②今後3年以内に利用したい障がい福祉サービスがありますか。

No.		【医療的ケア児(n=24)】(件)			【強度行動障がい児(n=48)】(件)		
		現在 サ ー ビ ス を 利 用 し て い る	今 後 3 年 以 内 に ス リ	今 後 一 現 在	現在 サ ー ビ ス を 利 用 し て い る	今 後 3 年 以 内 に ス リ	今 後 一 現 在
1	児童発達支援	7	8	1	14	15	1
2	居宅訪問型児童発達支援	0	1	1	1	1	-
3	放課後等デイサービス	10	14	4	32	37	5
4	保育所等訪問支援	0	3	3	7	14	7
5	居宅介護(ホームヘルプ)	2	3	1	1	2	1
6	重度訪問介護	1	4	3	0	1	1
7	同行援護	0	1	1	1	1	-
8	行動援護	0	0	-	3	13	10
9	短期入所(ショートステイ)	4	7	3	5	17	12
10	障がい児相談支援事業	8	8	-	18	30	12
11	移動支援事業(ガイドヘルプ)	1	4	3	4	16	12
12	日中一時支援事業(日帰りショートステイ)	0	5	5	1	15	14
13	訪問入浴サービス事業	1	3	2	1	1	-
15	重度訪問介護利用者等大学修学支援事業	0	0	-	0	1	1
16	重度障がい者就労支援事業	1	0	-1	0	3	3

障がい福祉サービスなどを利用して不満に思うこと

- ・特に【強度行動障がい児】で「利用したい日・時間に利用できない」「利用回数・時間などに制限がある」が15件以上となっています。

問 30 障がい福祉サービスなどを利用して不満に思うことは何ですか。(複数選択)

No.		【医療的ケア児 (n=24)】(件)	【強度行動障 がい児(n=48)】(件)
1	サービス内容が障がい特性にあっていない	1	8
2	家から近いところでサービスを利用できない	3	8
3	利用したい日・時間に利用できない	2	16
4	利用回数・時間などに制限がある	2	18
5	利用料が高い	3	10
6	急な変更に応じてもらえない	1	6
7	本人や家族の意向を尊重してもらえない	0	0
8	プライバシーなどの配慮に欠けている	0	3
9	利用したい事業所が見つからない	2	6
10	利用できる事業所が見つからない	3	7
11	同性からの介助が受けられない	1	1
12	その他	1	1
13	とくに不満はない	8	9
14	サービスを利用したことがない	5	3
	不明・無回答	1	2

介助者の心身の負担軽減（レスパイトケア）の状況

- ・心身の負担軽減（レスパイトケア）のためのサービス利用については、【医療的ケア児】は、「特に利用したいと思わない」が12件、【強度行動障がい児】は、「利用したいが、利用できていない」が20件となっています。また、利用にあたっての課題として「利用条件が複雑・わかりにくい」が【強度行動障がい児】で12件の回答があり、18歳未満全体と同様の傾向となっています。

問 38 【主な介助者が家族・親族の方のみ】主な介助者の方は、心身の負担軽減（レスパイトケア）のために、サービスを利用できていますか。(選択は1つ)

No.		【医療的ケア児 (n=19)】(件)	【強度行動障 がい児(n=43)】(件)
1	利用している	4	5
2	利用したいが、利用できていない	3	20
3	特に利用したいと思わない	12	16
	不明・無回答	0	2

問 39 【利用経験者・希望者のみ】レスパイトを目的としたサービスの利用にあたって、課題に感じることがあればお答えください。(複数選択)

No.		【医療的ケア児 (n=7)】(件)	【強度行動障 がい児(n=25)】(件)
1	利用できる施設が近くにない	2	8
2	予約が取りづらい／空きがない	1	5
3	利用条件が複雑・わかりにくい	2	12
4	こどもがショートステイに慣れていない／不安がある	3	7
5	信頼できる施設・スタッフがいらない	1	4
6	経済的な負担が大きい	1	5
7	その他	1	3
8	課題はとくに感じない	1	1
	不明・無回答	0	0

⑤ 安心・安全について

地震や台風などへの備えについて

- ・災害時の備えについてみると、【医療的ケア児】【強度行動障がい児】ともに「水・食料・日用品などを準備している」がそれぞれ16件、31件と最も多くなっています。【医療的ケア児】では、「避難行動要支援者の登録をしている」は9件ありますが、「避難行動要支援者の登録をし、さらに個別支援計画を作成している」は回答がありません。【強度行動障がい児】は、「避難行動要支援者の登録をしている」が7件、「避難行動要支援者の登録をし、さらに個別支援計画を作成している」は3件の回答となっています。

問 45 あなたは、地震や台風などに備え、日頃からどのような準備をしていますか。(複数選択)

No.		【医療的ケア児 (n=24)】(件)	【強度行動障 がい児(n=48)】(件)
1	水・食料・日用品・医薬品などを準備している	16	31
2	避難所までの経路や方法を確認できている	5	19
3	家族や親族などに手助けを求められるようにしている	8	13
4	避難行動要支援者の登録をしている	9	7
5	避難行動要支援者の登録をし、さらに個別支援計画を作成している	0	3
6	ケアに必要な医療機器(呼吸器、吸引器など)の電源(蓄電池など)を備えている	11	3
7	ケアに必要な薬や用品を備えている	11	6
8	その他	1	0
9	とくに何もしていない	2	6
	不明・無回答	0	1

災害時に困ると思うこと、不安に思うこと

- ・災害時に課題と感じていることについてみると、【医療的ケア児】では、「障がいや病気のある人を対象とした福祉避難所が少ない、情報がない」が13件、【強度行動障がい児】は、「安全な場所に一人で移動できない」が29件と最も多くなっています。また、【医療的ケア児】では、避難指示が出た時、「自宅」で過ごすが14件と、半数以上を占めています。

問 46 災害時に困ると思うこと、不安に思うことは何ですか。(複数選択)

No.		【医療的ケア児 (n=24)】(件)	【強度行動障 がい児(n=48)】(件)
1	災害に関する情報が手に入らない	0	8
2	安全な場所に一人で移動できない	12	29
3	建物の構造や設備、個室がないなどの理由で、避難所で生活できない	7	20
4	周囲の理解やコミュニケーション、介護などの面で、避難所で生活できない	7	20
5	障がいや病気のある人を対象とした福祉避難所が少ない、情報がない	13	21
6	医療的なケアや医薬品の提供がない、情報がない	11	1
7	避難訓練など、事前の準備ができない	2	1
8	その他	0	2
	不明・無回答	0	1

問 47 あなたは、避難指示が出たとき、どこで過ごそうと考えていますか。(選択は1つ)

No.		【医療的ケア児 (n=24)】(件)	【強度行動障 がい児(n=48)】(件)
1	自宅	14	33
2	避難所	6	9
3	福祉避難所	2	1
4	医療機関	1	1
5	事業所	0	0
6	その他	1	2
	不明・無回答	0	2

【課題】

- ◆ 不安や悩みを「誰にも相談しない」や、きょうだい児の負担感・ストレスを心配する声が一定数みられます。児童発達支援センター等を中心に、サービスを利用していない世帯も含めて家族を孤立させないための包括的な支援体制が求められます。
- ◆ 【強度行動障がい児】において、移動支援やショートステイ等の地域生活支援事業へのニーズが高いものの、希望内容との差がある状況です。特性に応じたマネジメントを担う人材育成への支援や、多様な課題に対応できる支援体制の構築が求められます。
- ◆ 【強度行動障がい児】の約3割が「学校」で差別や嫌な思いを経験しています。また、差別等の経験を誰にも相談できていない方も一定数存在しています。強度行動障がいは、支援が必要な「特性」であるということの理解浸透を図ることが必要です。
- ◆ 【医療的ケア児】では、避難指示が出ても半数以上が「自宅」に留まることを選択しています。最近では、障がいの有無にかかわらず、現実的な避難方法として自宅避難が選択される方向です。災害時において、医療の継続および生命維持に必要なケアを確実に継続できる体制を確保するとともに、在宅での安全確保および必要時の速やかな移送を可能とする体制整備が求められます。まずは避難行動要支援者の登録による地域での見守りと、それぞれの状況に応じた個別避難計画の作成による対象者の把握および実態の整理が必要です。